

---

---

# 玉野市 男女共同参画に関する意識調査

---

---

－ 報告書 －

平成28年10月

岡山県 玉野市



# ～ 目 次 ～

<b>I</b>	<b>調査の概要</b>	<b>1</b>
<b>II</b>	<b>回答者の属性</b>	<b>3</b>
	1 性別	3
	2 年齢別構成	3
	3 職業別構成	4
	4 世帯構成	5
	(1) 同居世帯構成	5
	(2) 同居家族構成	6
	5 未既婚	7
	(1) 未既婚	7
	(2) 共働きの状況	8
<b>III</b>	<b>調査結果</b>	<b>9</b>
	【1】男女平等意識について	9
	1 男女の地位の平等意識	9
	【2】職業生活について	14
	1 女性の望ましい働き方	14
	2 進路や職業選択時の性別意識	17
	3 女性が働く上で支障となること	19
	4 育児休業・介護休業の取得状況	21
	(1) 育児休業の取得状況	21
	(2) 介護休業の取得状況	22
	5 結婚や妊娠・出産時の働き方の変化	23
	(1) 結婚や妊娠・出産時の働き方の変化の有無	23
	(2) 仕事をやめた理由	25
	6 職場における男女の扱いについて	26
	7 日常生活の理想と現実について	29
	8 仕事と家庭の両立に必要なだと思うこと	32
	9 セクシュアル・ハラスメントの経験	34
	10 パワー・ハラスメントの経験	36
	11 マタニティ・ハラスメントの経験	38

【3】	家庭生活と男女の役割について-----	40
1	結婚と家庭に関する考え方-----	40
2	子育てについての考え方-----	45
3	家庭内の仕事の分担について-----	48
	(1) 理想とする分担-----	48
	(2) 実際の分担-----	49
【4】	地域活動への参加などについて-----	54
1	地域活動参加状況-----	54
2	地域活動における男女間格差の現状-----	56
3	地域社会で男女共同参画推進に必要だと思うこと-----	58
【5】	ドメスティック・バイオレンス（DV）について-----	60
1	メディアにおける性・暴力表現について-----	60
2	ドメスティック・バイオレンスの経験について-----	62
	(1) DVの経験-----	62
	(2) DV経験者の相談状況-----	64
	(3) DVについてどこにも相談しなかった理由-----	65
3	DVを防ぐために必要だと思うこと-----	66
【6】	男女共同参画社会への取組について-----	68
1	女性に対する人権意識や地位の改善状況-----	68
2	玉野市男女共同参画推進センターの利用状況-----	69
3	玉野市男女共同参画推進センターの推進すべき取組-----	70
4	男女共同参画に関する用語の認知状況-----	71
5	男女共同参画の推進に必要だと思う施策-----	76
<b>IV</b>	<b>自由意見回答結果-----</b>	<b>77</b>
	<b>資料/調査票-----</b>	<b>85</b>

# I 調査の概要

## 【調査の目的】

「第4次たまの男女共同参画プラン」の策定に当たって、市民の男女共同参画に関する意識や意見等を把握し、今後の計画づくりのための基礎的な資料とすることを目的として実施した。

## 【調査地域】

玉野市全域

## 【調査対象】

本市に居住する18歳以上の市民

## 【対象者抽出方法】

住民基本台帳による無作為抽出

## 【調査方法】

郵送配布・回収及び電子申請サービスを用いたインターネットによる調査

## 【調査期間】

平成28年（2016年）9月

## 【回収結果】

郵送調査	配布数	1,500件
	有効回収数	576件
	有効回収率	38.4%
インターネットによる回答		34件
合計有効回収数		610件

## 【報告書の見方について】

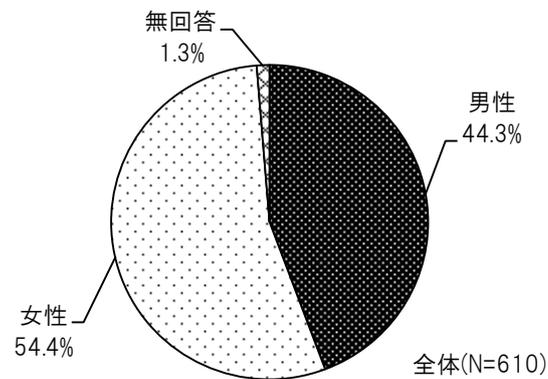
- (1) 集計は小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を可能とした(複数回答)設問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 数表, 図表, 文中に示すNは, 比率算出上の基数(標本数)である。全標本数を示す「全体」を「N」, 該当数<sup>\*</sup>を「n」で表記している。
- (4) 図表中における年齢層別などのクロス集計結果については, 該当する属性等の設問に対する無回答者(例えば, 年齢層別でクロス集計する場合における年齢の無回答者)を除いて表記しているため, 属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。
- (5) 図中においては見やすさを考慮し, 回答割合が極端に少ない数値(例:0.0%, 0.1%など)は, 図と干渉して見えにくい場合などに省略している場合がある。また, 複数回答の図表中においては, 見やすさを考慮し, 回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合がある。
- (6) 設問によっては, 過去に実施した調査(平成22年7月実施調査)との比較も行っている(図表等では「前回調査」と表記)。また, 設問によっては, 「国の世論調査(平成24年10月実施調査)」や「国の女性活躍推進に関する世論調査(平成26年8月実施調査)」, また「岡山県男女共同参画社会に関する県民意識調査(平成26年10月実施調査)」との比較を行っている。図表中では, それぞれ「国」「女性活躍」「岡山県」と表記している。
- (7) この他, 個別に参照事項がある場合は, 本報告書の該当箇所に適宜記載した。

※(例)問Aで1と回答した人のみが, 問Bを答える場合の問Bの基数, あるいはクロス集計における「男性」や「30歳代」…など, 限定された回答者数

## II 回答者の属性

### 1 性別

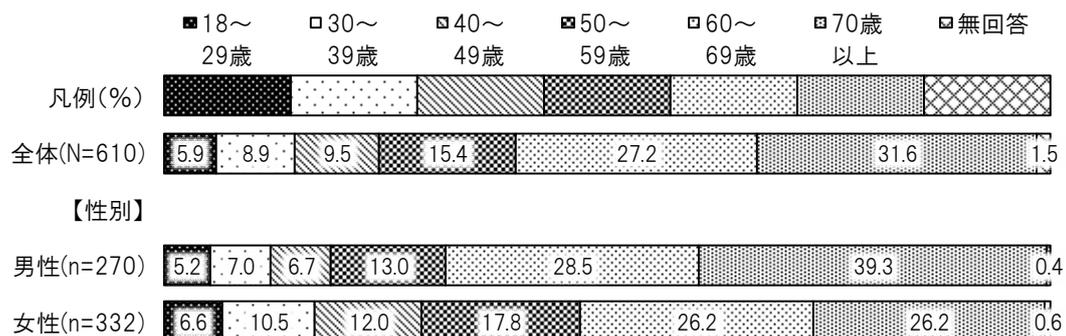
性別構成比は、「男性」44.3%、「女性」54.4%で、女性の割合がやや高い。



### 2 年齢別構成

年齢別構成は、「70歳以上」が31.6%と最も高く、次いで「60～69歳」(27.2%)、「50～59歳」(15.4%)と続き、50歳以上で合計7割以上(74.2%)、60歳以上では約6割(58.8%)を占めている。

性別では、男性で「70歳以上」が高く、女性は59歳以下の占める割合が男性に比べて高くなっている。

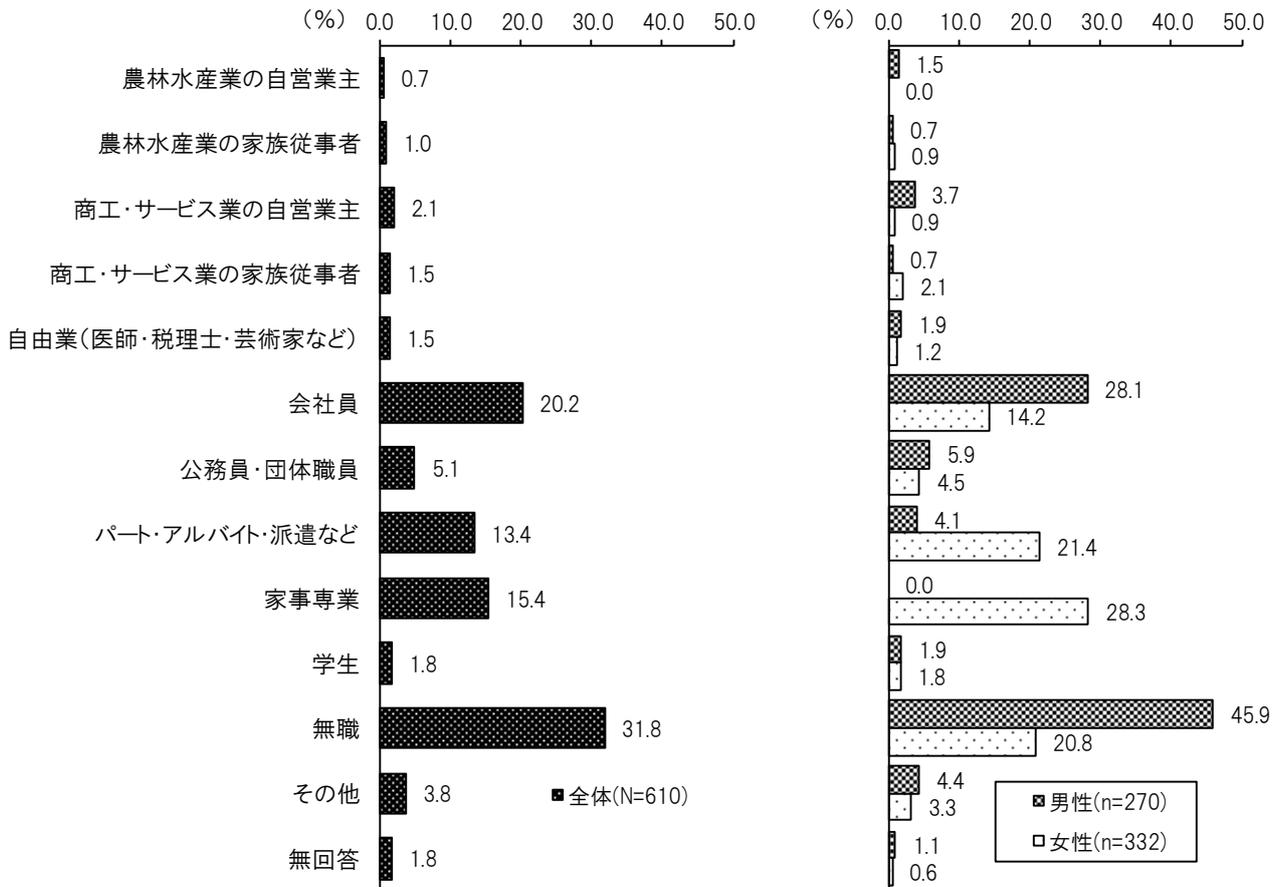


### 3 職業別構成

職業別構成については、「無職」が31.8%と最も高く、次いで「会社員」(20.2%)、「家事専業」(15.4%)、「パート・アルバイト・派遣など」(13.4%)の順となっている。

『農林水産業』は「自営業主」(0.7%)と「家族従事者」(1.0%)を合計して1.7%、同様に『商工・サービス業』の「自営業主」(2.1%)と「家族従事者」(1.5%)の合計は3.6%となっている。

性別では、男性で「会社員」「無職」、女性で「パート・アルバイト・派遣など」「家事専業」がそれぞれ高い。



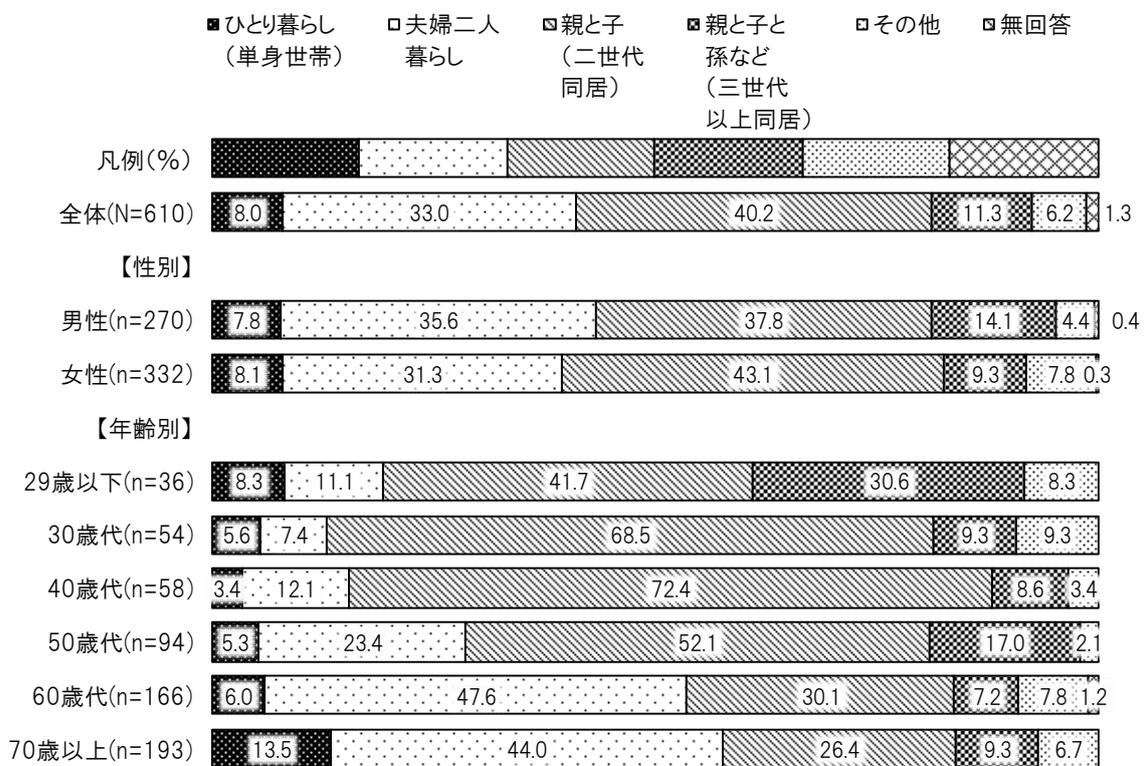
## 4 世帯構成

### (1) 同居世帯構成

同居世帯の構成は、「親と子（二世帯同居）」（40.2%）が最も高く、次いで「夫婦二人暮らし」（33.0%）、「親と子と孫など（三世帯以上同居）」（11.3%）、「ひとり暮らし（単身世帯）」（8.0%）の順となっている。

性別では、男性に比べて女性で「親と子（二世帯同居）」がやや高い。

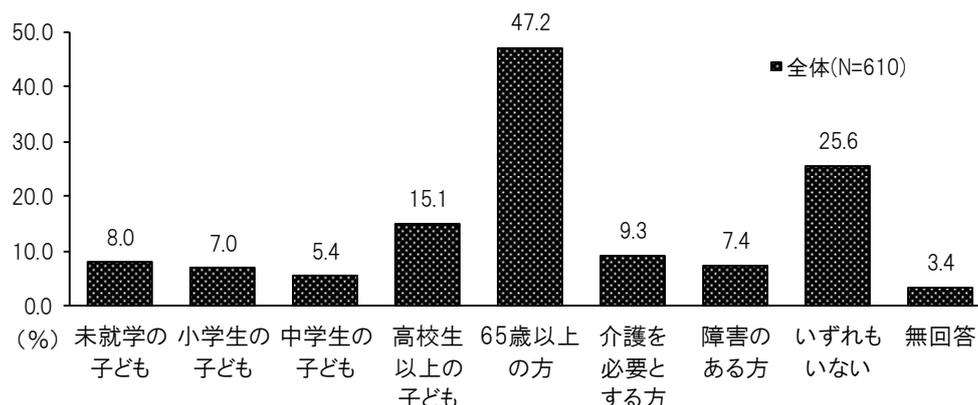
年齢別では、年齢が上がるほど「夫婦二人暮らし」がおおむね高くなる傾向にある。また、29歳以下で「親と子と孫など（三世帯以上同居）」、30～40歳代で「親と子（二世帯同居）」が他の年齢層に比べてそれぞれ高い。



## (2) 同居家族構成

同居家族構成は、「65歳以上の方」が47.2%と半数近くを占めている。子どもについては「高校生以上の子ども」が15.1%と最も高く、次いで「未就学の子ども」(8.0%)、「小学生の子ども」(7.0%)、「中学生の子ども」(5.4%)の順となっている。

年齢別では、30歳代で「未就学の子ども」、40歳代で「小学生の子ども」「中学生の子ども」、40～50歳代では「高校生以上の子ども」がそれぞれ高くなっている。



単位 (%)	未就学の子ども	小学生の子ども	中学生の子ども	も高校生以上の子ども	65歳以上の方	方介護を必要とする	障害のある方	いずれもない
全体(N=610)	8.0	7.0	5.4	15.1	47.2	9.3	7.4	25.6
【年齢別】								
29歳以下(n=36)	19.4	5.6	11.1	16.7	33.3	5.6	0.0	30.6
30歳代(n=54)	40.7	14.8	5.6	1.9	18.5	7.4	3.7	25.9
40歳代(n=58)	8.6	27.6	15.5	37.9	31.0	1.7	5.2	17.2
50歳代(n=94)	3.2	1.1	7.4	28.7	31.9	10.6	7.4	34.0
60歳代(n=166)	5.4	4.8	2.4	10.2	58.4	9.6	7.2	27.7
70歳以上(n=193)	1.0	4.1	2.6	9.8	62.2	12.4	10.4	22.3

注：表中の「網掛け」は、各クロス集計(性別・年齢別など)において最も高い割合を示している。

(例／性別の場合、男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合、最も割合が高い年齢層に網掛け。) 但し、回答割合が10%未満の項目、n数が10未満の項目、及び「その他」については網掛けしていない。また「無回答」は表記から省略している。(本報告書においては、以下同様)

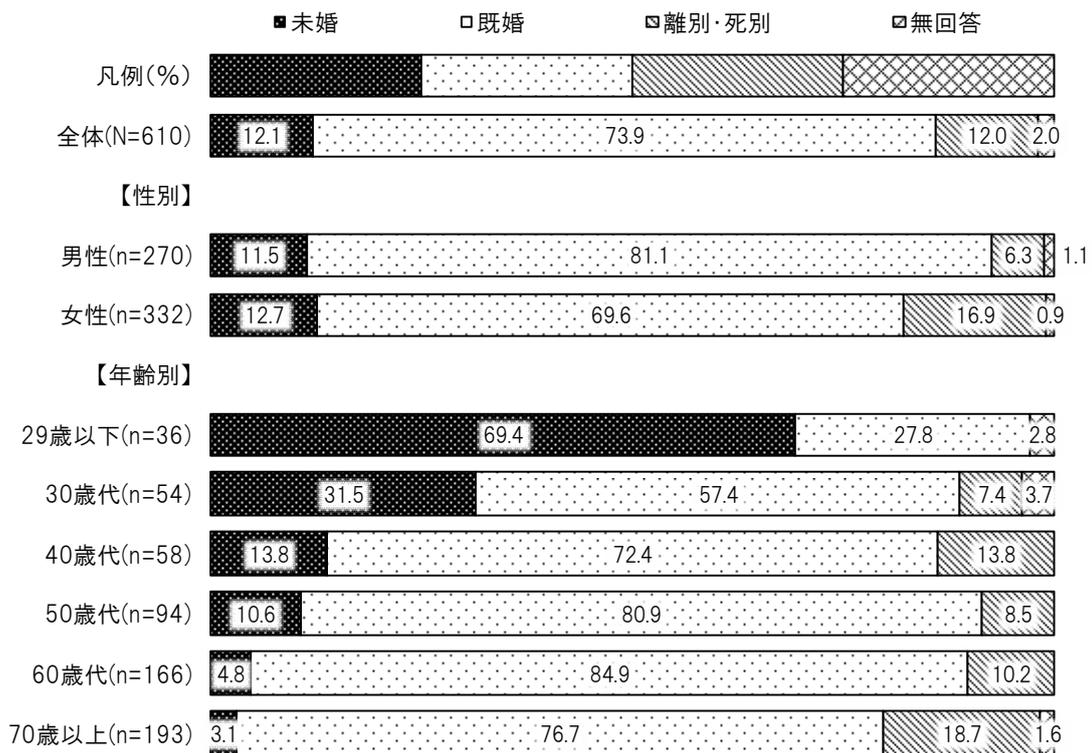
## 5 未既婚

### (1) 未既婚

未既婚については、「未婚」が12.1%、「既婚」が73.9%、「離別・死別」が12.0%となっている。

性別では、男性は「既婚」、女性は「離別・死別」がそれぞれ高い。

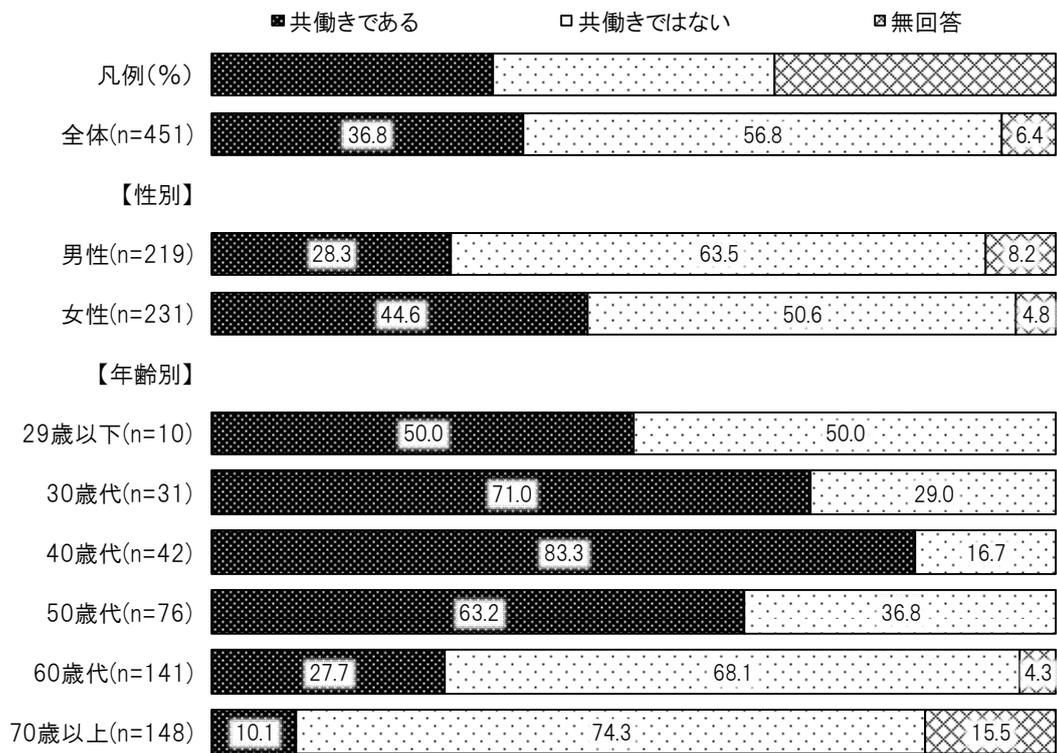
年齢別では、若い年齢層ほど「未婚」がおおむね高くなる傾向にあり、20歳代の未婚率は約7割を占める。一方、70歳以上で「離別・死別」が他の年齢層に比べて高い。



## (2) 共働きの状況

既婚者のうち、「共働きである」が36.8%、「共働きではない」が56.8%となっている。

性別では、女性で「共働きである」が高く、年齢別では、40歳代で「共働きである」が8割以上を占めており、他の年齢層に比べて高くなっている。



### Ⅲ 調査結果

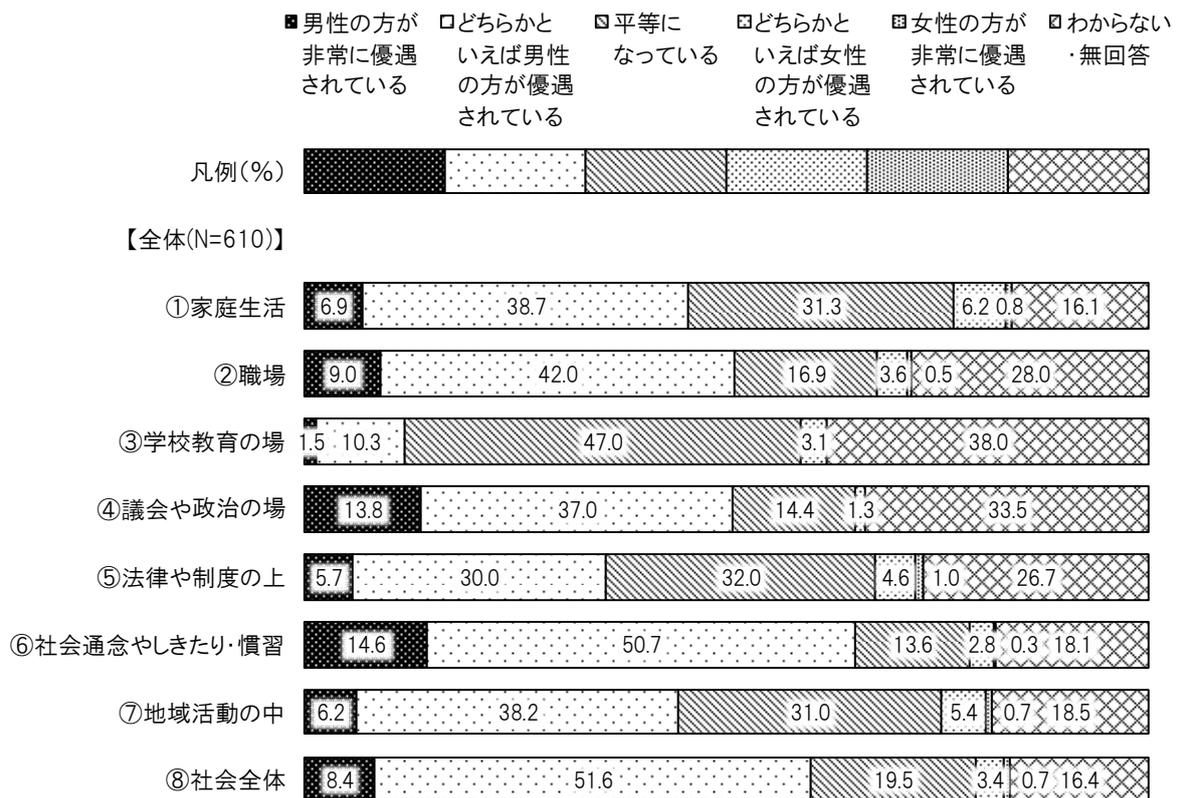
#### 【1】男女平等意識について

##### 1 男女の地位の平等意識

問8. あなたは、今の玉野市の現状をみて、次にあげる各分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。①から⑧のそれぞれについてお答えください。  
(○印1つずつ)

男女の地位の平等意識に関するすべての分野において、『男性優遇※』意識が『女性優遇※』意識を上回っている。『男性優遇』意識が高い順に、「⑥社会通念やしきたり・慣習」(65.3%)、「⑧社会全体」(60.0%)、「②職場」(51.0%)、「④議会や政治の場」(50.8%)となっている。

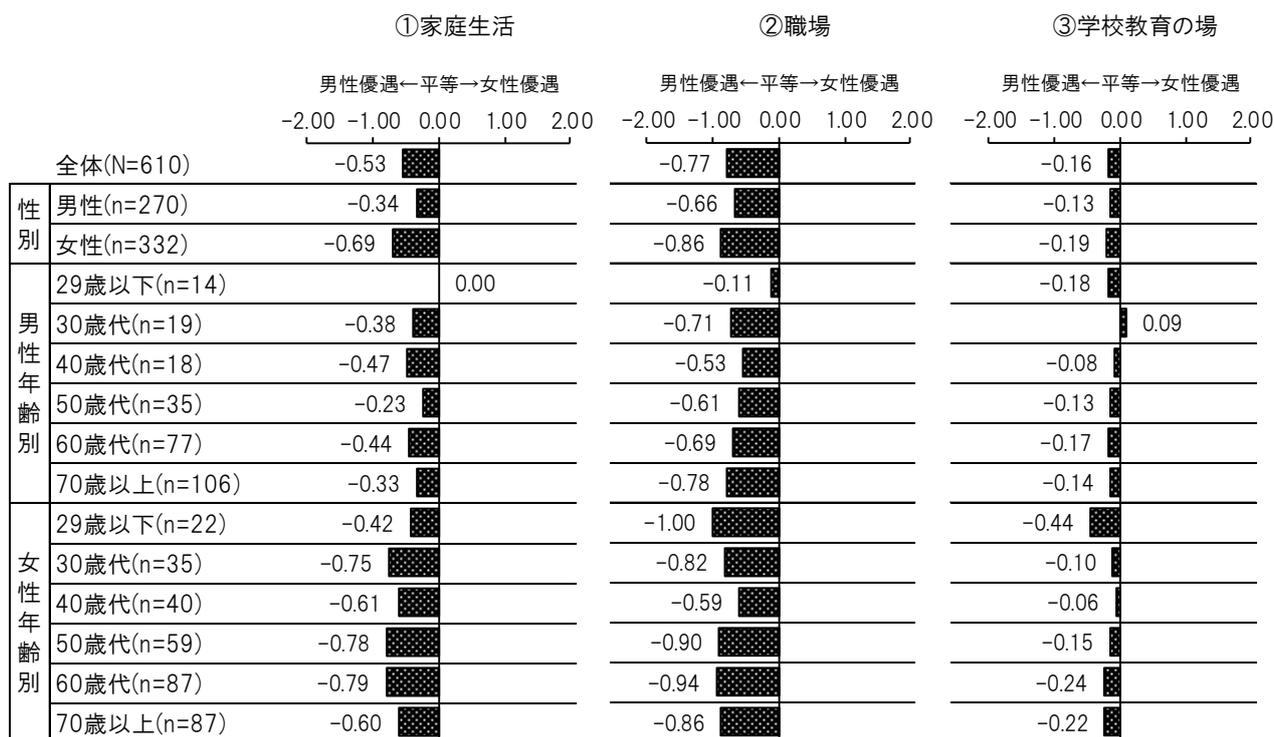
一方、「平等になっている」割合が高い項目としては、「③学校教育の場」(47.0%)、「⑤法律や制度の上」(32.0%)などがあげられる。



※「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせて『男性優遇』, 「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせて『女性優遇』とする。

加重平均値※による属性別傾向をみると、性別では、「②職場」「④議会や政治の場」「⑥社会通念やしきたり・慣習」「⑧社会全体」において、女性の『男性優遇』意識が高くなっている。一方、男女とも「③学校教育の場」については『平等』意識となっている。

性・年齢別でみると、「④議会や政治の場」「⑤法律や制度の上」は、女性の若い年齢層ほど『男性優遇』意識がおおむね高くなる傾向にある。また、「⑥社会通念やしきたり・慣習」は女性29歳以下と女性50歳代、「⑧社会全体」は女性29歳以下で『男性優遇』意識がそれぞれ高い。

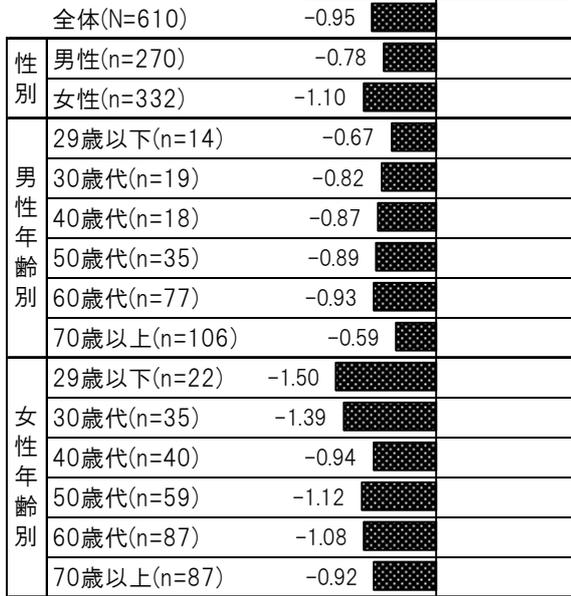


※加重平均値による属性別傾向

加重平均値とは、「男性の方が非常に優遇されている」に-2点、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」に-1点、「平等」に0点、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」に+1点、「女性の方が非常に優遇されている」に+2点の係数を、それぞれの回答件数に乘じ、加重平均して算出した値で、-2点に近いほど男性優遇、+2点に近いほど女性優遇、0点に近いほど平等を示す指標である。また、この数値はあくまでも「統計上の指標」であり、マイナス、プラスによって男女の優劣を判定するものではない。

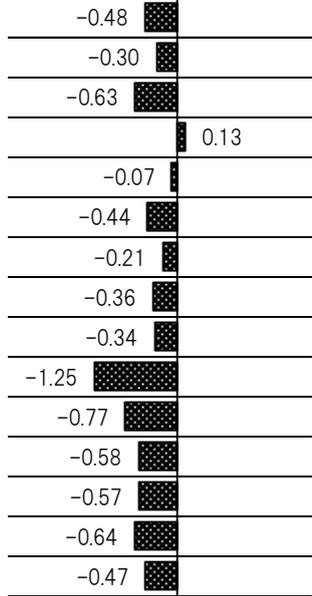
④議会や政治の場

男性優遇←平等→女性優遇  
-2.00 -1.00 0.00 1.00 2.00



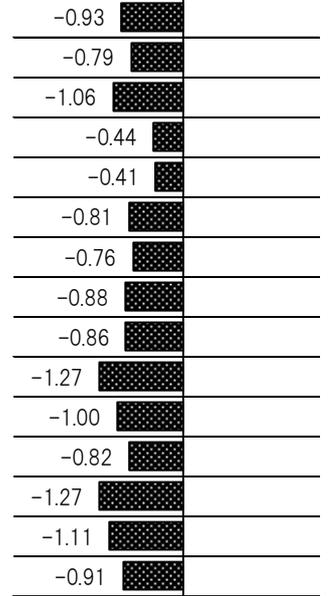
⑤法律や制度の上

男性優遇←平等→女性優遇  
-2.00 -1.00 0.00 1.00 2.00



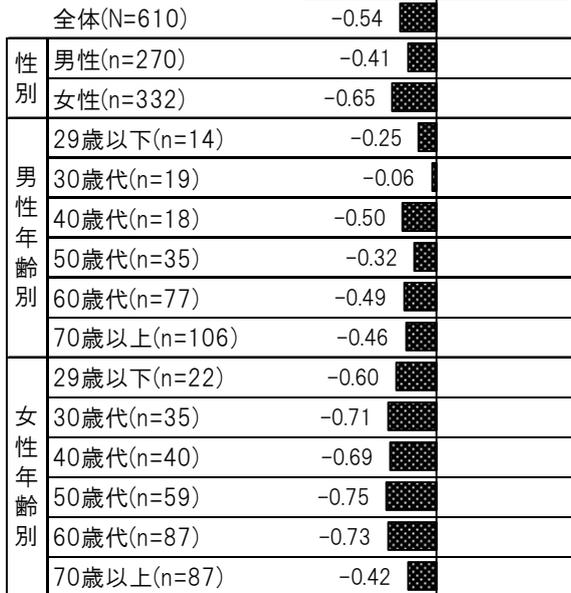
⑥社会通念やしきたり・慣習

男性優遇←平等→女性優遇  
-2.00 -1.00 0.00 1.00 2.00



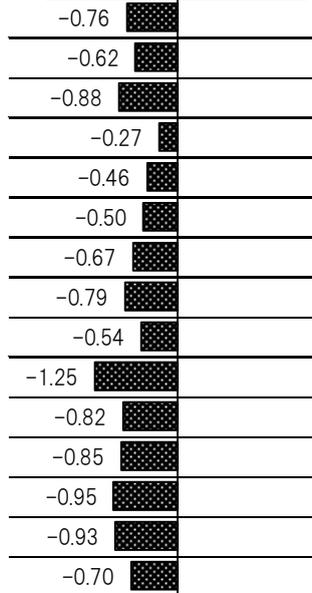
⑦地域活動の中

男性優遇←平等→女性優遇  
-2.00 -1.00 0.00 1.00 2.00



⑧社会全体

男性優遇←平等→女性優遇  
-2.00 -1.00 0.00 1.00 2.00

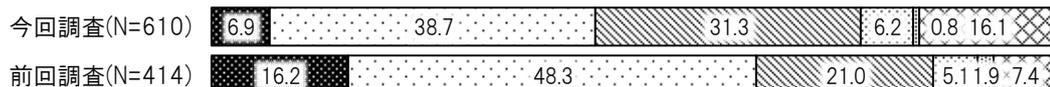


## 参考／前回調査との比較

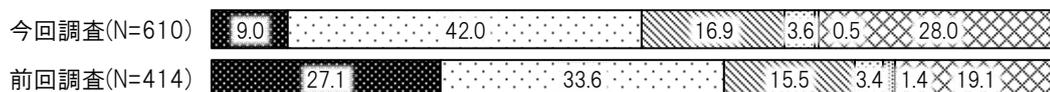
■男性の方が非常に優遇されている    □どちらかといえば男性の方が優遇されている    ▣平等になっている    □どちらかといえば女性の方が優遇されている    ▣女性の方が非常に優遇されている    □わからない・無回答

凡例(%)

### 【①家庭生活】



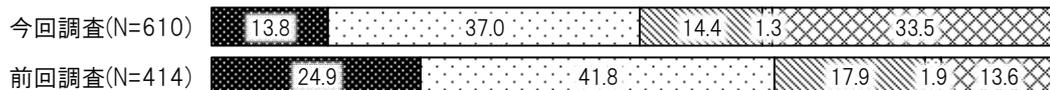
### 【②職場】



### 【③学校教育の場】



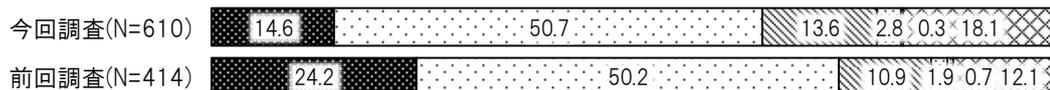
### 【④議会や政治の場】



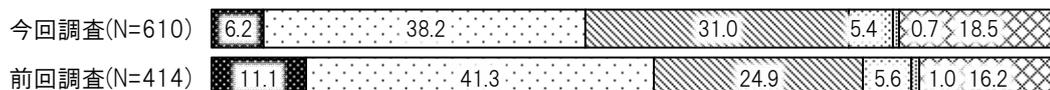
### 【⑤法律や制度の上】



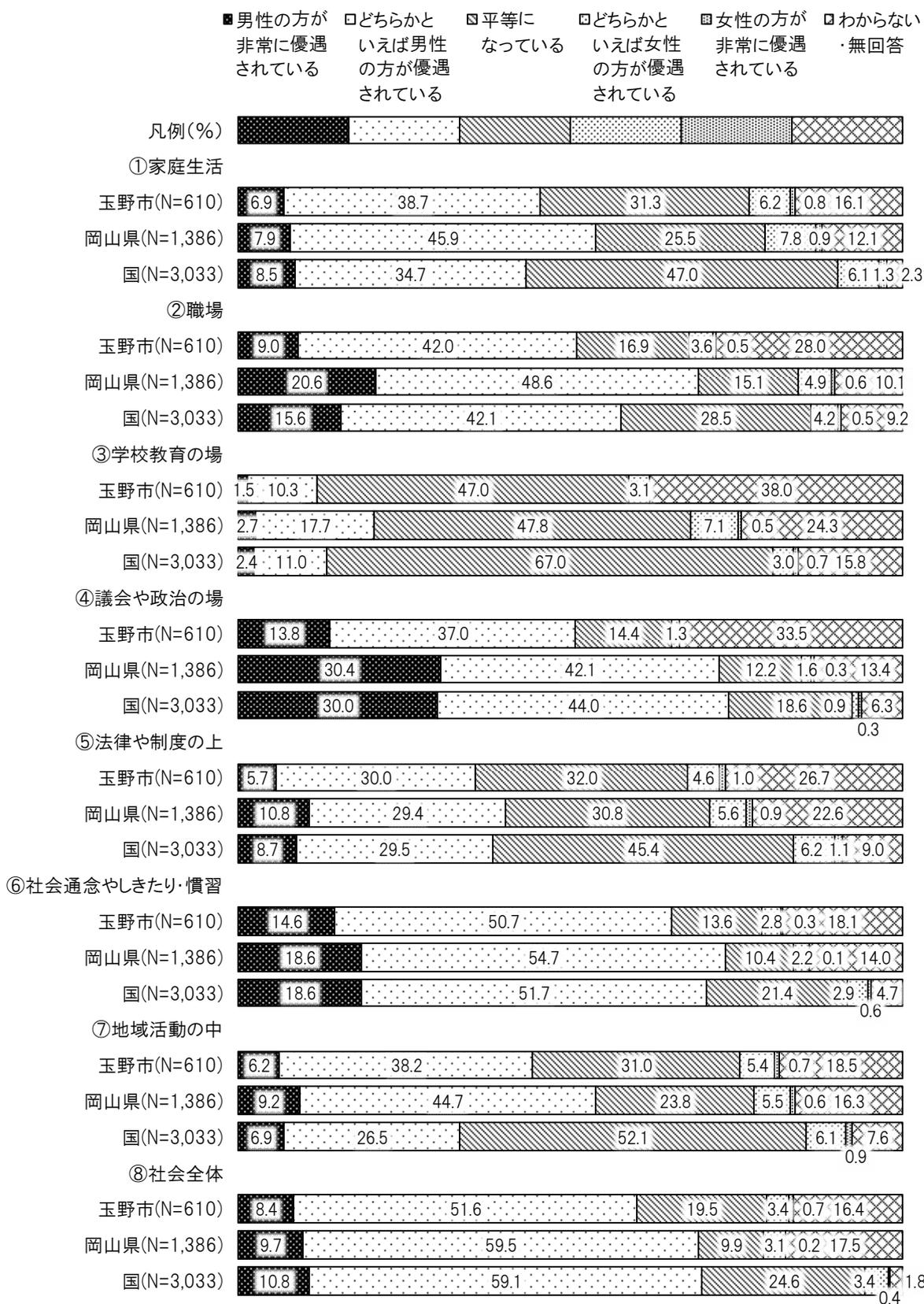
### 【⑥社会通念やしきたり・慣習】



### 【⑦地域活動の中】



## 参考／岡山県・国との比較



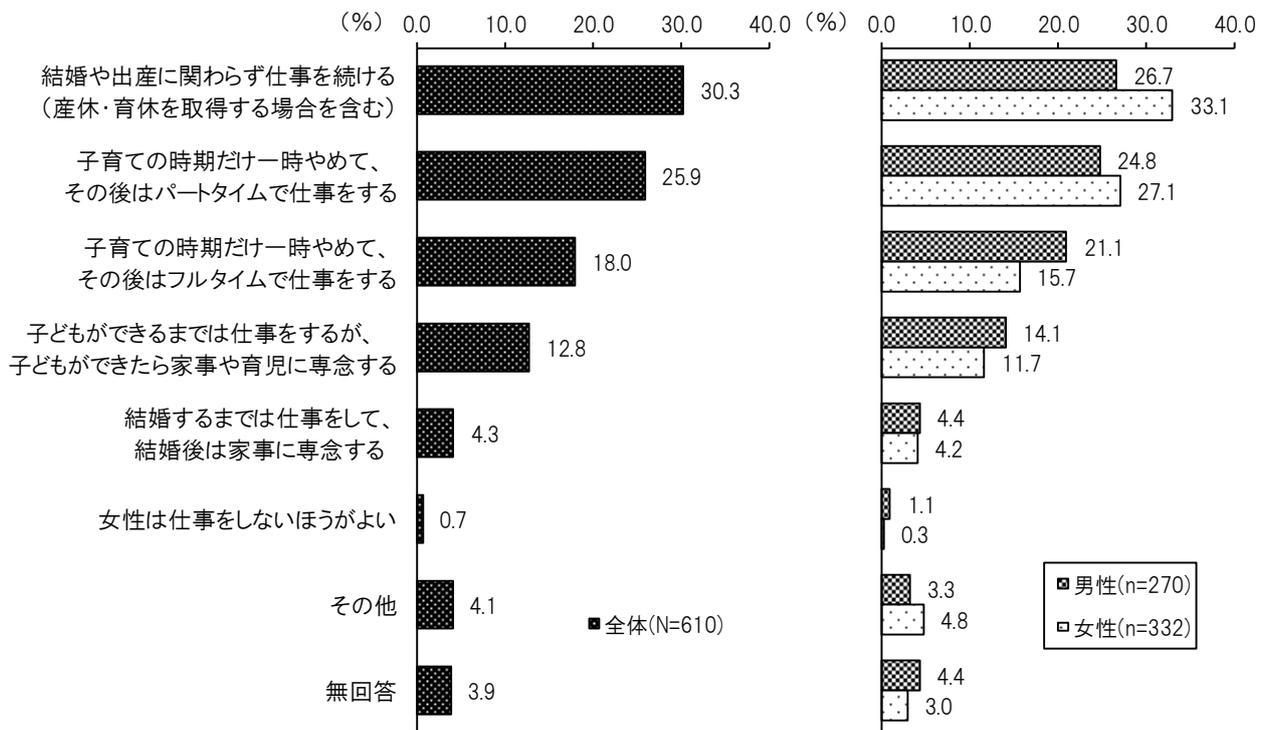
## 【2】職業生活について

### 1 女性の望ましい働き方

問9. 女性の働き方についておたずねします。あなたが、女性の望ましい働き方と思うのはどれですか。(○印1つ)

女性の望ましい働き方については、「結婚や出産に関わらず仕事を続ける(産休・育休を取得する場合を含む)」が30.3%と最も高く、次いで「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事をする」(25.9%)、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事をする」(18.0%)、「子どもができるまでは仕事をするが、子どもができれば家事や育児に専念する」(12.8%)の順となっている。

性別では、男性で「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事をする」、女性で「結婚や出産に関わらず仕事を続ける(産休・育休を取得する場合を含む)」がそれぞれやや高い。



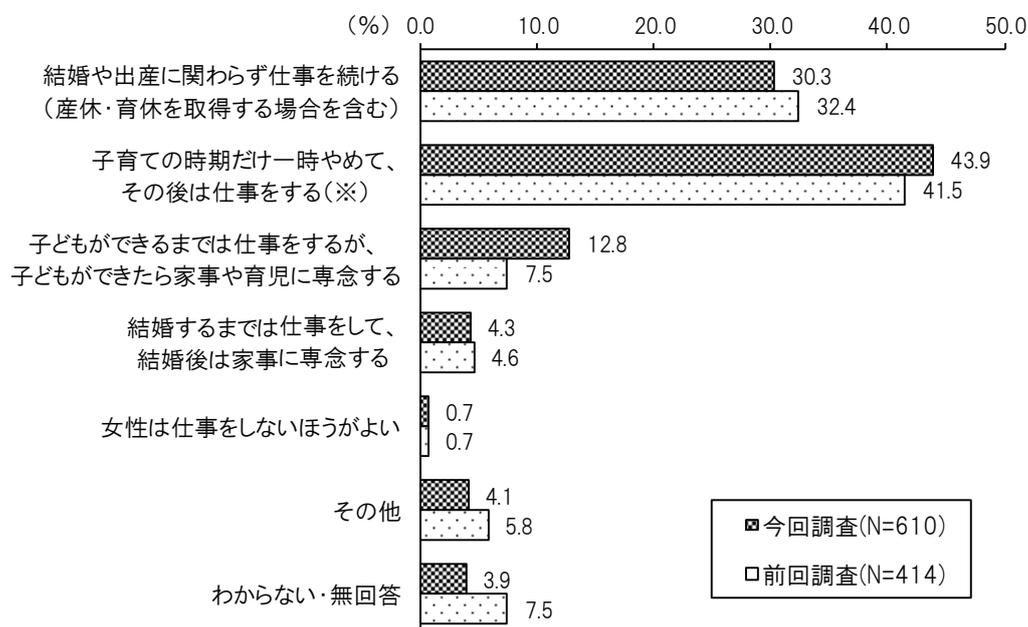
性・年齢別では、男性 30 歳代以下、女性 30 歳代及び女性 50 歳代で「結婚や出産に関わらず仕事を続ける（産休・育休を取得する場合を含む）」が共通して高い。また、男性 40 歳代で「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事をする」、男性 40 歳代と男性 60 歳代で「子どもができるまでは仕事をするが、子どもができたなら家事や育児に専念する」が他の層に比べてそれぞれ高くなっている。

未既婚別では、未婚者で「結婚や出産に関わらず仕事を続ける（産休・育休を取得する場合を含む）」、既婚者で「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事をする」がそれぞれ高い。

共働き別では、共働き世帯で「結婚や出産に関わらず仕事を続ける（産休・育休を取得する場合を含む）」が高くなっている。

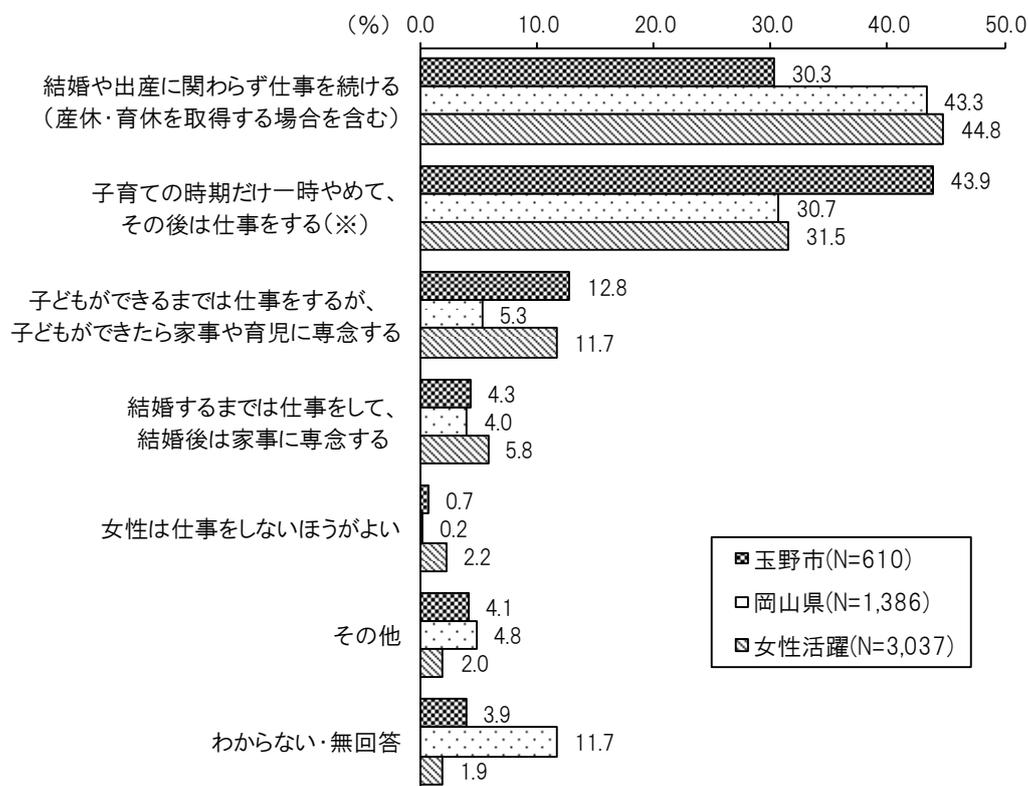
単位(%)	得を結 す続婚 けるや 場合出 （産に 含休関 む・わ 育休 を仕 取事	でて子 仕、育 事そ をの す後 るは 期 だけ ト ー タ イ ム め	仕て子 事、育 をそ すの る後 は期 だけ ル タ ー イ ム や め	らを子 家すど 事るも やが が育、 児ど にま 専念 す た 事	るて結 、婚 結する 婚後ま はでは 家事に 専念し す	よ女性 いは 仕事 をし ない ほう が	そ の 他	
全体(N=610)	30.3	25.9	18.0	12.8	4.3	0.7	4.1	
【性・年齢別】								
男性	29歳以下(n=14)	42.9	14.3	14.3	7.1	0.0	7.1	7.1
	30歳代(n=19)	42.1	21.1	21.1	5.3	0.0	0.0	10.5
	40歳代(n=18)	11.1	27.8	33.3	22.2	0.0	0.0	5.6
	50歳代(n=35)	31.4	22.9	22.9	8.6	2.9	2.9	5.7
	60歳代(n=77)	24.7	27.3	19.5	23.4	2.6	0.0	1.3
	70歳以上(n=106)	24.5	24.5	20.8	10.4	8.5	0.9	1.9
女性	29歳以下(n=22)	31.8	31.8	9.1	13.6	4.5	0.0	9.1
	30歳代(n=35)	45.7	28.6	11.4	5.7	0.0	0.0	5.7
	40歳代(n=40)	30.0	30.0	7.5	17.5	7.5	0.0	7.5
	50歳代(n=59)	42.4	22.0	25.4	0.0	3.4	0.0	6.8
	60歳代(n=87)	36.8	29.9	14.9	14.9	1.1	0.0	1.1
70歳以上(n=87)	19.5	25.3	17.2	16.1	8.0	1.1	3.4	
【未既婚別】								
未婚(n=74)	39.2	18.9	18.9	10.8	1.4	1.4	6.8	
既婚(n=524)	29.0	27.3	18.1	12.6	4.8	0.6	3.8	
【共働き別】								
共働き世帯(n=166)	35.5	27.1	19.3	9.0	1.8	0.6	5.4	
非共働き世帯(n=256)	24.2	30.1	18.4	14.1	5.5	0.4	2.7	

## 参考／前回調査との比較



※今回調査については、「フルタイムで仕事をする」と「パートタイムで仕事をする」の合計値。

## 参考／岡山県・女性活躍との比較



※玉野市については、「フルタイムで仕事をする」と「パートタイムで仕事をする」の合計値。

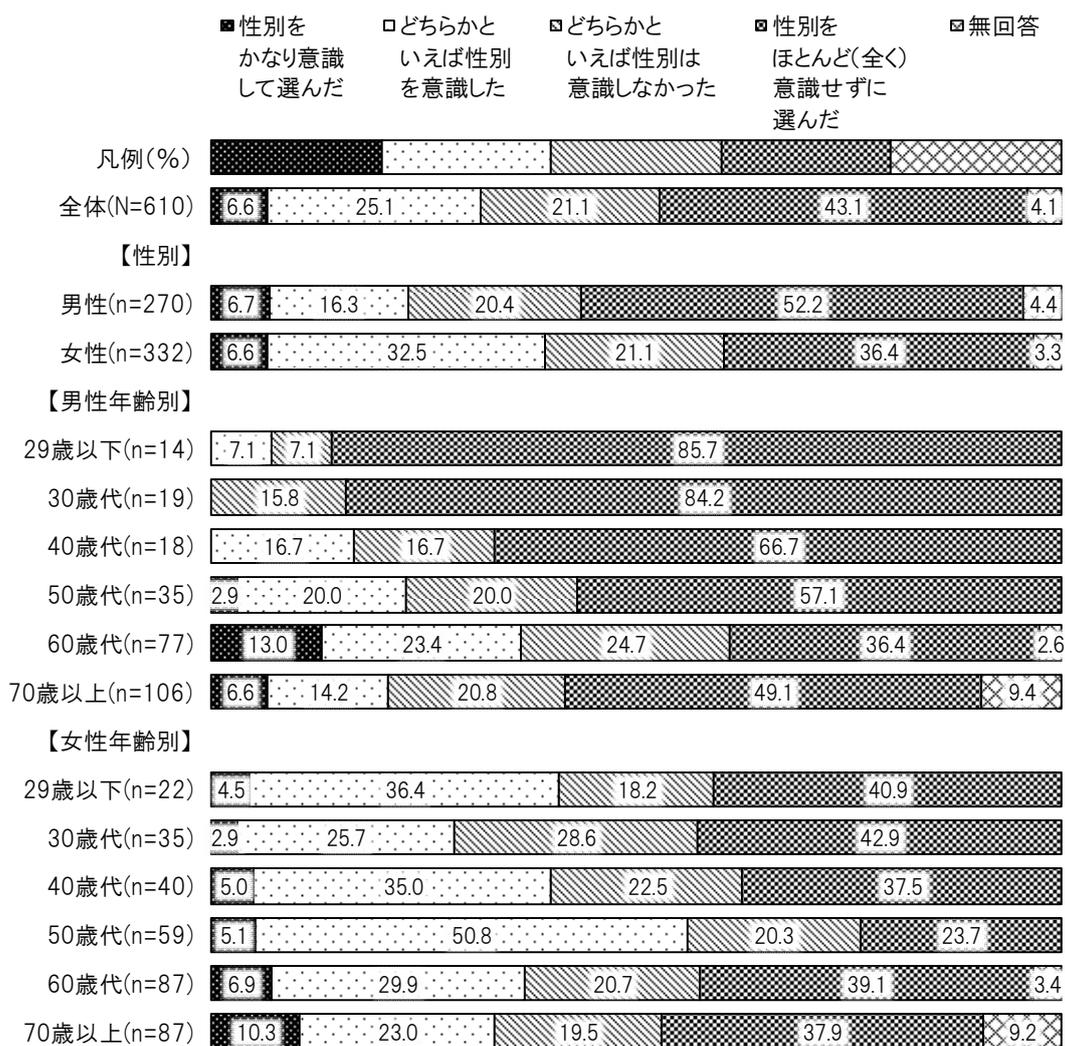
## 2 進路や職業選択時の性別意識

問 10. あなたは、進路や職業を選ぶ時に、性別を意識しましたか。(○印1つ)

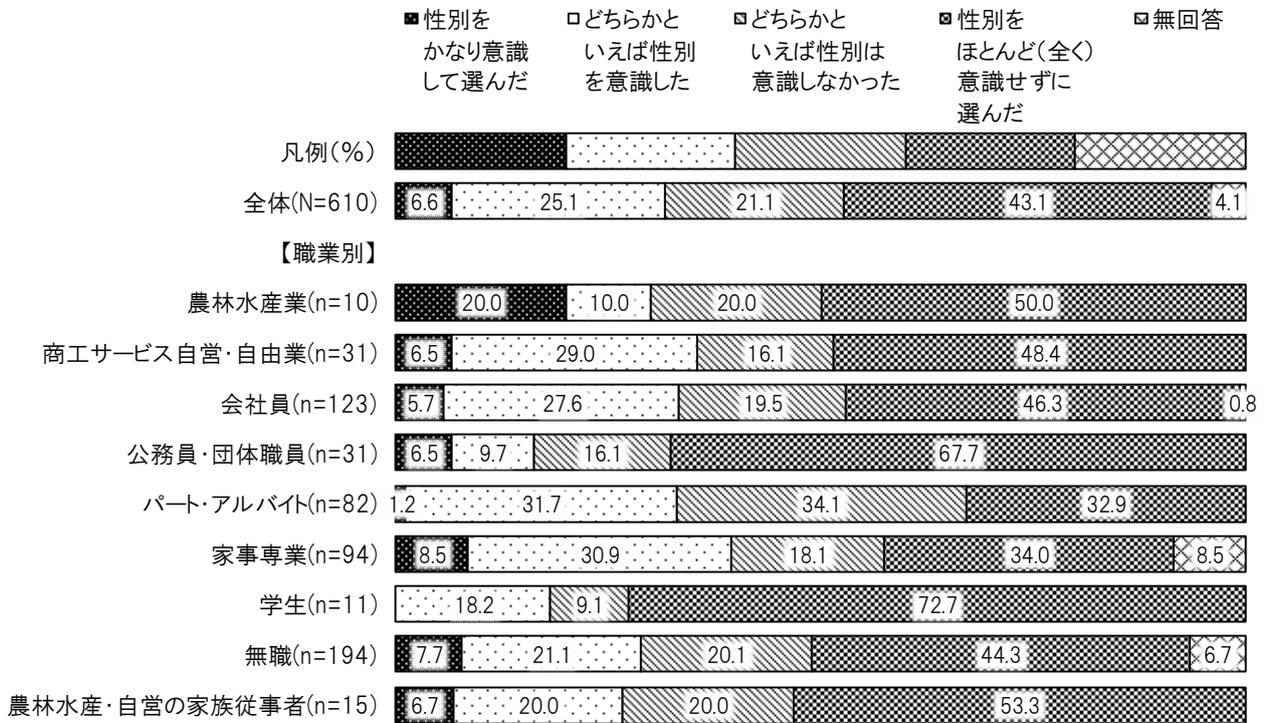
進路や職業選択時の性別意識については、「性別をほとんど(全く)意識せずに選んだ」が43.1%と最も高く、「どちらかといえば性別は意識しなかった」(21.1%)を合わせると64.2%が『性別を意識しなかった』と回答している。一方、「性別をかなり意識して選んだ」(6.6%),「どちらかといえば性別を意識した」(25.1%)を合わせると約3割(31.7%)が『性別を意識した』と回答している。

性別では、男性に比べて女性で「どちらかといえば性別を意識した」が高く、男性の過半数が「性別をほとんど(全く)意識せずに選んだ」と回答している。

性・年齢別では、男性の若い年齢層ほど「性別をほとんど(全く)意識せずに選んだ」がおおむね高くなる傾向にある一方で、男性60歳代の『性別を意識した』が比較的高い。また、女性50歳代の半数が「どちらかといえば性別を意識した」と回答しており、他の層に比べて高くなっている。



職業別では、公務員・団体職員で「性別をほとんど（全く）意識せずに選んだ」が6割以上を占め、他の職業に比べて高い。

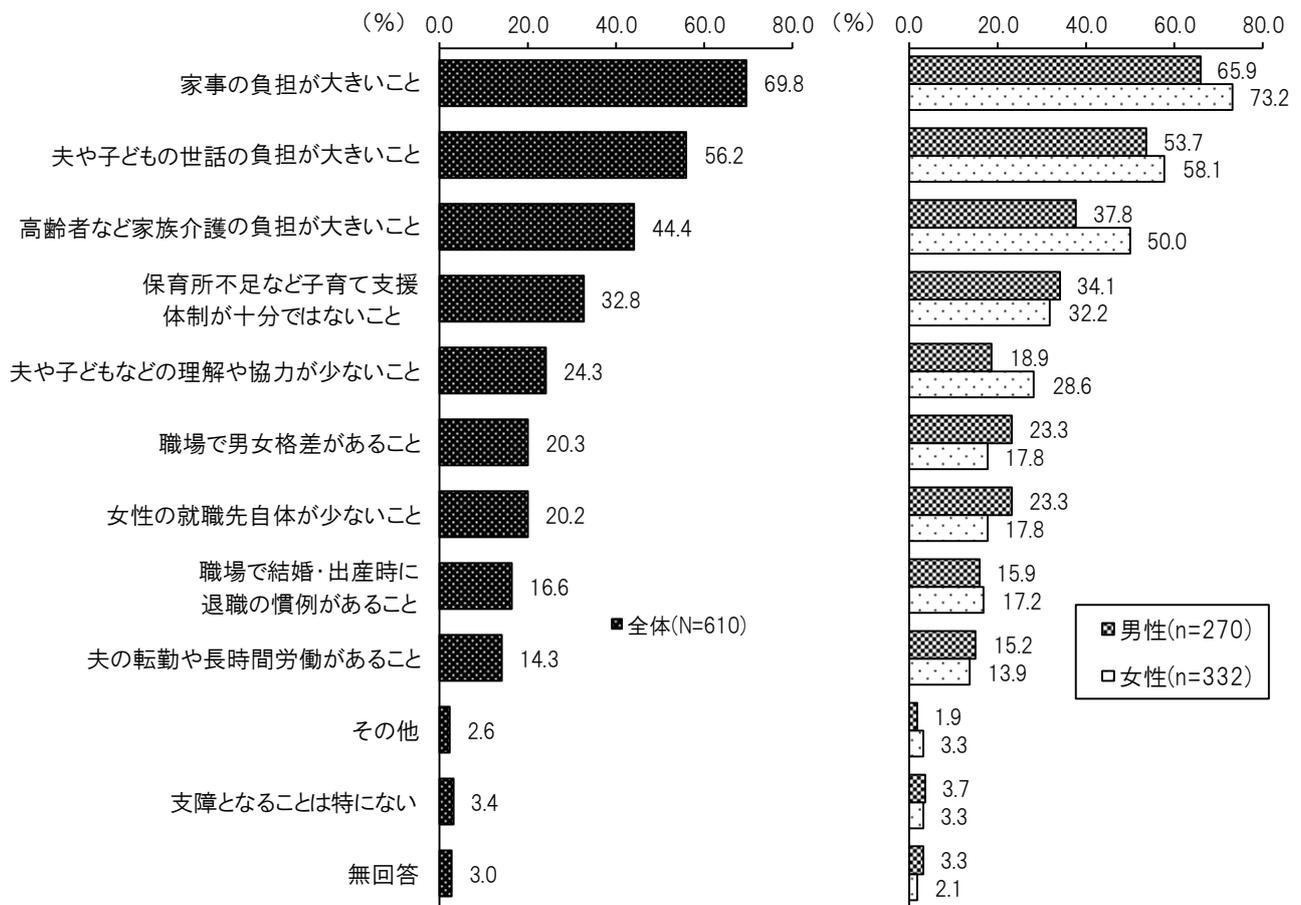


### 3 女性が働く上で支障となること

問 11. あなたは、女性が働く上で、支障となることはどのようなことだと思いますか。  
(○印いくつでも)

女性が働く上で支障となることについては、「家事の負担が大きいこと」が69.8%と最も高く、次いで「夫や子どもの世話の負担が大きいこと」(56.2%)、「高齢者など家族介護の負担が大きいこと」(44.4%)の順となっている。

性別では、男性に比べて女性で「家事の負担が大きいこと」「高齢者など家族介護の負担が大きいこと」「夫や子どもなどの理解や協力が少ないこと」が高い。



性・年齢別では、特に女性 29 歳以下で「家事の負担が大きいこと」「夫や子どもの世話の負担が大きいこと」「保育所不足など子育て支援体制が十分ではないこと」「職場で結婚・出産時に退職の慣例があること」などが高い。また、男性 40 歳代と女性 29 歳以下で「職場で男女格差があること」、女性 29 歳以下と女性 40～50 歳で「夫や子どもなどの理解や協力が少ないこと」、女性 50 歳代で「高齢者など家族介護の負担が大きいこと」が他の層に比べてそれぞれ高くなっている。

単位(%)	家事の負担が大きいこと	夫や子どもの世話の負担が大きいこと	高齢者など大家族介護の負担が大きいこと	保育所不足など子育て支援体制がないこと	夫や子どもの理解や協力が少ないこと	職場で男女格差があること	女性の就職先自体が少ないこと	職場で結婚・出産の慣例があること	夫の転勤や長時間労働があること	その他	支障となることはないこと	
全体(N=610)	69.8	56.2	44.4	32.8	24.3	20.3	20.2	16.6	14.3	2.6	3.4	
【性・年齢別】												
男性	29歳以下(n=14)	42.9	7.1	21.4	35.7	21.4	14.3	21.4	7.1	14.3	0.0	7.1
	30歳代(n=19)	57.9	52.6	26.3	36.8	15.8	21.1	21.1	21.1	21.1	0.0	5.3
	40歳代(n=18)	72.2	55.6	27.8	33.3	27.8	38.9	27.8	27.8	16.7	5.6	0.0
	50歳代(n=35)	77.1	60.0	45.7	37.1	20.0	22.9	22.9	20.0	20.0	0.0	5.7
	60歳代(n=77)	68.8	70.1	42.9	32.5	24.7	26.0	31.2	15.6	14.3	2.6	0.0
	70歳以上(n=106)	63.2	46.2	37.7	34.0	13.2	20.8	17.9	13.2	13.2	1.9	5.7
女性	29歳以下(n=22)	86.4	77.3	36.4	54.5	36.4	40.9	18.2	45.5	31.8	4.5	0.0
	30歳代(n=35)	80.0	65.7	34.3	31.4	28.6	11.4	14.3	20.0	8.6	11.4	5.7
	40歳代(n=40)	75.0	62.5	42.5	37.5	37.5	15.0	32.5	12.5	15.0	2.5	2.5
	50歳代(n=59)	78.0	69.5	69.5	47.5	39.0	25.4	15.3	25.4	20.3	8.5	1.7
	60歳代(n=87)	74.7	54.0	51.7	25.3	23.0	17.2	19.5	12.6	11.5	0.0	1.1
	70歳以上(n=87)	60.9	46.0	49.4	21.8	19.5	9.2	12.6	9.2	8.0	0.0	6.9

#### 4 育児休業・介護休業の取得状況

問 12. あなたは、これまでに育児休業（産休を除く）や介護休業を取得したことがありますか。（○印1つずつ）

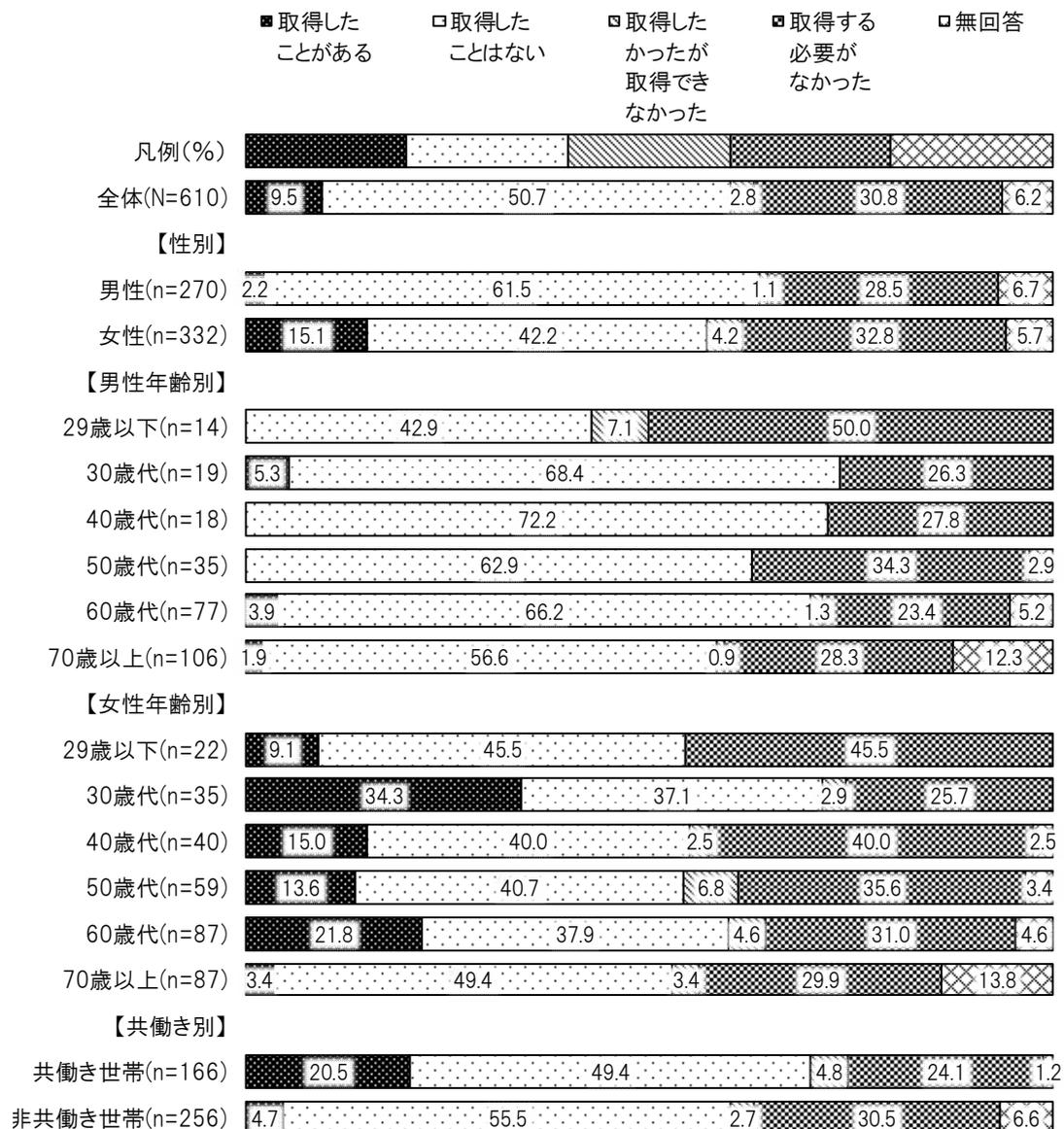
##### （1）育児休業の取得状況

育児休業の取得状況については、半数（50.7%）が「取得したことはない」、3割（30.8%）が「取得する必要がなかった」と回答しており、取得率は9.5%であった。

性別では、男性の6割以上が「取得したことはない」と回答しており、女性の取得率は15.1%となっている。

性・年齢別では、女性30歳代の取得率が他の層に比べて高い。

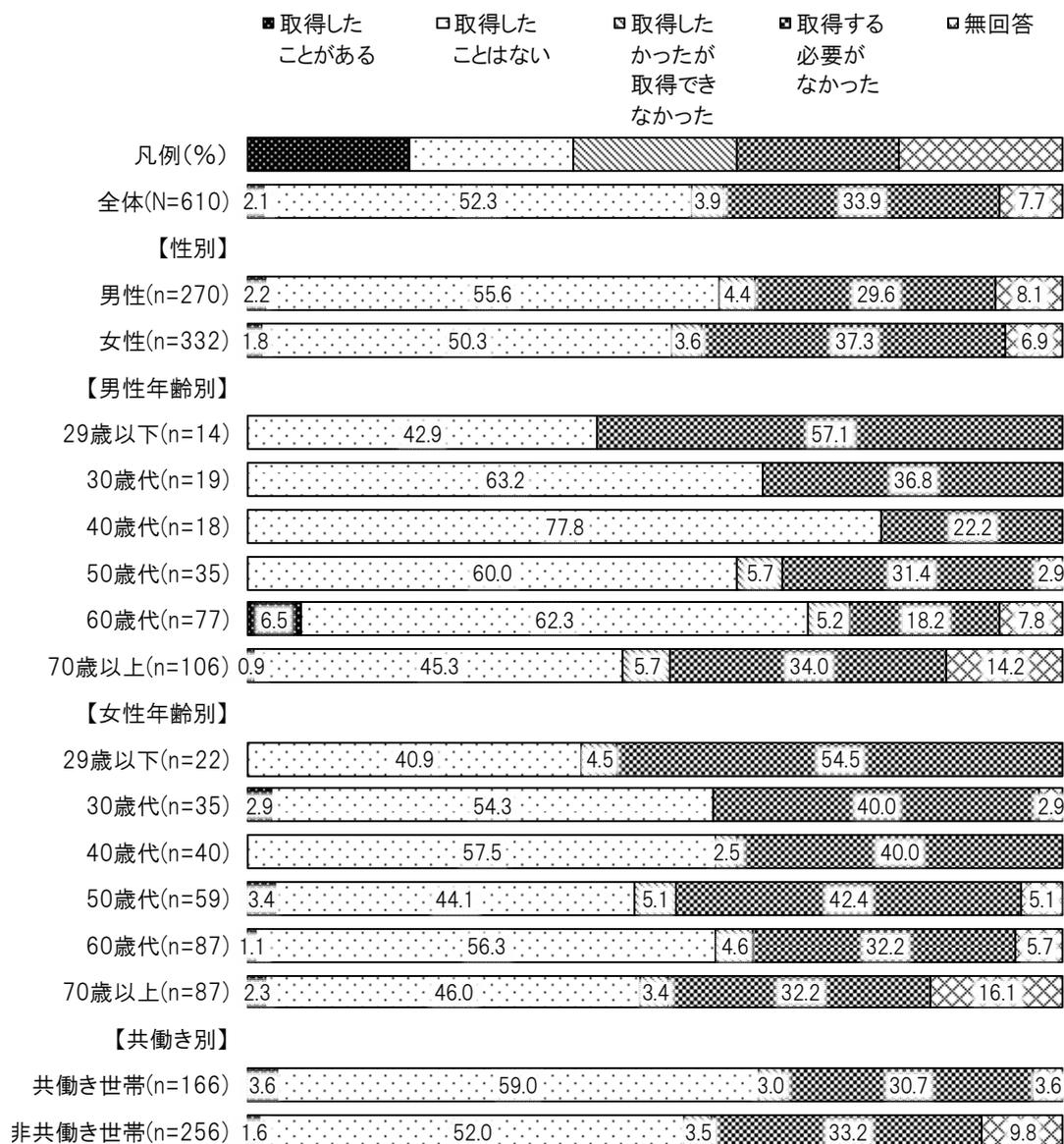
共働き別では、共働き世帯の取得率が2割を占める。



## (2) 介護休業の取得状況

介護休業の取得状況については、過半数（52.3%）が「取得したことはない」、3割以上（33.9%）が「取得する必要がなかった」と回答している。

その他の属性別でも、介護休業の取得率はごくわずかに留まっている。



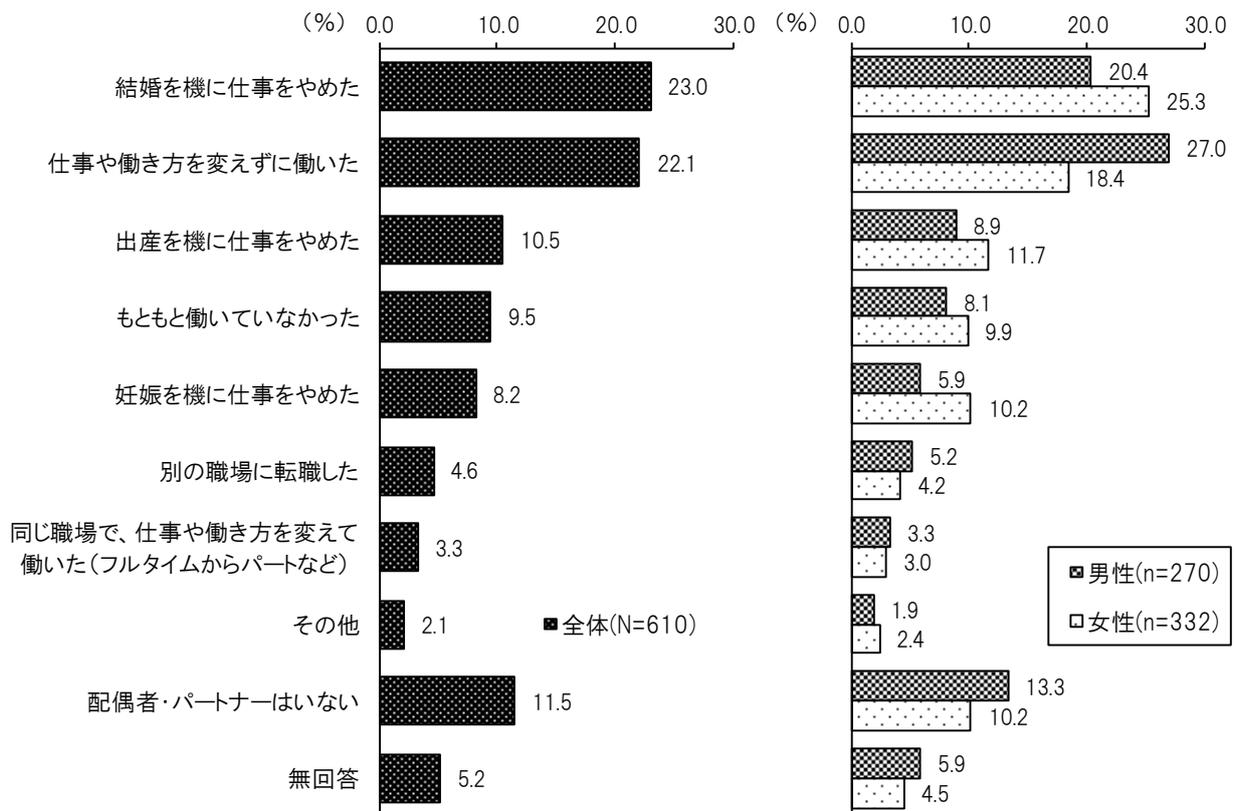
## 5 結婚や妊娠・出産時の働き方の変化

### (1) 結婚や妊娠・出産時の働き方の変化の有無

問 13. あなたは、これまでに結婚や妊娠・出産の際に、働き方に変化がありましたか  
 (男性の場合は配偶者・パートナーについて回答してください)。(○印1つ)

結婚や妊娠・出産時の働き方の変化の有無については、「結婚を機に仕事をやめた」が23.0%と最も高く、ほぼ並んで「仕事や働き方を変えずに働いた」(22.1%)が続く。

性別では、男性で「仕事や働き方を変えずに働いた」、女性で「結婚を機に仕事をやめた」がそれぞれ高くなっている。



年齢別では、年齢が上がるほど「仕事や働き方を変えずに働いた」がおおむね高くなる傾向にある。また、40～50歳代で「結婚を機に仕事をやめた」が他の年齢層に比べて高い。

共働き別では、共働き世帯で「仕事や働き方を変えずに働いた」が高く、非共働き世帯は「もともと働いていなかった」が高い。

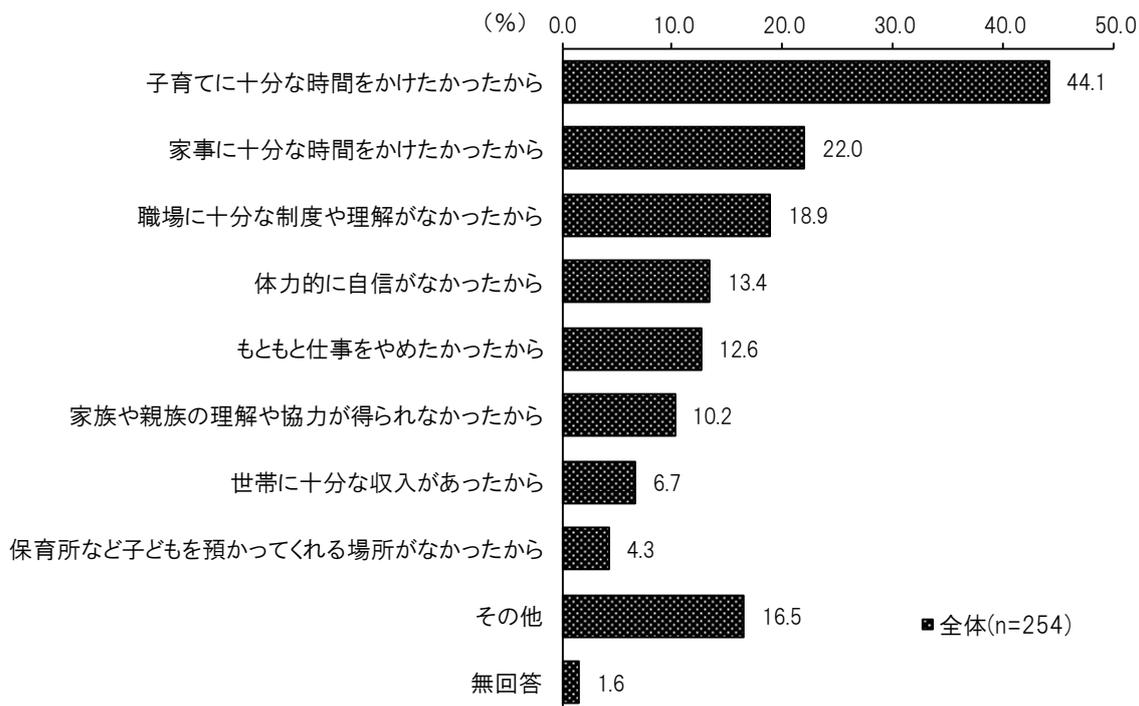
単位(%)	結婚を機に仕事をやめた	仕事や働き方を変えずに働いた	出産を機に仕事をやめた	もともと働いていなかった	妊娠を機に仕事をやめた	別の職場に転職した	同じ職場で、仕事や働き方を変えて働いた(フルタイムからパートなど)	その他	配偶者・パートナーはいない
全体(N=610)	23.0	22.1	10.5	9.5	8.2	4.6	3.3	2.1	11.5
<b>【年齢別】</b>									
29歳以下(n=36)	5.6	5.6	0.0	5.6	11.1	5.6	0.0	2.8	63.9
30歳代(n=54)	20.4	13.0	11.1	0.0	5.6	7.4	7.4	1.9	29.6
40歳代(n=58)	32.8	17.2	13.8	0.0	10.3	6.9	3.4	0.0	15.5
50歳代(n=94)	35.1	24.5	10.6	3.2	13.8	0.0	1.1	1.1	7.4
60歳代(n=166)	25.9	28.3	13.9	7.8	8.4	1.8	3.0	1.8	4.8
70歳以上(n=193)	16.1	22.8	8.3	19.2	5.2	7.8	3.6	3.6	3.6
<b>【共働き別】</b>									
共働き世帯(n=166)	25.3	33.1	12.7	3.6	9.0	5.4	6.6	1.2	0.6
非共働き世帯(n=256)	30.1	19.1	13.3	11.7	10.5	4.3	2.3	2.3	0.8

## (2) 仕事をやめた理由

問 14. (問 13 で 1～3 と回答した方に) 仕事をやめた理由は何ですか。

(○印いくつでも)

仕事をやめた理由については、「子育てに十分な時間をかけたかったから」が 44.1%と最も高く、次いで「家事に十分な時間をかけたかったから」(22.0%)、「職場に十分な制度や理解がなかったから」(18.9%)の順となっている。



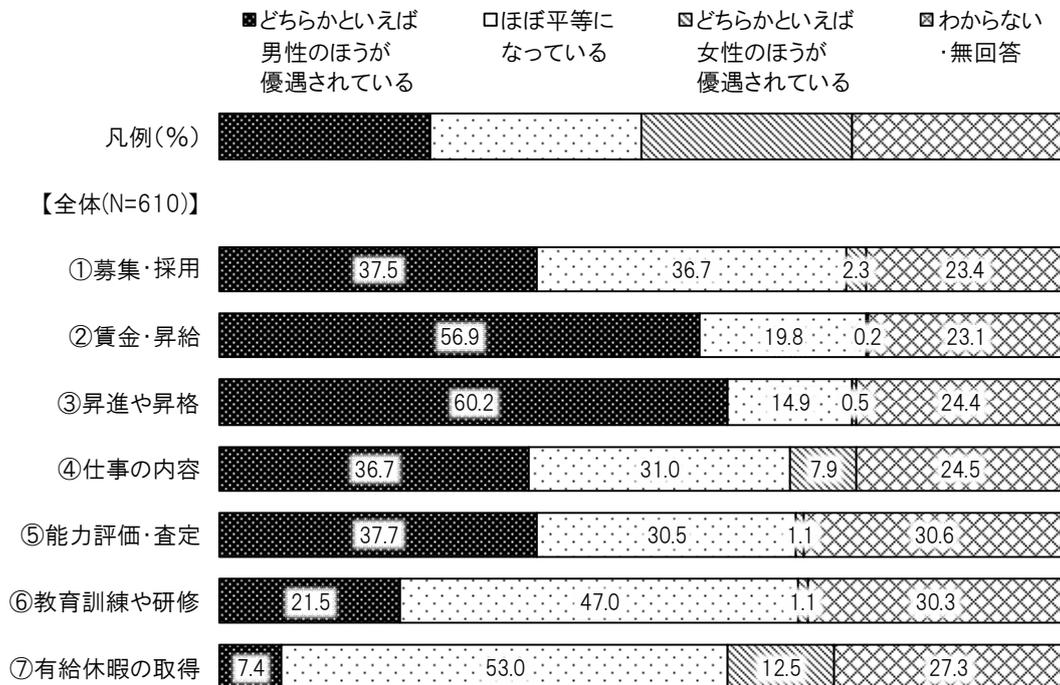
## 6 職場における男女の扱いについて

問 15. 職場での男女の扱いについては、平等になっていると思いますか。①～⑦のそれぞれについてお答えください。（○印1つずつ）

職場における男女の扱いについて、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が高い順に、「③昇進や昇格」(60.2%)、「②賃金・昇給」(56.9%)となっている。

「ほぼ平等になっている」については、「⑦有給休暇の取得」(53.0%)、「⑥教育訓練や研修」(47.0%)などが比較的高い。

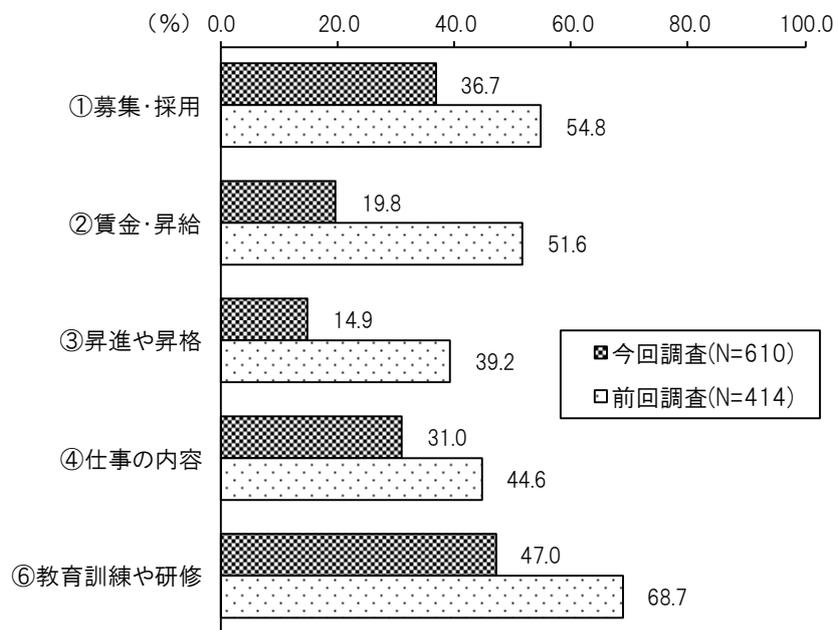
一方、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」の回答については、「⑦有給休暇の取得」(12.5%)、「④仕事の内容」(7.9%)、などがあげられるが、いずれもその割合は相対的に低くなっている。



性別では、男女とも共通して「②賃金・昇給」「③昇進や昇格」などは、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」と回答している。一方で、「⑦有給休暇の取得」については、男性で「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」がやや高い。



参考／前回調査との比較（「平等」の割合）



注：前回調査については、「平等」と「ほぼ平等」の合計値。

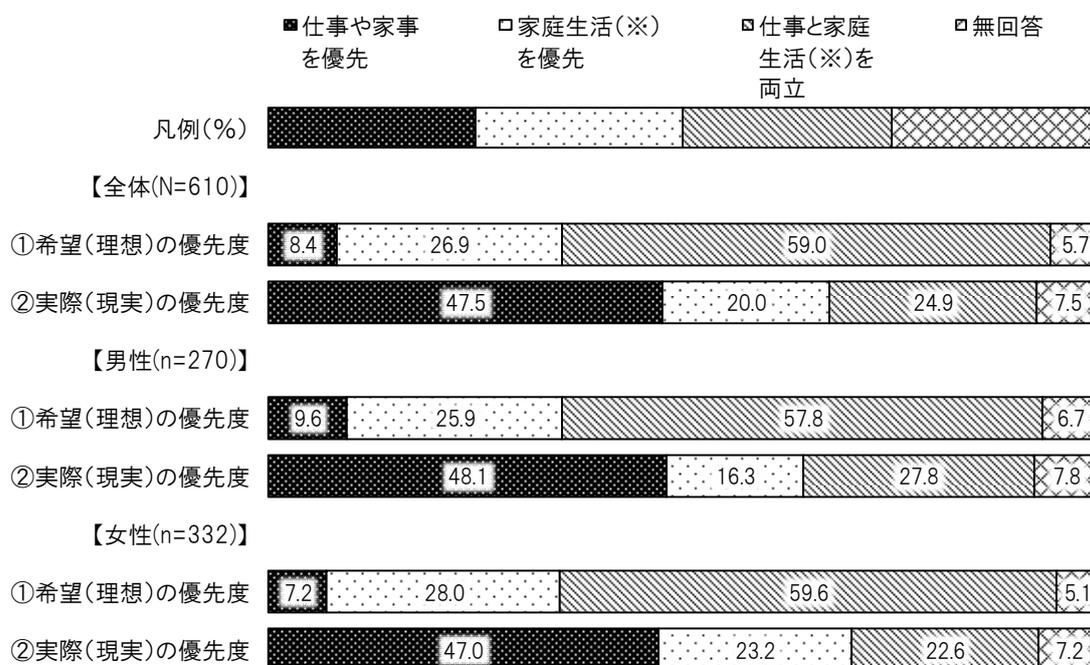
## 7 日常生活の理想と現実について

問 16. 日常生活における、「仕事や家事」「家庭生活（プライベートな時間／趣味や学習・地域活動・付き合いなど）」のバランスについて、①あなたの希望する（理想とする）優先度と②実際の（現実の）優先度をお答えください。（○印1つずつ）

日常生活の理想と現実について、①希望（理想）の優先度は、「仕事・家庭生活（プライベートな時間）を両立」が59.0%で最も高く、次いで「家庭生活（プライベートな時間）を優先」（26.9%）、「仕事や家事を優先」（8.4%）の順となっている。

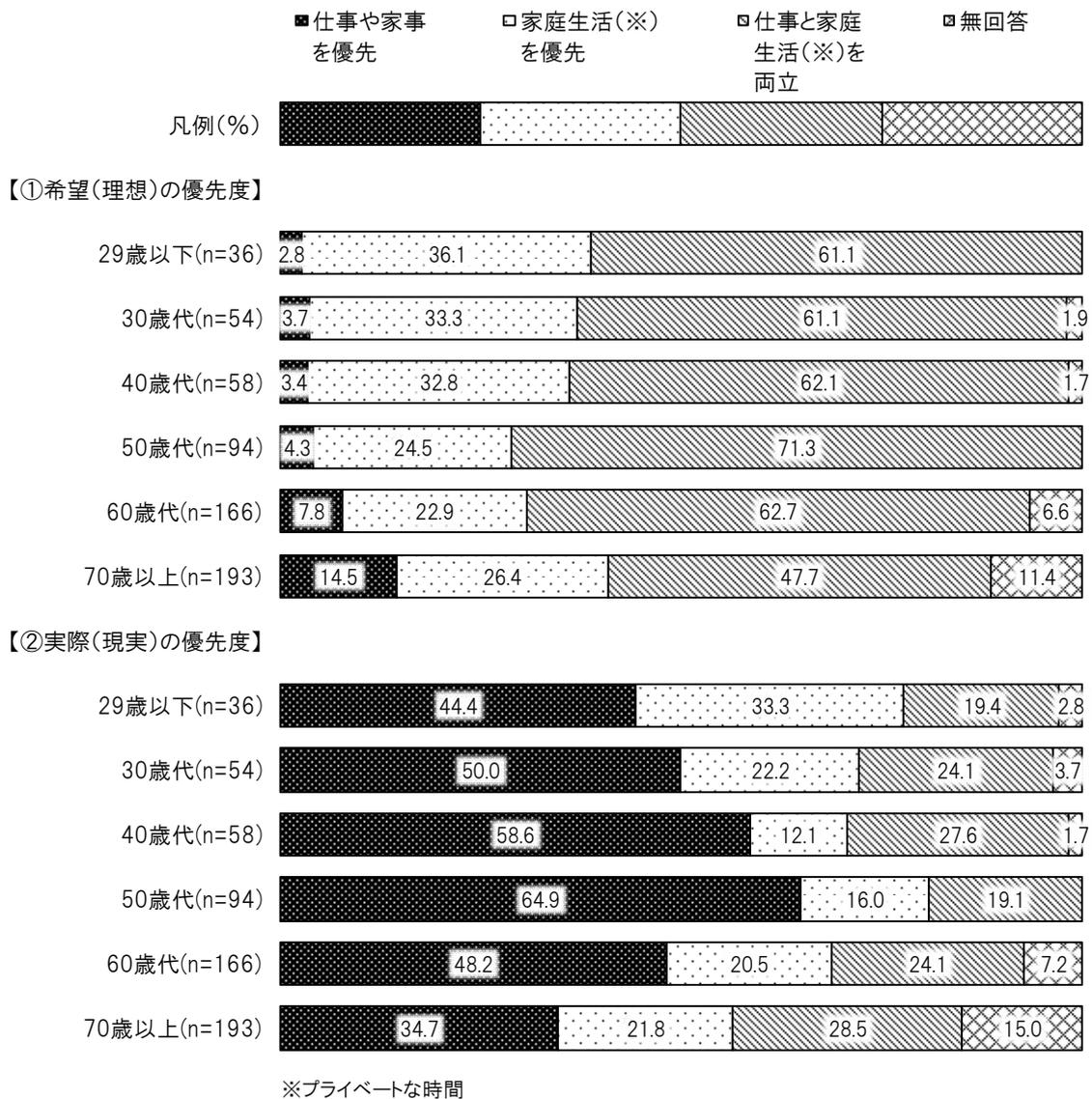
一方、②実際（現実）の優先度をみると、「仕事や家事を優先」が47.5%と最も高く、「仕事・家庭生活（プライベートな時間）を両立」が24.9%となっており、理想と現実のギャップが大きい。

性別でも全体と同様の傾向となっている。

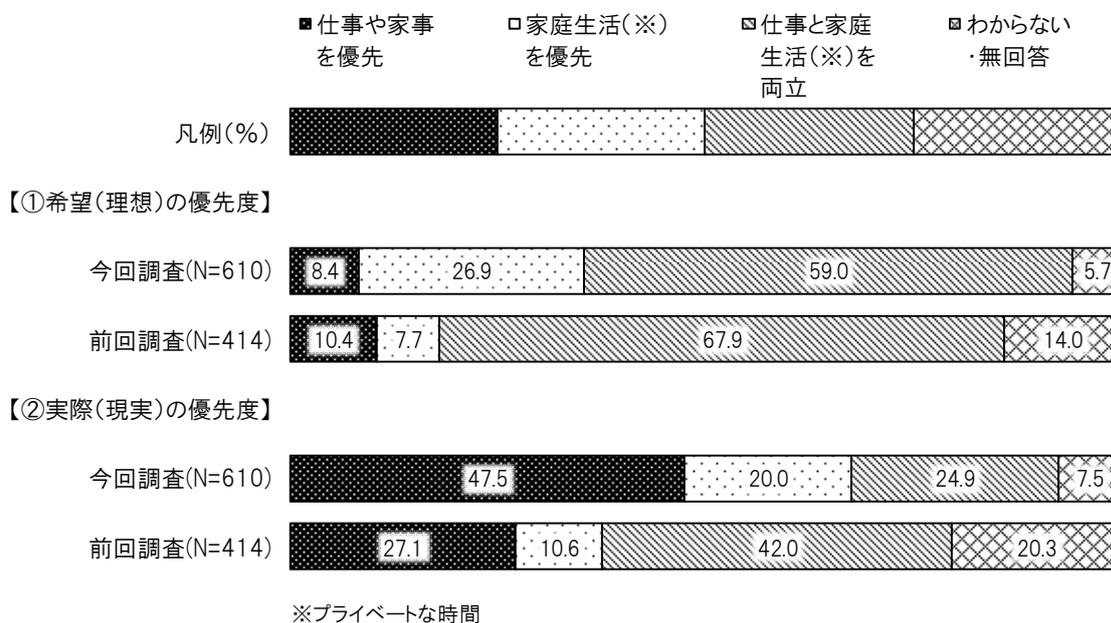


※プライベートな時間

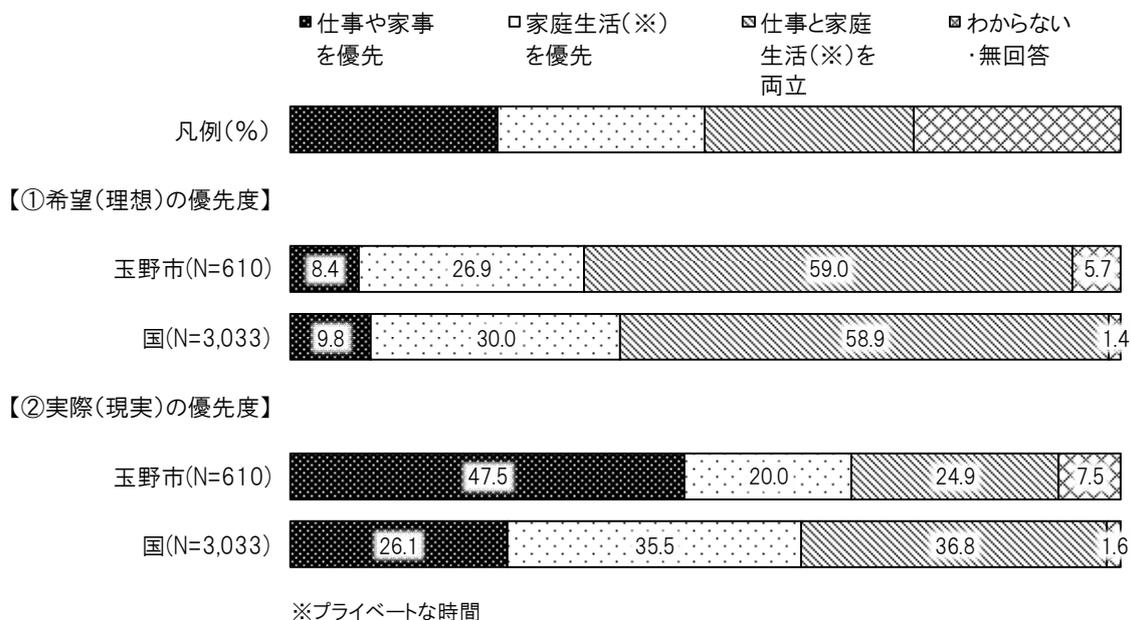
年齢別では、全般的に理想は「仕事と家庭生活（プライベートな時間）を両立」、実際は「仕事や家事を優先」がそれぞれ高くなっている。特に、50歳代で7割以上が理想は「仕事と家庭生活（プライベートな時間）を両立」と回答する一方、6割以上が実際は「仕事や家事を優先」と回答しており、他の年齢層に比べて理想と現実のギャップが大きくなっている。



## 参考／前回調査との比較



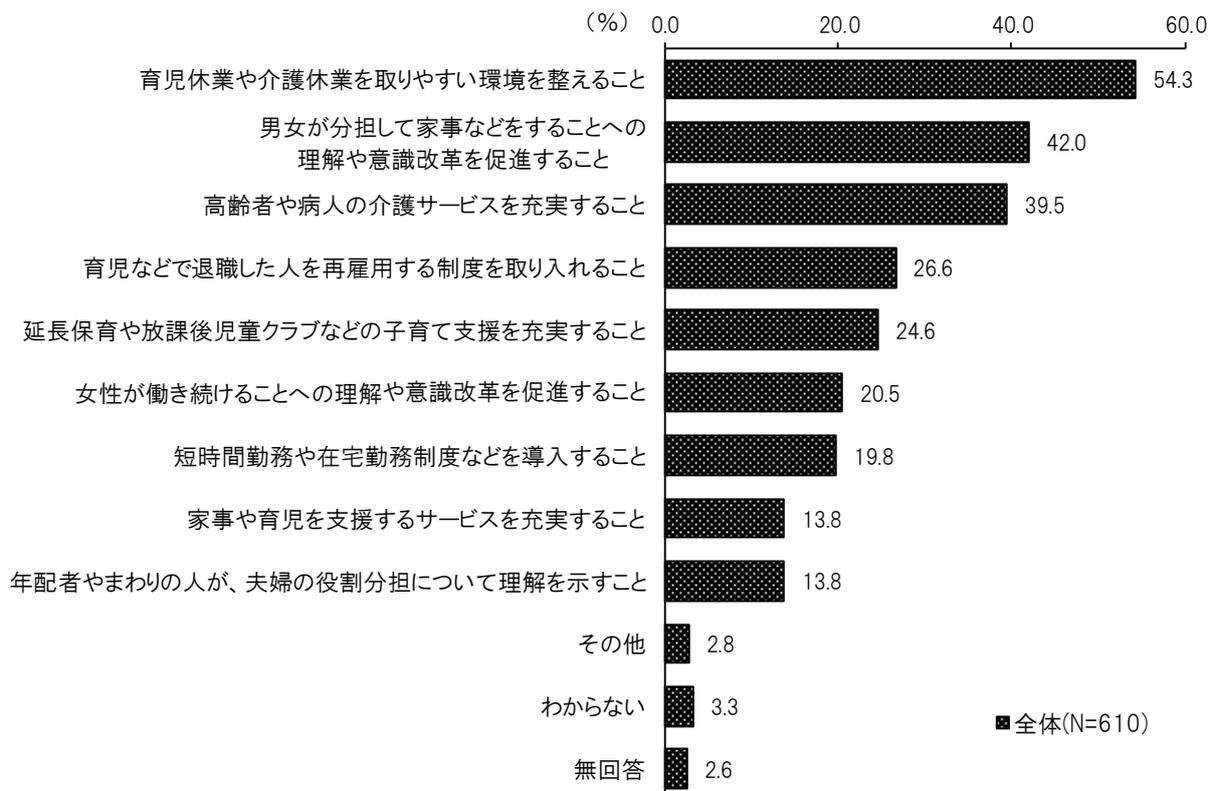
## 参考／国との比較



## 8 仕事と家庭の両立に必要だと思うこと

問 17. 男女がともに、「仕事や家事」と「家庭生活（プライベートな時間／趣味や学習・地域活動・付き合いなど）」を両立させるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。（○印3つまで）

仕事と家庭の両立に必要だと思うことについては、「育児休業や介護休業を取りやすい環境を整えること」が54.3%と最も高く、次いで「男女が分担して家事などを行うことへの理解や意識改革を促進すること」（42.0%）、「高齢者や病人の介護サービスを充実すること」（39.5%）の順となっている。



性別では、男性で「高齢者や病人の介護サービスを充実すること」、女性で「男女が分担して家事などをする事への理解や意識改革を促進すること」がそれぞれ高い。

性・年齢別では、男女とも年齢が上がるほど「高齢者や病人の介護サービスを充実すること」がおおむね高くなる傾向にある。女性の若い年齢層ほど、「男女が分担して家事などをする事への理解や意識改革を促進すること」「延長保育や放課後児童クラブなどの子育て支援を充実すること」「短時間勤務や在宅勤務制度などを導入すること」がおおむね高くなっている。また、特に男性30歳以下で「育児休業や介護休業を取りやすい環境を整えること」、男性60歳代で「育児などで退職した人を再雇用する制度を取り入れること」が他の層に比べてそれぞれ高い。

共働き別では、共働き世帯で「男女が分担して家事などをする事への理解や意識改革を促進すること」、非共働き世帯で「育児休業や介護休業を取りやすい環境を整えること」「高齢者や病人の介護サービスを充実すること」がそれぞれ高くなっている。

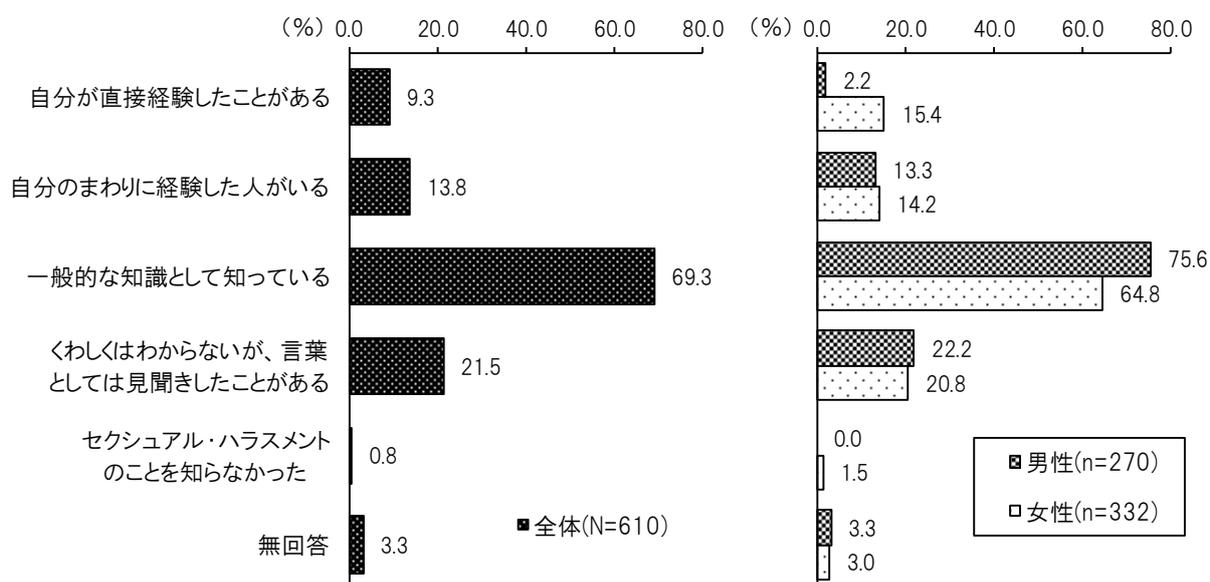
単位(%)	とりやすい環境を整えること	育児休業や介護休業を促進すること	男女が分担して家事など	意識改革を促進すること	高齢者や病人の介護サービス	再雇用制度を取り入れること	延長保育や放課後児童クラブなどの子育て支援を充実すること	短時間勤務や在宅勤務制	女性の働き続けること	理解や意識改革を促進すること	度など勤務や在宅勤務制	家事や育児を充実すること	夫の役割を分担する	年配者のまわりの人が	その他	わからない
全体(N=610)	54.3	42.0	39.5	26.6	24.6	20.5	19.8	13.8	13.8	2.8	3.3					
<b>【性別】</b>																
男性(n=270)	54.8	35.6	45.6	28.1	22.2	20.0	17.0	17.8	12.6	2.2	3.3					
女性(n=332)	55.1	47.0	34.9	24.4	26.5	21.1	22.3	10.5	15.1	3.0	3.0					
<b>【性・年齢別】</b>																
男性	29歳以下(n=14)	78.6	35.7	0.0	14.3	35.7	28.6	7.1	21.4	0.0	0.0	21.4				
	30歳代(n=19)	78.9	47.4	31.6	21.1	26.3	31.6	15.8	26.3	5.3	0.0	0.0				
	40歳代(n=18)	50.0	44.4	16.7	22.2	27.8	22.2	16.7	11.1	11.1	16.7	0.0				
	50歳代(n=35)	57.1	25.7	48.6	34.3	22.9	14.3	31.4	14.3	5.7	0.0	2.9				
	60歳代(n=77)	53.2	39.0	53.2	41.6	26.0	22.1	19.5	20.8	9.1	1.3	0.0				
	70歳以上(n=106)	49.1	33.0	51.9	20.8	16.0	17.0	12.3	16.0	20.8	1.9	4.7				
女性	29歳以下(n=22)	68.2	54.5	13.6	18.2	45.5	22.7	31.8	9.1	13.6	0.0	0.0				
	30歳代(n=35)	40.0	65.7	20.0	28.6	37.1	25.7	34.3	11.4	22.9	0.0	5.7				
	40歳代(n=40)	60.0	50.0	30.0	22.5	27.5	15.0	30.0	7.5	10.0	10.0	0.0				
	50歳代(n=59)	55.9	55.9	30.5	23.7	30.5	25.4	25.4	13.6	18.6	5.1	0.0				
	60歳代(n=87)	58.6	47.1	44.8	20.7	23.0	23.0	19.5	13.8	11.5	1.1	2.3				
	70歳以上(n=87)	50.6	31.0	42.5	29.9	17.2	14.9	11.5	6.9	16.1	2.3	6.9				
<b>【共働き別】</b>																
共働き世帯(n=166)	48.2	50.0	33.1	31.3	28.9	21.1	24.1	16.3	17.5	4.2	2.4					
非共働き世帯(n=256)	58.2	39.1	41.8	24.6	24.6	20.3	19.5	15.2	13.7	1.2	2.0					

## 9 セクシュアル・ハラスメントの経験

問 18. あなたは、身近でセクシュアル・ハラスメント（セクハラ：相手の意に反した性的な性質の言動で、身体への不必要な接触、性的関係の強要等をいう）を経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。（○印いくつでも）

セクシュアル・ハラスメントの経験については、「一般的な知識として知っている」が69.3%と最も高く、「自分のまわりに経験した人がある」が13.8%、「自分が直接経験したことがある」が9.3%であった。

性別では、女性の1割以上（15.4%）が「自分が直接経験したことがある」と回答している。また、女性に比べて男性で「一般的な知識として知っている」が高い。



性・年齢別では、女性 30～40 歳代で「自分が直接経験したことがある」が高く、女性 29 歳以下で「自分のまわりに経験した人がある」が他の層に比べて高くなっている。

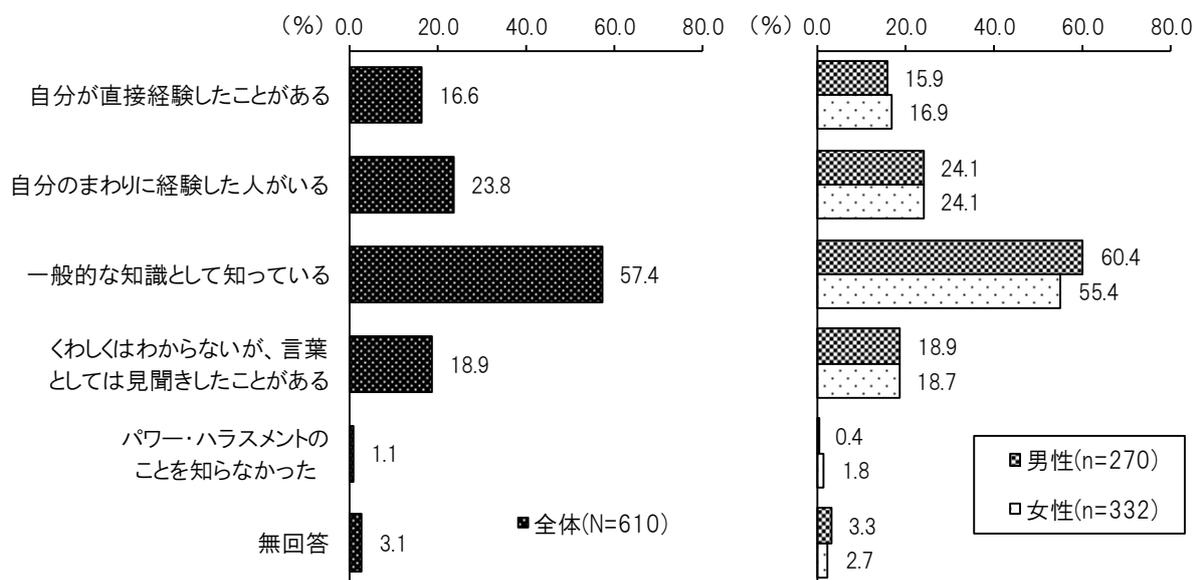
単位(%)		自分が直接経験したことがある	自分のまわりに経験した人がある	一般的な知識として	一般的に知られていること	聞き覚えのあること	メディア・インターネット・雑誌・新聞
全体(N=610)		9.3	13.8	69.3	21.5	0.8	
【性・年齢別】							
男性	29歳以下(n=14)	0.0	0.0	85.7	14.3	0.0	
	30歳代(n=19)	5.3	10.5	78.9	5.3	0.0	
	40歳代(n=18)	0.0	5.6	77.8	22.2	0.0	
	50歳代(n=35)	2.9	14.3	88.6	2.9	0.0	
	60歳代(n=77)	3.9	20.8	76.6	19.5	0.0	
	70歳以上(n=106)	0.9	11.3	67.9	34.9	0.0	
女性	29歳以下(n=22)	13.6	27.3	63.6	13.6	4.5	
	30歳代(n=35)	22.9	17.1	57.1	8.6	0.0	
	40歳代(n=40)	27.5	17.5	60.0	15.0	0.0	
	50歳代(n=59)	16.9	18.6	76.3	13.6	0.0	
	60歳代(n=87)	14.9	9.2	73.6	20.7	0.0	
	70歳以上(n=87)	5.7	8.0	54.0	35.6	4.6	

## 10 パワー・ハラスメントの経験

問 19. あなたは、身近でパワー・ハラスメント（パワハラ：職務上の地位や権限を利用し、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与えるような行為）を経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。（○印いくつでも）

パワー・ハラスメントの経験については、「一般的な知識として知っている」が57.4%と最も高く、「自分のまわりに経験した人がある」が23.8%、「自分が直接経験したことがある」が16.6%であった。

性別では、女性に比べて男性で「一般的な知識として知っている」がやや高いが、大きな差はみられない。



性・年齢別では、男性 50 歳代で「自分が直接経験したことがある」が 4 割以上を占め特に高く、女性は若い年齢層ほど「自分が直接経験したことがある」が高い。また、特に女性 50 歳代で「自分のまわりに経験した人がある」が他の層に比べて高く、男女とも 70 歳以上では「くわしくはわからないが、言葉としては見聞きしたことがある」が高い。

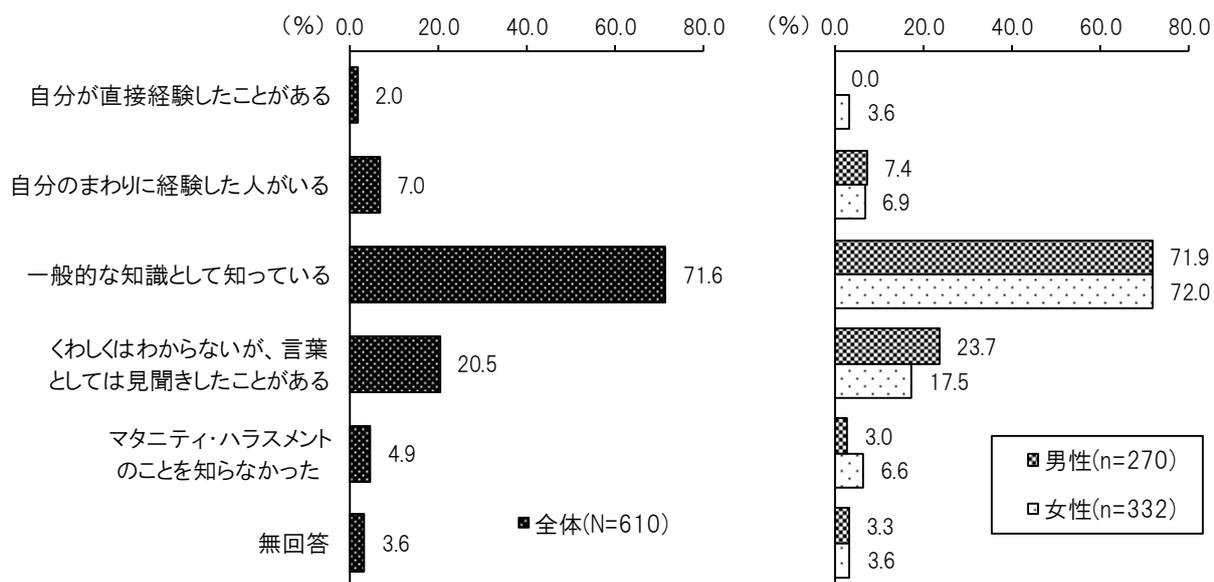
単位(%)	自分が直接経験したことがある	自分のまわりに経験した人がある	一般的な知識として知っている	くわしくはわからないが、言葉としては見聞きしたことがある	パワーワードを知らなかった	
全体(N=610)	16.6	23.8	57.4	18.9	1.1	
【性・年齢別】						
男性	29歳以下(n=14)	7.1	7.1	64.3	21.4	0.0
	30歳代(n=19)	10.5	10.5	68.4	10.5	0.0
	40歳代(n=18)	16.7	38.9	50.0	11.1	0.0
	50歳代(n=35)	42.9	31.4	45.7	0.0	0.0
	60歳代(n=77)	20.8	40.3	62.3	13.0	0.0
	70歳以上(n=106)	5.7	12.3	63.2	32.1	0.9
女性	29歳以下(n=22)	27.3	40.9	45.5	13.6	0.0
	30歳代(n=35)	25.7	28.6	57.1	8.6	0.0
	40歳代(n=40)	22.5	22.5	62.5	5.0	0.0
	50歳代(n=59)	20.3	44.1	49.2	11.9	1.7
	60歳代(n=87)	17.2	19.5	59.8	19.5	2.3
	70歳以上(n=87)	4.6	9.2	54.0	34.5	3.4

## 11 マタニティ・ハラスメントの経験

問 20. あなたは、身近でマタニティ・ハラスメント（マタハラ：働く女性が妊娠・出産を理由として解雇されることや、職場で受ける精神的・肉体的な苦痛を与えるような行為）を経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。（○印いくつでも）

マタニティ・ハラスメントの経験については、「一般的な知識として知っている」が71.6%と最も高く、「自分のまわりに経験した人がある」が7.0%、「自分が直接経験したことがある」が2.0%であった。

性別では、女性の3.6%が「自分が直接経験したことがある」と回答している。



性・年齢別では、女性 29 歳以下の約 1 割が「自分が直接経験したことがある」と回答している。また、女性 30 歳以下で「自分のまわりに経験した人がある」が他の層に比べて高くなっている。

単位(%)	自分が直接経験したことがある	自分のまわりに経験した人がある	一般的な知識として知っている	くわしくはわからないが、言葉としてある	マタニティ・ハラスメットを知らない	
全体(N=610)	2.0	7.0	71.6	20.5	4.9	
【性・年齢別】						
男性	29歳以下(n=14)	0.0	0.0	71.4	28.6	0.0
	30歳代(n=19)	0.0	10.5	73.7	15.8	0.0
	40歳代(n=18)	0.0	5.6	72.2	22.2	0.0
	50歳代(n=35)	0.0	5.7	88.6	5.7	2.9
	60歳代(n=77)	0.0	11.7	79.2	16.9	2.6
	70歳以上(n=106)	0.0	5.7	60.4	35.8	4.7
女性	29歳以下(n=22)	9.1	18.2	59.1	22.7	4.5
	30歳代(n=35)	0.0	17.1	74.3	8.6	8.6
	40歳代(n=40)	5.0	5.0	72.5	20.0	0.0
	50歳代(n=59)	6.8	10.2	88.1	10.2	1.7
	60歳代(n=87)	3.4	1.1	75.9	13.8	9.2
	70歳以上(n=87)	0.0	3.4	58.6	27.6	10.3

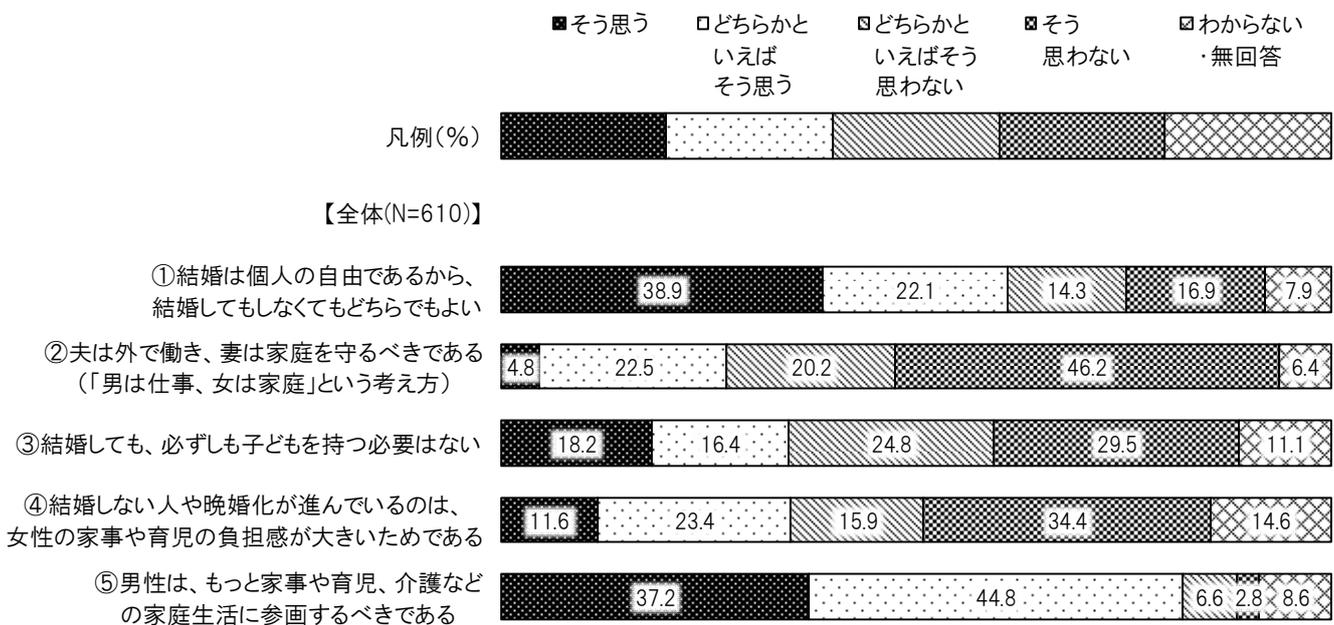
### 【3】家庭生活と男女の役割について

#### 1 結婚と家庭に関する考え方

問 21. あなたは、結婚と家庭に関する次のような考えについて、どのように思いますか。①から⑤のそれぞれについてお答えください。(○印1つずつ)

結婚と家庭に関する考え方については、『賛成意向\*』の割合が高い順に「⑤男性は、もっと家事や育児、介護などの家庭生活に参画するべきである」(82.0%)、「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」(61.0%)となっている。

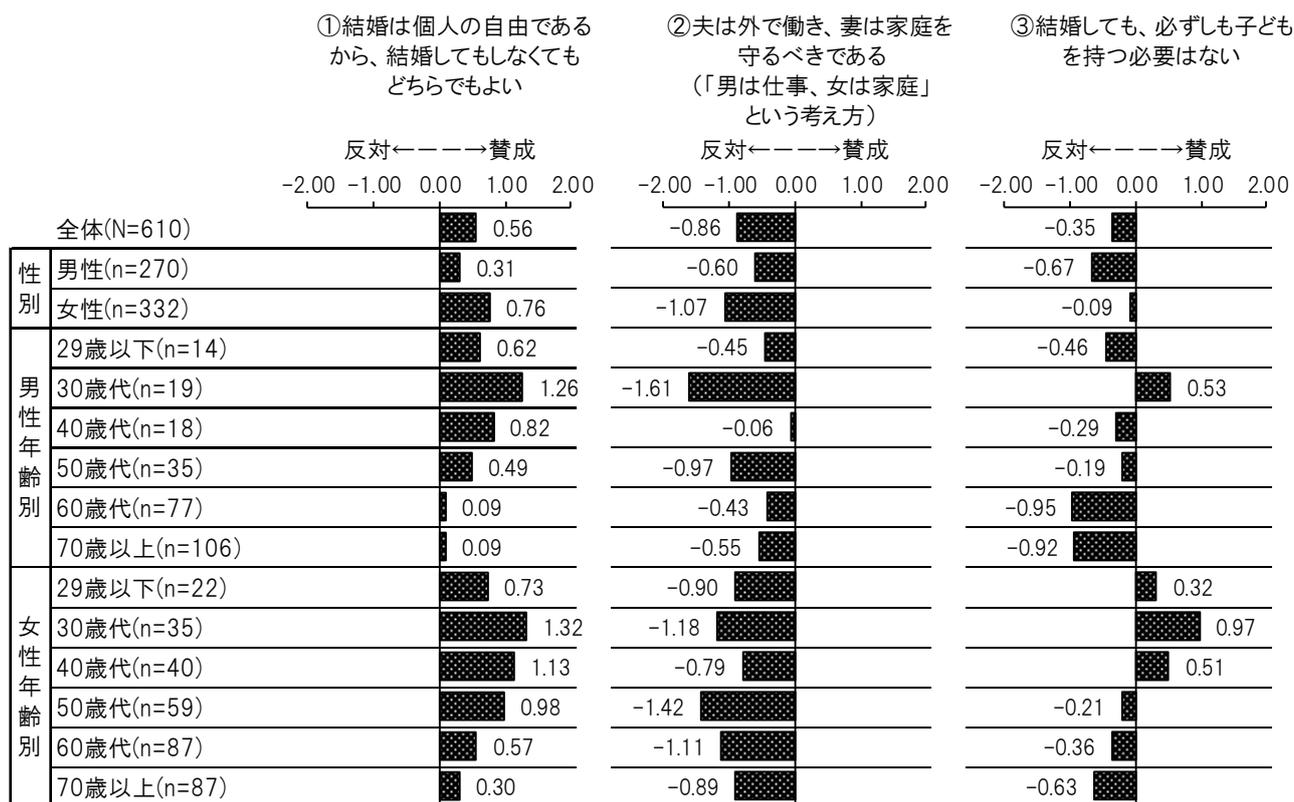
逆に『反対意向\*』の割合が高い順では、「②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである(「男は仕事、女は家庭」という考え方)」(66.4%)、「③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」(54.3%)、「④結婚しない人や晩婚化が進んでいるのは、女性の家事や育児の負担感が大きいいためである」(50.3%)となっている。



※「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて『賛成意向』, 「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせて『反対意向』とする。

加重平均値※による属性別傾向をみると、性別では、「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」は女性の『賛成意向』、「②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである（「男は仕事、女は家庭」という考え方）」は女性の『反対意向』がそれぞれ高く、「③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」は男性の『反対意向』がやや高い。一方で、男女とも「⑤男性は、もっと家事や育児、介護などの家庭生活に参画するべきである」の『賛成意向』が共通して高くなっている。

性・年齢別でみると、「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」は、男女とも若い年齢層ほど『賛成意向』がおおむね高くなる傾向にある。「③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」は、男性60歳以上で『反対意向』が高く、女性の若い年齢層ほど『賛成意向』がおおむね高くなる傾向にある。「④結婚しない人や晩婚化が進んでいるのは、女性の家事や育児の負担感が大きいためである」は、男性の若い層ほど『反対意向』がおおむね高くなる傾向にある。また、「②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである（「男は仕事、女は家庭」という考え方）」は、男性30歳代で『反対意向』が他の層に比べて高くなっている。

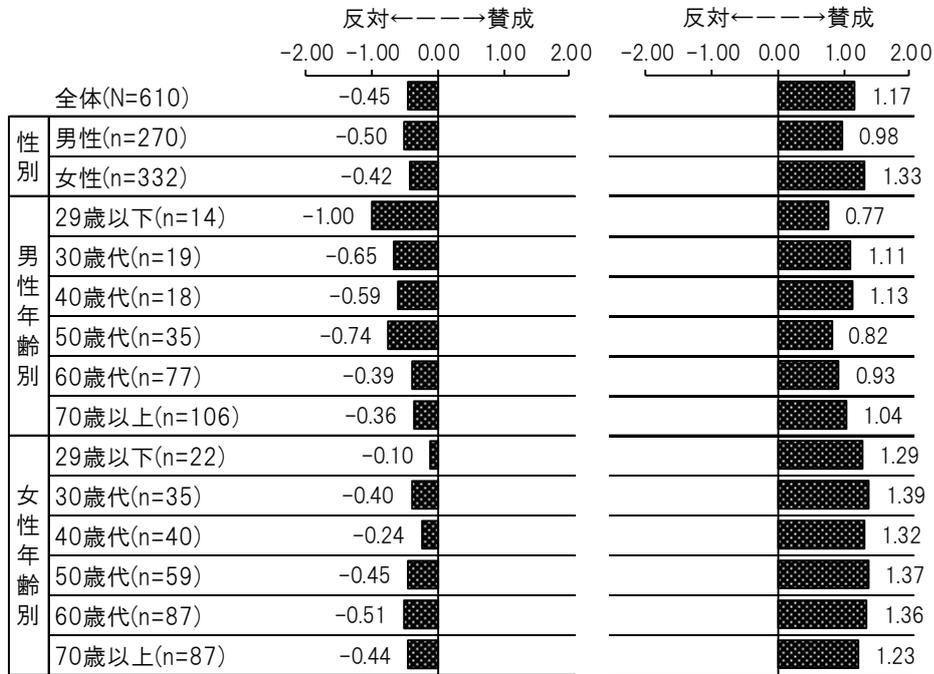


※加重平均値による属性別傾向

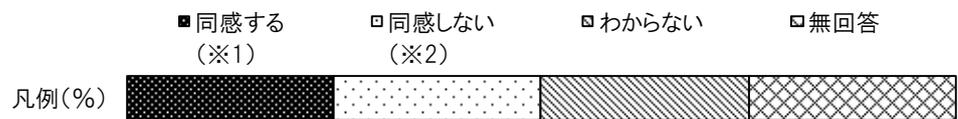
加重平均値とは、「そう思わない」に-2点、「どちらかといえばそう思わない」に-1点、「どちらかといえばそう思う」に+1点、「そう思う」に+2点の係数を、それぞれの回答件数に乘じ、加重平均して算出した値で、-2点に近いほど反対、+2点に近いほど賛成を示す指標である。

④結婚しない人や晩婚化が進んでいるのは、女性の家事や育児の負担感が大きいためである

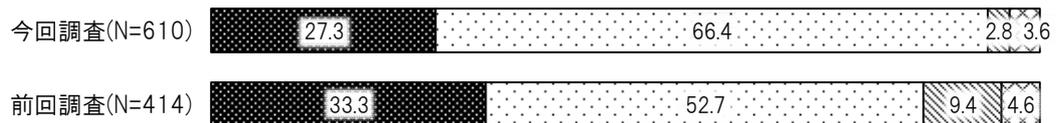
⑤男性は、もっと家事や育児、介護などの家庭生活に参画するべきである



参考／前回調査との比較（②「男は仕事、女は家庭」という考え方）

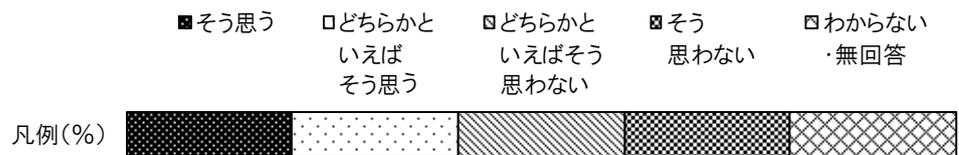


【②「男は仕事、女は家庭」という考え方】

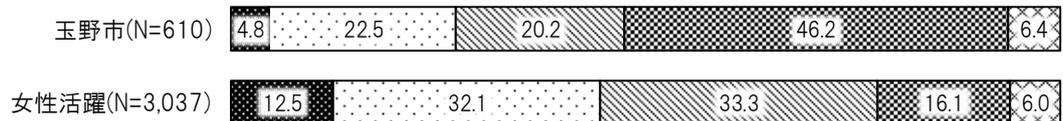


※1: 今回調査については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値。  
 ※2: 今回調査については、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計値。

参考／女性活躍との比較（②「男は仕事、女は家庭」という考え方）



【②「男は仕事、女は家庭」という考え方】

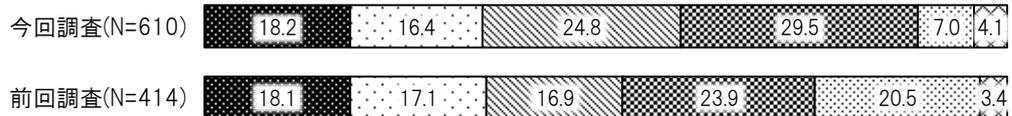


注: 女性活躍の選択肢は、「賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「反対」。

参考／前回調査との比較（③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない）

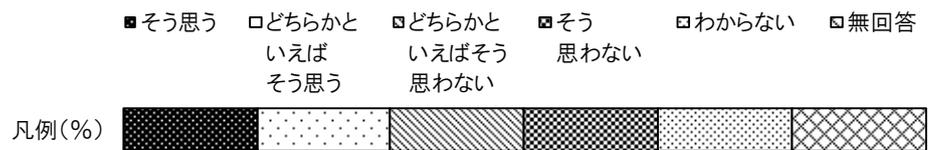


【③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない】

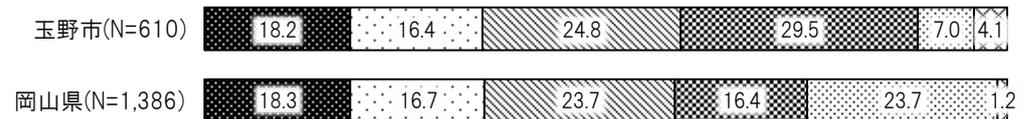


注：前回調査の選択肢は、「思う」「どちらかといえば思う」「どちらかといえば思わない」「どちらとも言えない」。

参考／岡山県との比較（③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない）



【③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない】



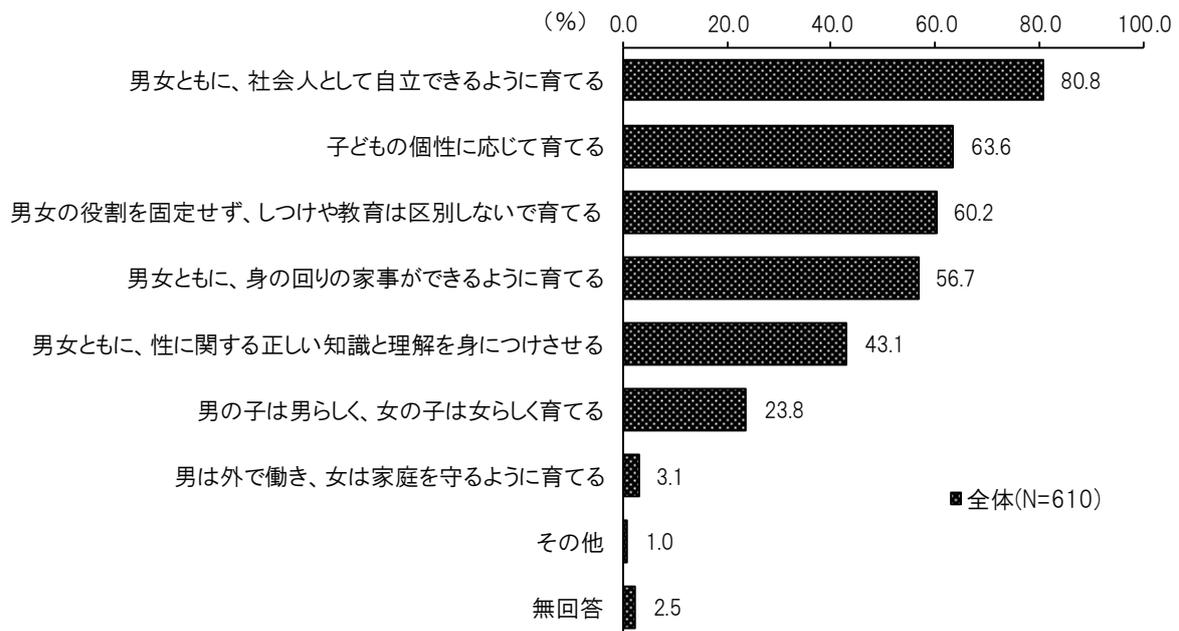
注：岡山県の選択肢は、「賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「反対」「どちらともいえない」。

## 2 子育てについての考え方

問 22. あなたは、子どもの育て方について、どのように考えますか。

(○印いくつでも)

子どもの育て方については、「男女ともに、社会人として自立できるように育てる」が80.8%と最も高く、次いで「子どもの個性に応じて育てる」(63.6%)、「男女の役割を固定せず、しつけや教育は区別しないで育てる」(60.2%)、「男女ともに、身の回りの家事ができるように育てる」(56.7%)の順となっている。

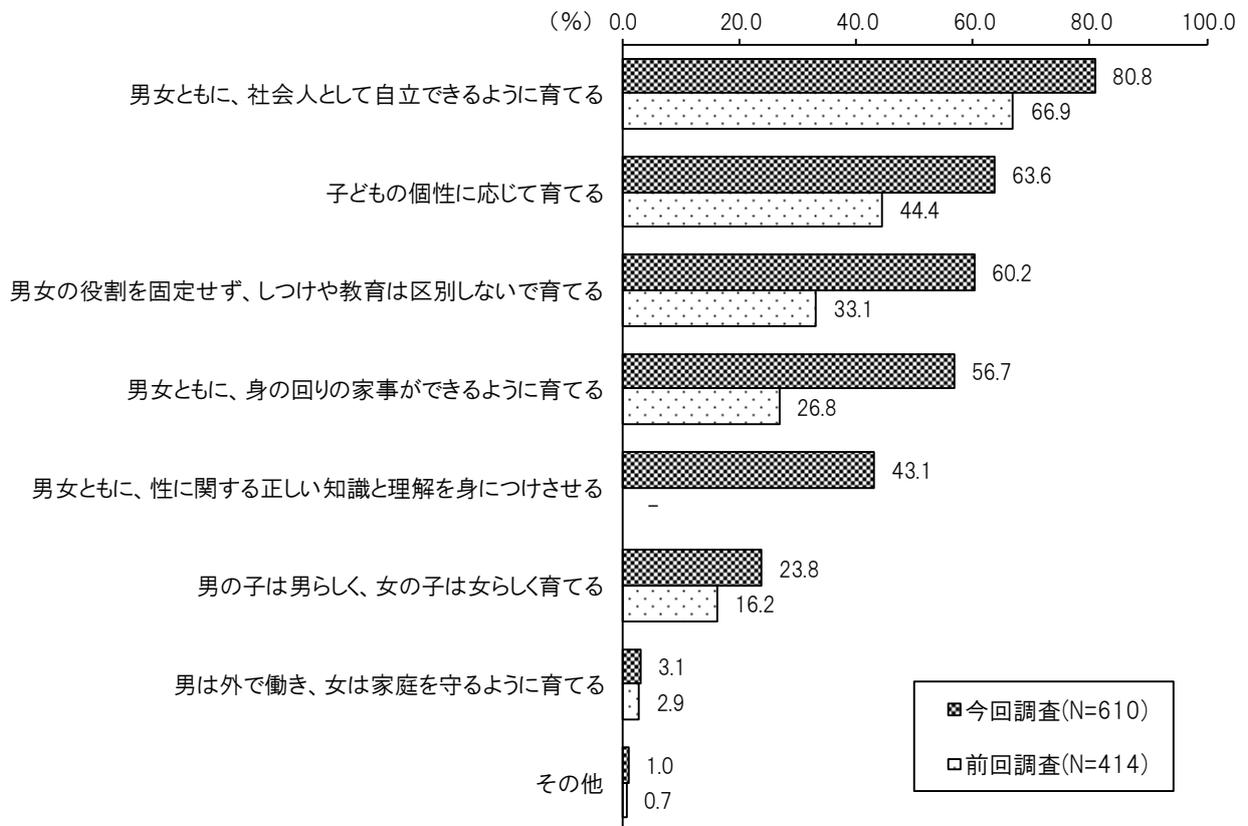


性別では、男性で「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」、女性で「男女ともに、身の回りの家事ができるように育てる」「男女ともに、性に関する正しい知識と理解を身につけさせる」がそれぞれ高い。

性・年齢別では、男女とも若い年齢層ほど「男女ともに、性に関する正しい知識と理解を身につけさせる」がおおむね共通して高く、女性の若い年齢層ほど「男女ともに、身の回りの家事ができるように育てる」がおおむね高くなる傾向にある。また、男性30歳代、女性30歳代以下及び女性50歳代で「男女の役割を固定せず、しつけや教育は区別しない育てる」、男性50歳代と女性29歳以下で「子どもの個性に応じて育てる」、男性60歳代で「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」、女性29歳以下と女性50歳代で「男女ともに、社会人として自立できるように育てる」が他の層に比べてそれぞれ高い。

単位(%)	うと男に にし女 育てと てる自 もに で、 き社 会よ 人	て子 育ど ても の個 性に 応じ	区男 ず別、 女女 しし のの なつ いけ や割 でや 育教 定育 はせ	うり男 にの女 育家と てる事 もに で、 き身 るの よ回	解す男 る女 身正と にしも につ け知、 さ識 せと に理 関	て女男 るのの 子子 はは 女男 らら しく く育、	て家男 る庭は を外 守で 働き よう、 に女 育は	そ の 他	
全体(N=610)	80.8	63.6	60.2	56.7	43.1	23.8	3.1	1.0	
【性別】									
男性(n=270)	80.4	61.9	55.9	47.0	34.1	27.8	2.6	0.7	
女性(n=332)	81.9	65.4	63.9	64.5	50.6	20.8	3.3	1.2	
【性・年齢別】									
男性	29歳以下(n=14)	64.3	71.4	64.3	50.0	57.1	14.3	0.0	0.0
	30歳代(n=19)	78.9	52.6	78.9	47.4	42.1	26.3	0.0	0.0
	40歳代(n=18)	83.3	61.1	66.7	66.7	44.4	5.6	5.6	0.0
	50歳代(n=35)	80.0	80.0	54.3	48.6	34.3	20.0	2.9	0.0
	60歳代(n=77)	85.7	62.3	46.8	46.8	29.9	33.8	5.2	2.6
	70歳以上(n=106)	79.2	55.7	55.7	43.4	31.1	32.1	0.9	0.0
女性	29歳以下(n=22)	90.9	77.3	72.7	81.8	81.8	9.1	0.0	0.0
	30歳代(n=35)	74.3	68.6	71.4	74.3	48.6	11.4	2.9	2.9
	40歳代(n=40)	85.0	70.0	62.5	67.5	62.5	15.0	5.0	2.5
	50歳代(n=59)	93.2	71.2	71.2	72.9	57.6	20.3	0.0	1.7
	60歳代(n=87)	87.4	62.1	63.2	60.9	47.1	19.5	3.4	1.1
	70歳以上(n=87)	69.0	57.5	54.0	51.7	36.8	32.2	5.7	0.0

### 参考／前回調査との比較

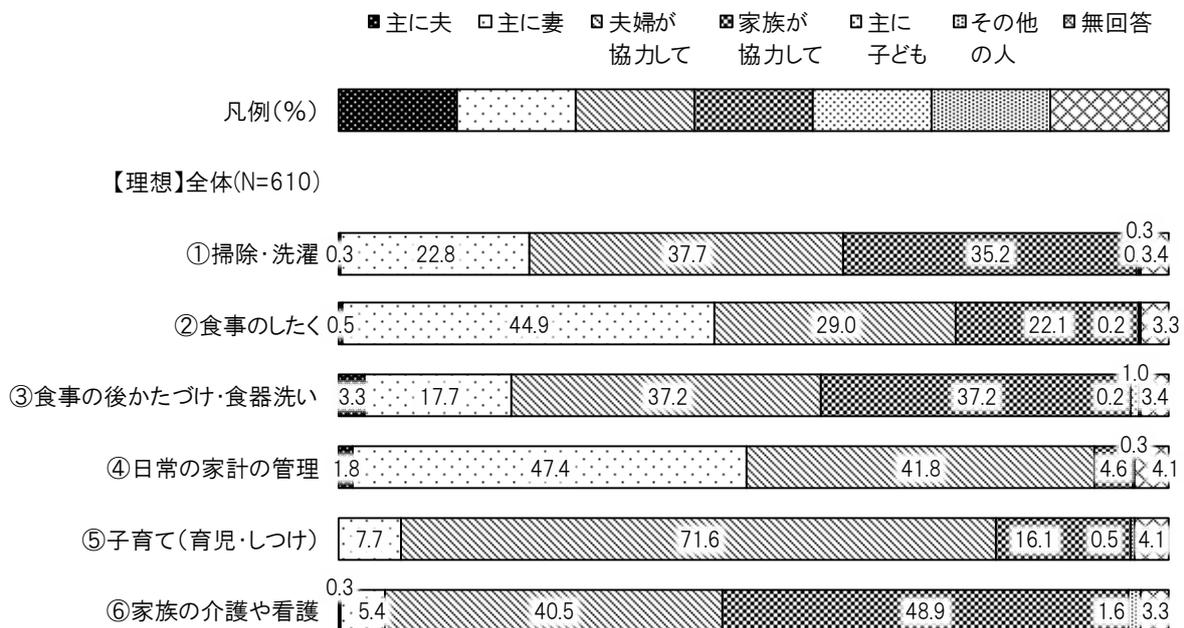


### 3 家庭内の仕事の分担について

#### (1) 理想とする分担

問 23. あなたは、次にあげるような家庭内の仕事を、主に誰が分担するのが理想だと思いますか。①から⑥のそれぞれについてお答えください。※結婚されていない方も、結婚して子どもがいると仮定してお答えください。(○印1つずつ)

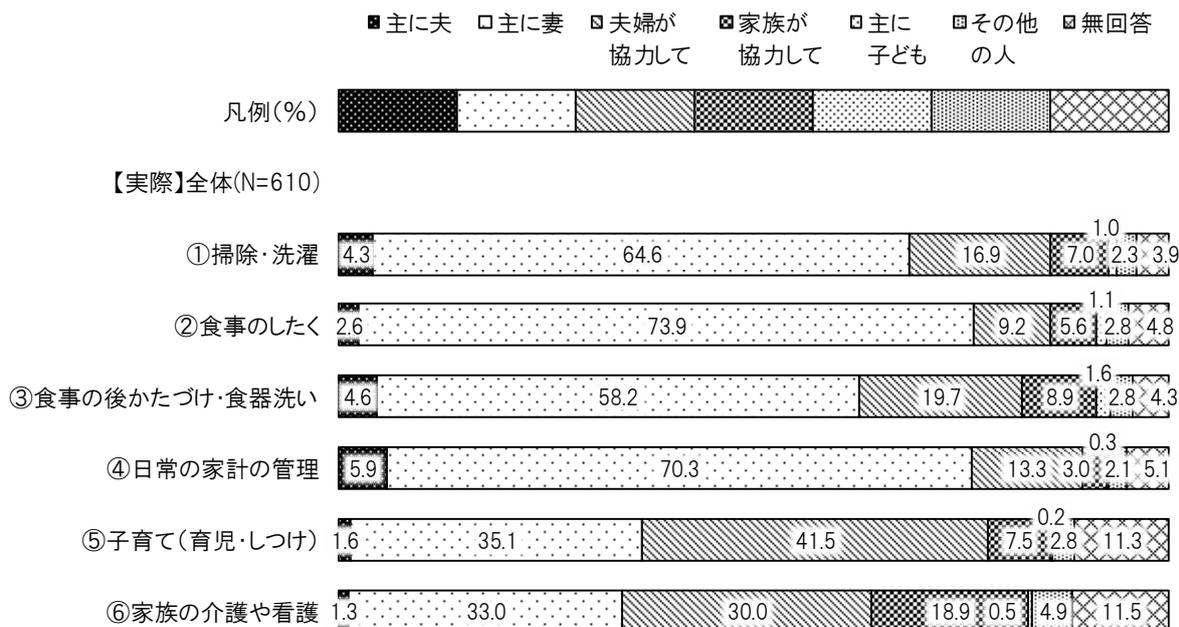
理想とする分担について、「②食事のしたく」「④日常の家計の管理」は「主に妻」、「⑤子育て(育児・しつけ)」は「夫婦が協力して」がそれぞれ高い。また、「①掃除・洗濯」「③食事の後かたづけ・食器洗い」「⑥家族の介護や看護」は「夫婦が協力して」や「家族が協力して」が高く、「④日常の家計の管理」は「主に妻」や「夫婦が協力して」が高くなっている。「主に夫」の割合はいずれも低い。



## (2) 実際の分担

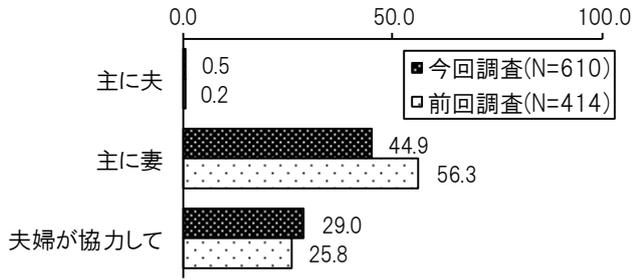
問 24. それでは、あなたの家庭では、次にあげるような家庭内の仕事を、実際に誰が分担していますか。(○印1つずつ)

実際の分担について、「⑤子育て(育児・しつけ)」「⑥家族の介護や看護」は「夫婦が協力して」が比較的高いものの、「①掃除・洗濯」「②食事のしたく」「③食事の後かたづけ・食器洗い」「④日常の家計の管理」については、「主に妻」が高くなっている。

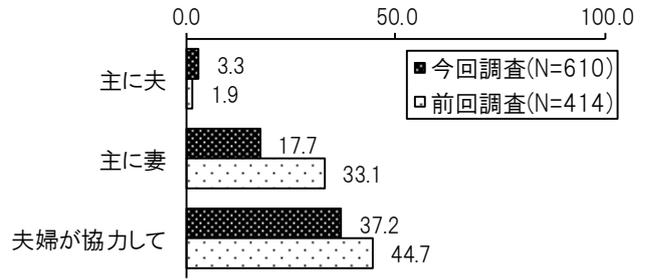


### 参考／前回調査との比較（理想）

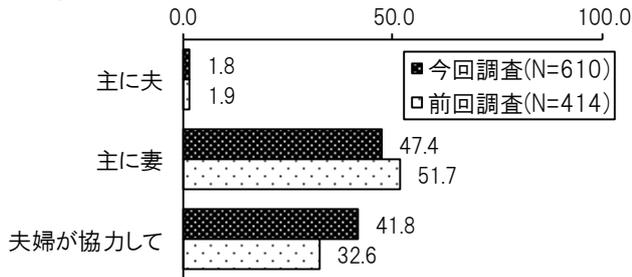
【②食事のしたく(%)】



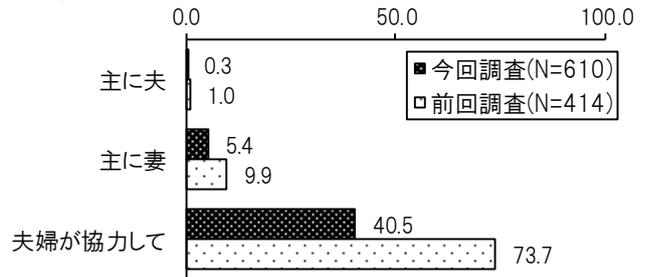
【③食事の後かたづけ・食器洗い(%)】



【④日常の家計の管理(%)】

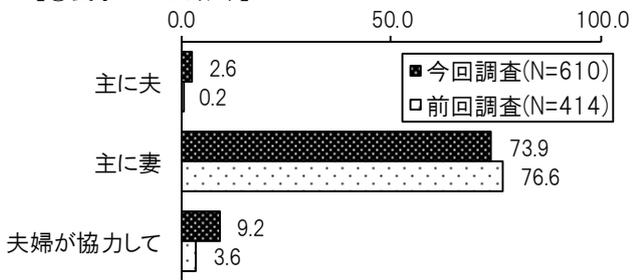


【⑥家族の介護や看護(%)】

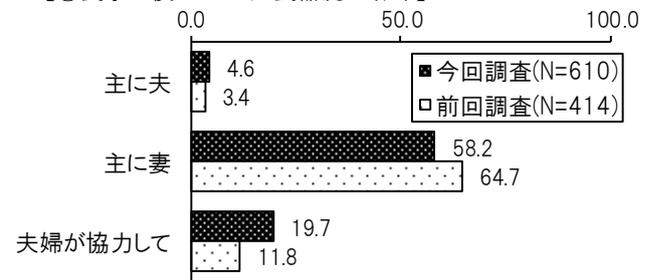


### 参考／前回調査との比較（実際）

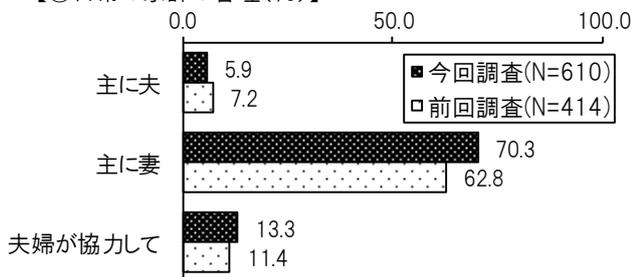
【②食事のしたく(%)】



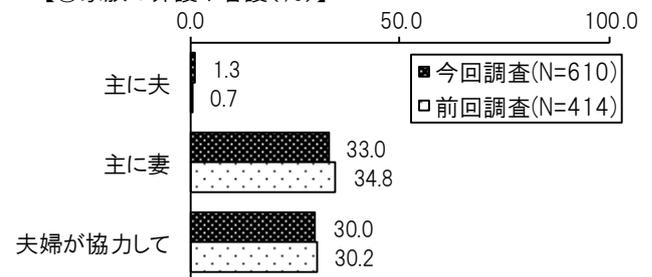
【③食事の後かたづけ・食器洗い(%)】



【④日常の家計の管理(%)】

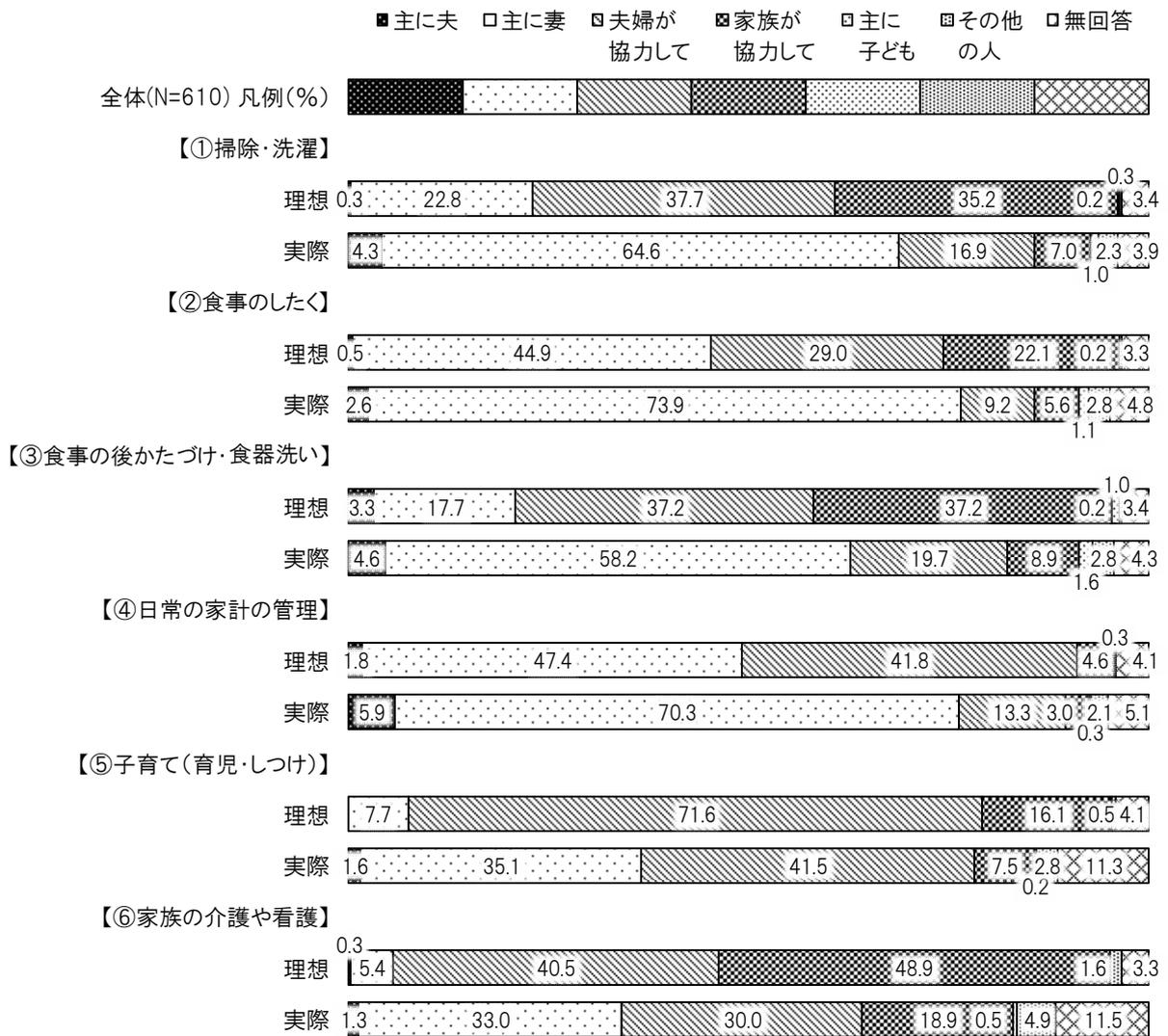


【⑥家族の介護や看護(%)】



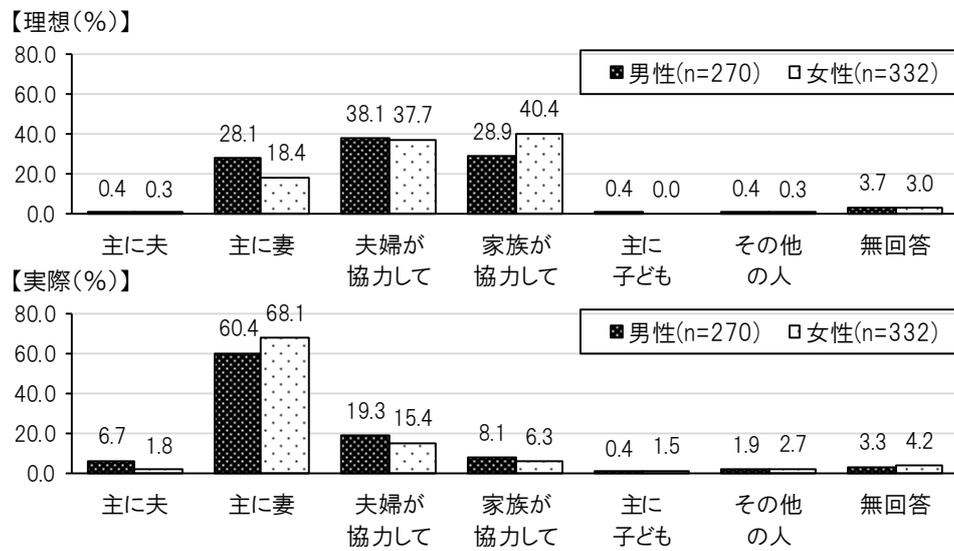
理想と実際を比較してみると、理想に比べて実際は、「①掃除・洗濯」「②食事のしたく」「③食事の後かたづけ・食器洗い」「④日常の家計の管理」といった家庭内の多くの仕事を「主に妻」が担っている。

◆理想と現実の比較◆

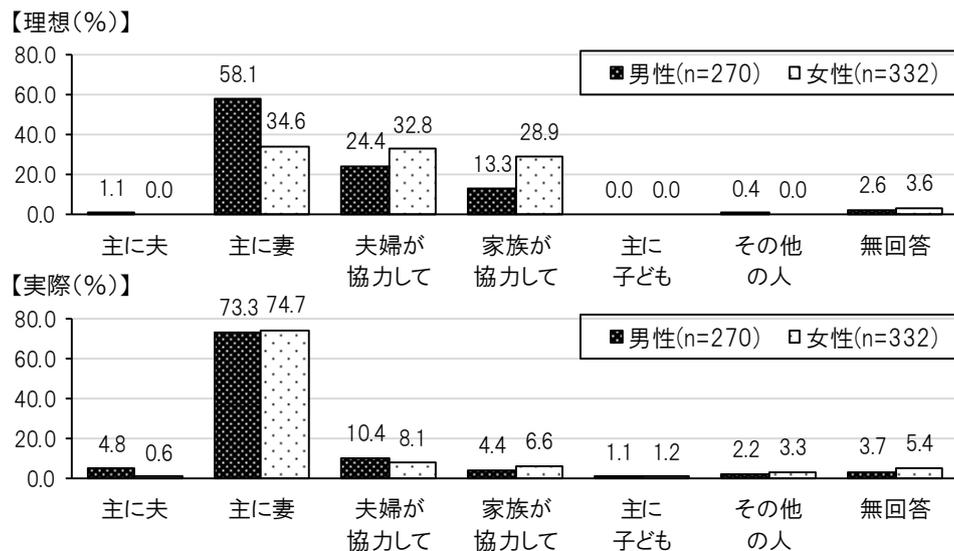


◆理想と現実の比較(性別)◆

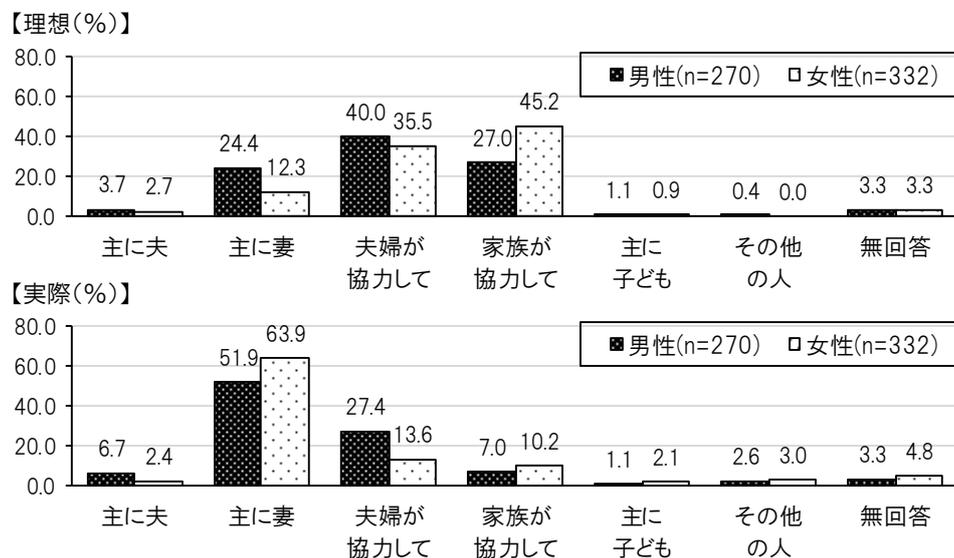
①掃除・洗濯



②食事のしたく

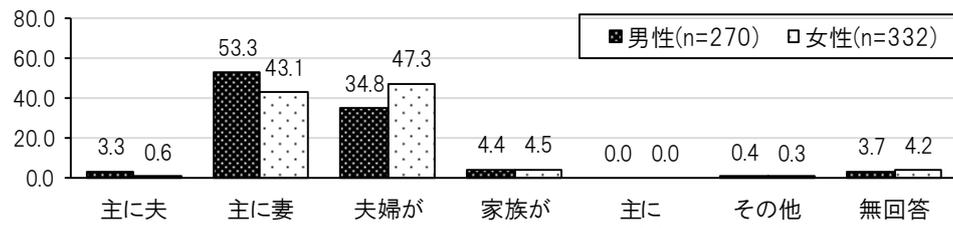


③食事の後かたづけ・食器洗い

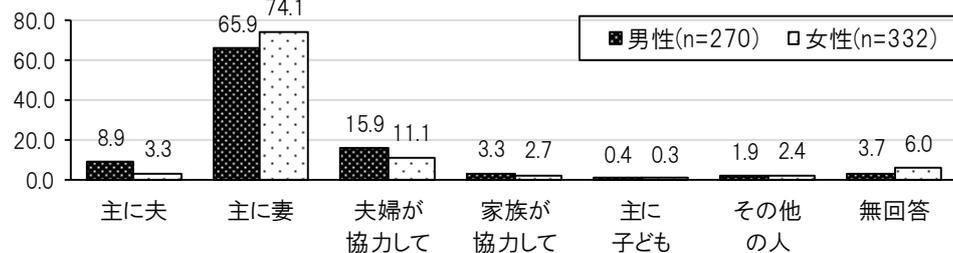


#### ④ 日常の家計の管理

【理想(%)】

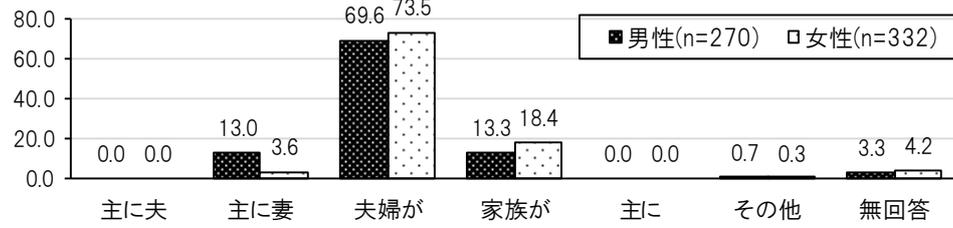


【実際(%)】

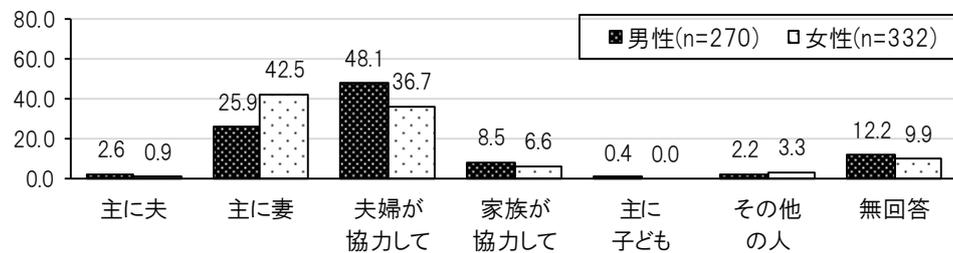


#### ⑤ 子育て(育児・しつけ)

【理想(%)】

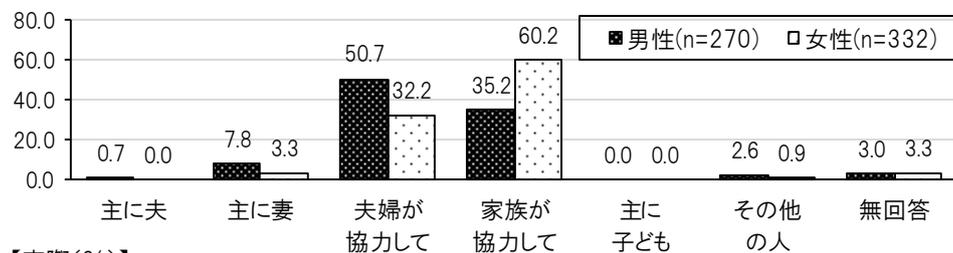


【実際(%)】

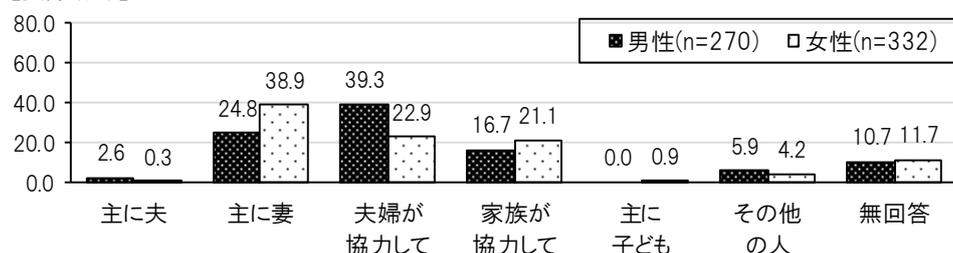


#### ⑥ 家族の介護や看護

【理想(%)】



【実際(%)】



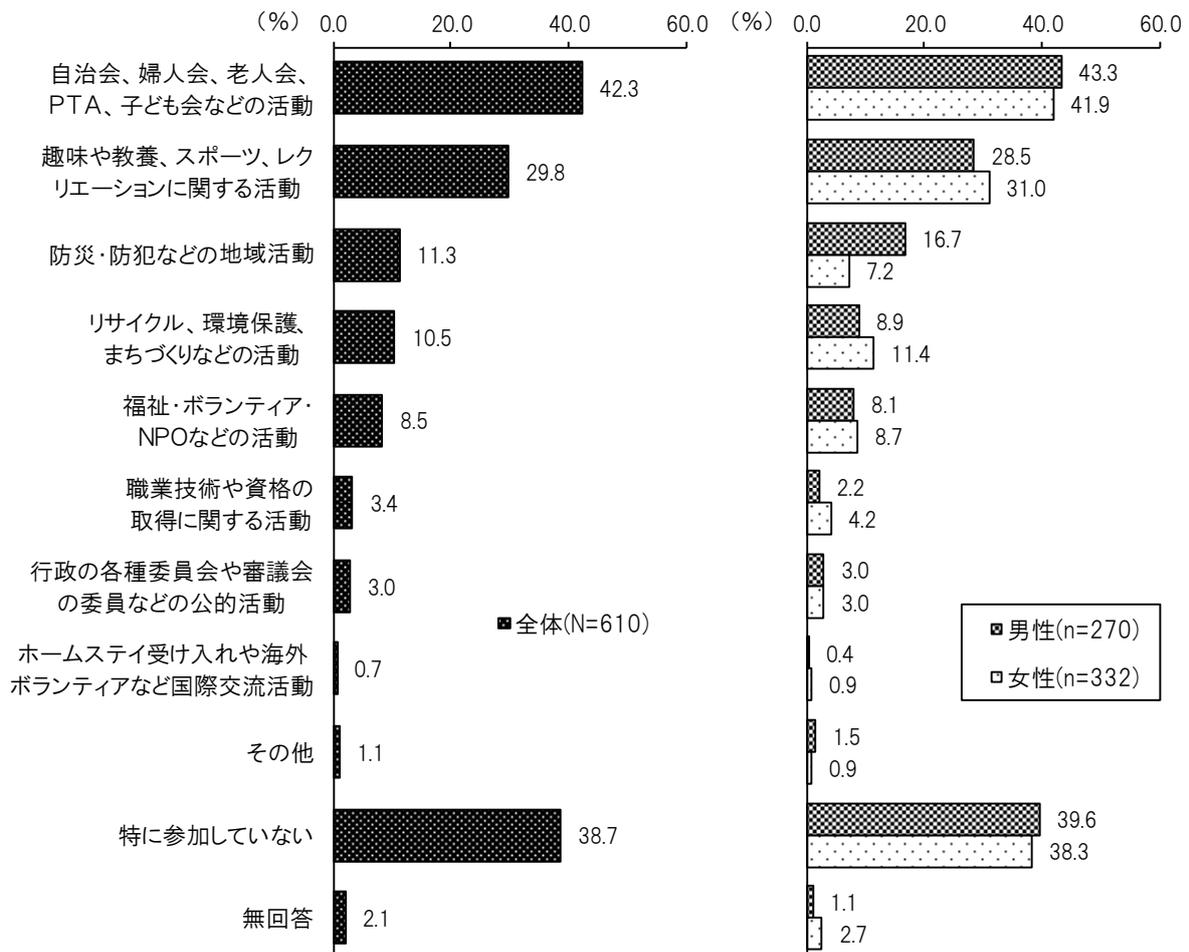
## 【4】地域活動への参加などについて

### 1 地域活動参加状況

問 25. あなたは、現在次のような地域活動に参加していますか。(○印いくつでも)

地域活動参加状況については、「特に参加していない」が38.7%みられるが、参加活動としては「自治会、婦人会、老人会、PTA、子ども会などの活動」が42.3%と最も高く、次いで「趣味や教養、スポーツ、レクリエーションに関する活動」(29.8%)の順となっている。

性別では、女性に比べて男性で「防災・防犯などの地域活動」が高い。



年齢別では、年齢が上がるほど「趣味や教養、スポーツ、レクリエーションに関する活動」「防災・防犯などの地域活動」が高くなる傾向にある。また、50歳代と70歳以上で「自治会、婦人会、老人会、PTA、子ども会などの活動」が高い。一方、若い年齢層ほど「特に参加していない」が高くなる傾向にある。

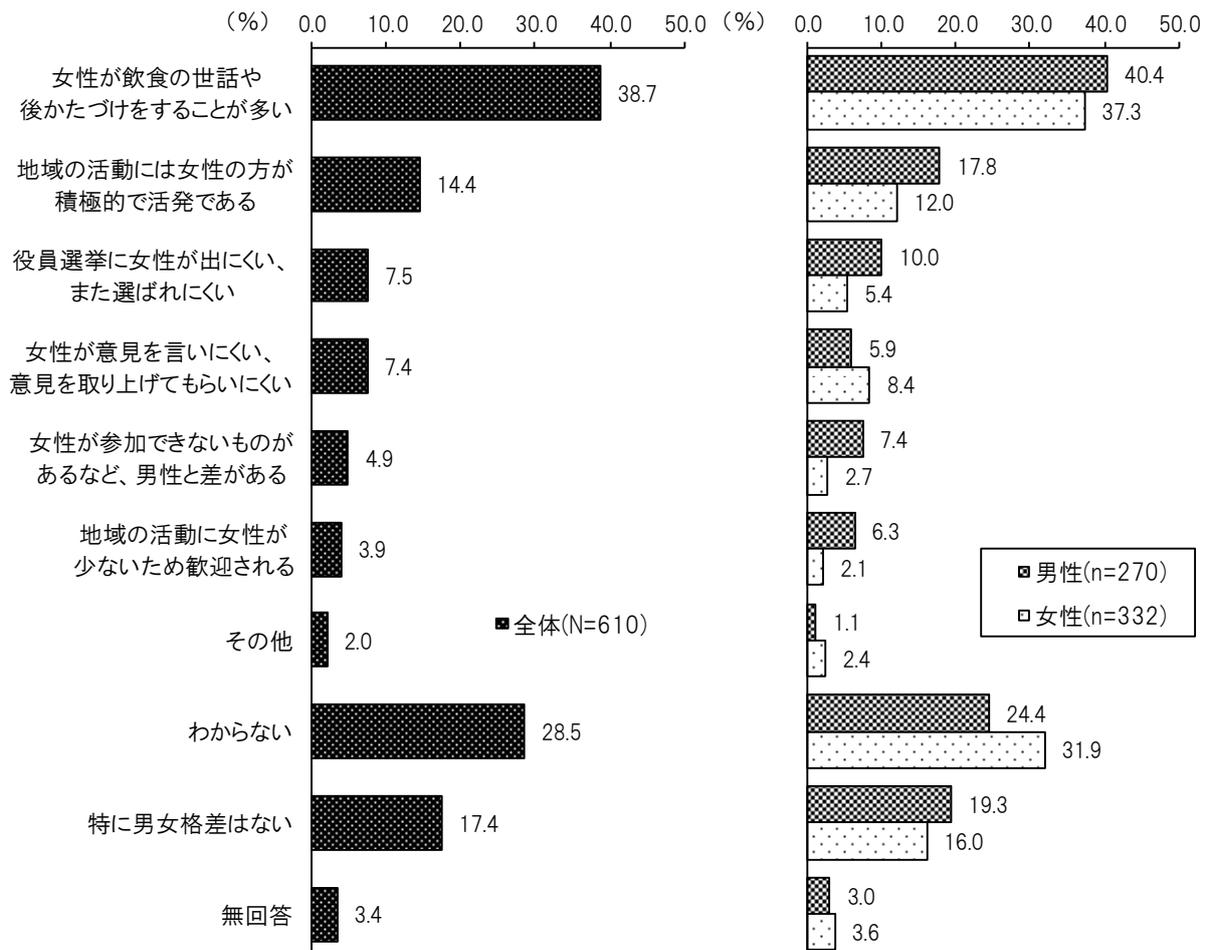
単位(%)	も人自 会会、 なP、 のT A、 活婦 動人 、会 子、 ど老	ンツ趣 に、味 関レや すク教 るすリ 活エ、 動シポ ョー	域防 活災 動・防 犯な の地	の護リ 活、サ 動まイ ちク づル くり環 り境保 など	動ア福 ・社 N・ポ Oラ なな のテ イ活	得職 に業技 関術や す資 活格 の取	公審行 的議会 活の各 動の種 委員 員な の会 のや	アレホ などや 国際海 交流外 活ライ 動ンテ イ入	その他	特に 参加 してい ない
全体(N=610)	42.3	29.8	11.3	10.5	8.5	3.4	3.0	0.7	1.1	38.7
<b>【年齢別】</b>										
29歳以下(n=36)	2.8	8.3	0.0	0.0	8.3	5.6	0.0	2.8	0.0	80.6
30歳代(n=54)	29.6	18.5	3.7	7.4	1.9	3.7	0.0	0.0	1.9	57.4
40歳代(n=58)	43.1	20.7	5.2	8.6	3.4	5.2	0.0	0.0	0.0	41.4
50歳代(n=94)	48.9	24.5	7.4	10.6	8.5	4.3	4.3	1.1	0.0	34.0
60歳代(n=166)	40.4	32.5	12.7	7.8	10.2	3.6	4.8	1.2	2.4	37.3
70歳以上(n=193)	51.3	40.4	18.7	15.0	10.4	1.6	3.1	0.0	1.0	29.5

## 2 地域活動における男女間格差の現状

問 26. あなたの住んでいる地域での行事や会議など、様々な地域活動において、次のような男女間の格差がありますか。(○印いくつでも)

地域活動における男女間格差の現状については、「女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い」の割合が38.7%と最も高く、次いで「地域の活動には女性の方が積極的で活発である」(14.4%)の順となっている。

性別による差は目立たないが、男性に比べて女性で「わからない」が高い。



年齢別では、年齢が上がるほど「地域の活動には女性の方が積極的で活発である」「特に男女格差はない」がおおむね高くなる傾向にある。また、29歳以下で「わからない」が他の年齢層に比べて高い。

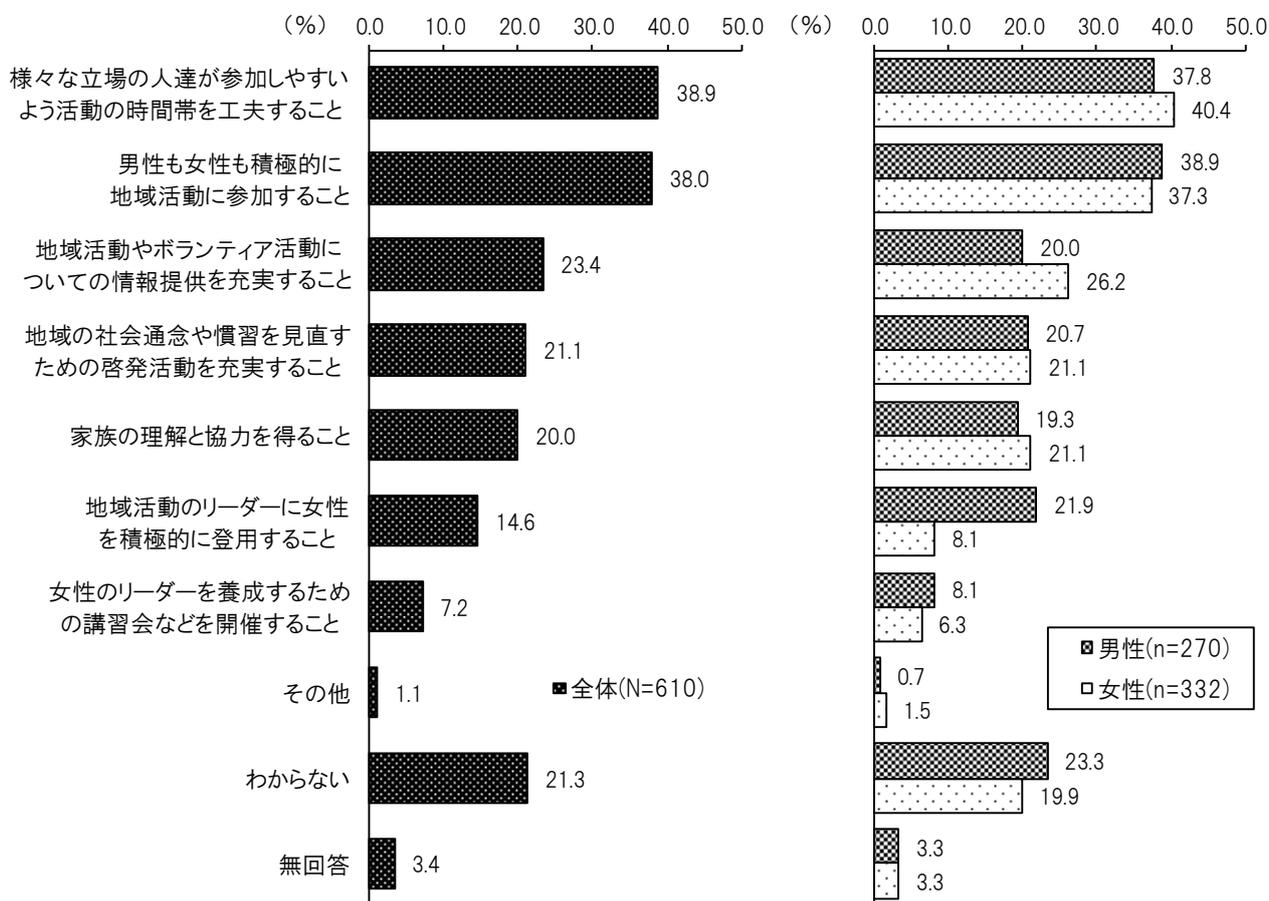
単位(%)	と後女 が性が 多たが いづ飲 け食の をす世 る話こ や	での方 あ方が る積 極動 的に では 活女 発性	にに役 く員 く選 いい 、挙 また 女 選性 ばが れ出	げく女 てい性 も、が ら意意 いに見 くを取 いりい 上に	性も女 との性 差が参 がある加 るなど 、な 男い	る少地 ないの いた活 ため動 に飲に 迎女 さ性 れが	そ の 他	わ か ら な い	特 に 男 女 格 差 は な い
全体(N=610)	38.7	14.4	7.5	7.4	4.9	3.9	2.0	28.5	17.4
<b>【年齢別】</b>									
29歳以下(n=36)	25.0	8.3	5.6	2.8	2.8	0.0	0.0	61.1	5.6
30歳代(n=54)	40.7	9.3	3.7	3.7	3.7	1.9	0.0	46.3	5.6
40歳代(n=58)	37.9	3.4	1.7	8.6	5.2	1.7	3.4	43.1	17.2
50歳代(n=94)	40.4	14.9	8.5	10.6	2.1	3.2	4.3	29.8	14.9
60歳代(n=166)	40.4	16.3	11.4	8.4	6.6	3.6	1.2	22.3	19.9
70歳以上(n=193)	38.3	18.1	6.7	5.7	5.7	6.7	1.6	18.7	22.3

### 3 地域社会で男女共同参画推進に必要なと思うこと

問 27. あなたの住んでいる地域での様々な活動において、男女共同参画を積極的に進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○印3つまで）

地域社会で男女共同参画を積極的に進めるため必要だと思うことについては、「様々な立場の人達が参加しやすいよう活動の時間帯を工夫すること」が38.9%と最も高く、ほぼ並んで「男性も女性も積極的に地域活動に参加すること」(38.0%)が続く。以下、「地域活動やボランティア活動についての情報提供を充実すること」(23.4%)、「地域の社会通念や慣習を見直すための啓発活動を充実すること」(21.1%)、「家族の理解と協力を得ること」(20.0%)の順となっている。

性別では、男性で「地域活動のリーダーに女性を積極的に登用すること」、女性で「地域活動やボランティア活動についての情報提供を充実すること」がそれぞれ高い。



性・年齢別では、男女とも年齢が上がるほど「男性も女性も積極的に地域活動に参加すること」がおおむね高くなる傾向にある。また、男性40歳代と女性30歳代で「様々な立場の人達が参加しやすいよう活動の時間帯を工夫すること」、男性60歳代で「地域の社会通念や慣習を見直すための啓発活動を充実すること」「地域活動のリーダーに女性を積極的に登用すること」が他の層に比べてそれぞれ高い。一方、男女とも若い年齢層ほど「わからない」が高く、特に男性29歳以下では8割以上を占める。

単位(%)	時間帯を工夫すること	様々な立場の人達が参加すること	地域性にも参加すること	男性活動にも参加すること	地域活動の実践情報	地域活動の充実するための啓発活動	地域社会通念や慣習	家族の理解と協力を得ること	地域活動のリーダーに登用すること	女性リーダーの養成	その他	わからない
全体(N=610)	38.9	38.0	23.4	21.1	20.0	14.6	7.2	1.1	21.3			
【性・年齢別】												
男性	29歳以下(n=14)	7.1	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	85.7
	30歳代(n=19)	31.6	15.8	10.5	15.8	15.8	10.5	5.3	0.0	0.0	0.0	42.1
	40歳代(n=18)	55.6	38.9	22.2	22.2	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2
	50歳代(n=35)	31.4	31.4	25.7	11.4	22.9	22.9	5.7	0.0	0.0	0.0	31.4
	60歳代(n=77)	45.5	44.2	16.9	29.9	14.3	29.9	11.7	2.6	0.0	0.0	13.0
	70歳以上(n=106)	35.8	44.3	24.5	20.8	25.5	23.6	9.4	0.0	0.0	0.0	17.0
女性	29歳以下(n=22)	27.3	27.3	18.2	13.6	9.1	0.0	9.1	4.5	0.0	0.0	45.5
	30歳代(n=35)	51.4	34.3	28.6	22.9	25.7	8.6	8.6	0.0	0.0	0.0	28.6
	40歳代(n=40)	45.0	25.0	30.0	20.0	20.0	7.5	10.0	0.0	0.0	0.0	17.5
	50歳代(n=59)	47.5	30.5	30.5	25.4	23.7	11.9	6.8	1.7	0.0	0.0	11.9
	60歳代(n=87)	39.1	46.0	27.6	24.1	23.0	8.0	6.9	2.3	0.0	0.0	17.2
	70歳以上(n=87)	33.3	41.4	21.8	16.1	19.5	8.0	1.1	1.1	0.0	0.0	19.5

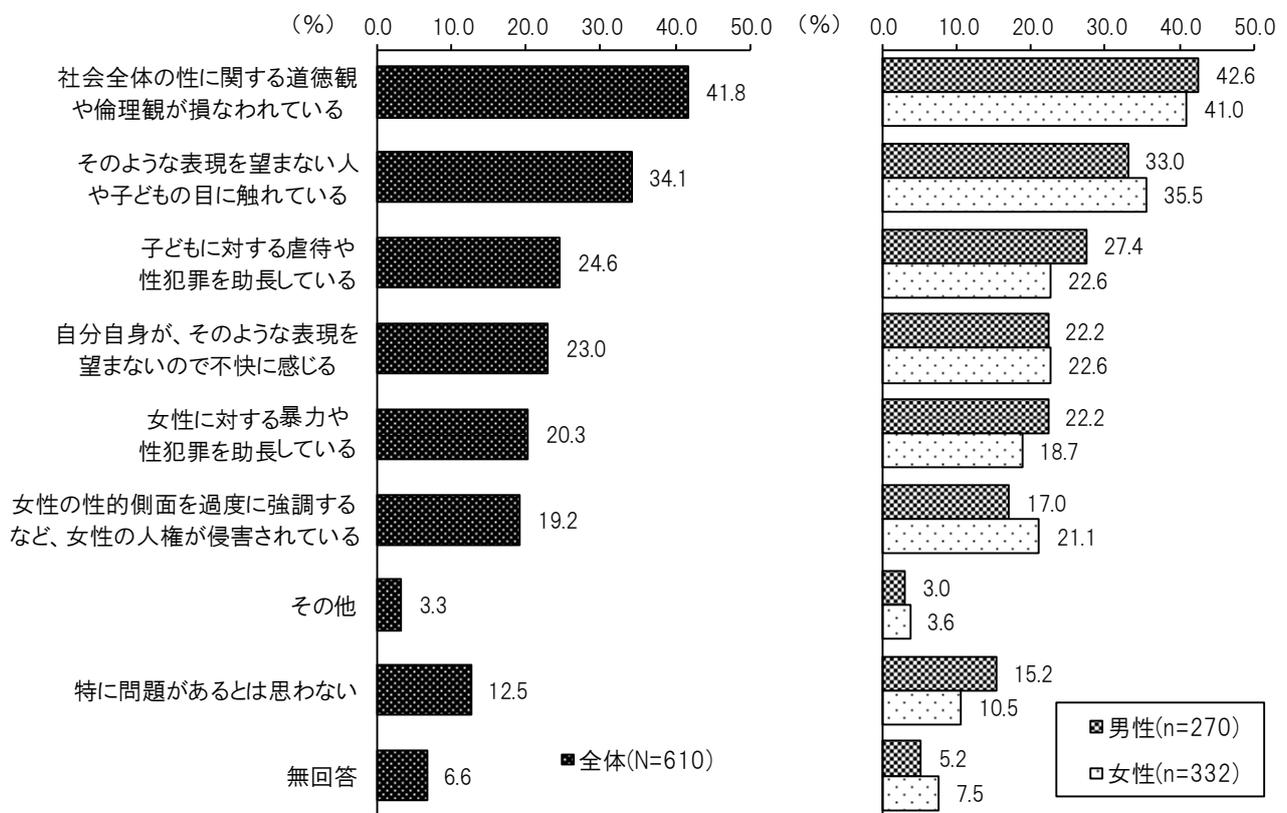
## 【5】ドメスティック・バイオレンス（DV）について

### 1 メディアにおける性・暴力表現について

問 28. あなたは、テレビ、新聞、雑誌、インターネットなどのメディアにおける性・暴力表現について、どのような点で問題があると思いますか。（○印いくつでも）

メディアにおける性・暴力表現については、「社会全体の性に関する道徳観や倫理観が損なわれている」が41.8%と最も高く、次いで「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れている」(34.1%)、「子どもに対する虐待や性犯罪を助長している」(24.6%)、「自分自身が、そのような表現を望まないのに不快を感じる」(23.0%)の順となっている。

性別による差は目立たない。



性・年齢別では、女性 40～50 歳代で「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れている」が高く、女性の年齢が上がるほど「自分自身が、そのような表現を望まないの  
で不快に感じる」が高くなる傾向にある。また、男性 40 歳代で「女性に対する暴力や性  
犯罪を助長している」、男性 50 歳代で「子どもに対する虐待や性犯罪を助長している」、  
女性 30 歳代で「女性の性的側面を過度に強調するなど、女性の人権が侵害されている」、  
女性 60 歳代で「社会全体の性に関する道徳観や倫理観が損なわれている」が他の年齢層  
に比べてそれぞれ高い。男性 30 歳代で「特に問題があるとは思わない」が特に高くなっ  
ている。

単位(%)	徳観や倫理観が損なわれ	社会全体性の関する道	ていそ い人の るやよ る子う るどな も表 も現 の目 をに 触ま れな	犯子 罪ども をも 助に 長対 しす て る虐 待や 性	に表自 感現分 じを自 る望身 まが ない その でよ う快 な	罪女 を性 助に 長対 しす て る暴 力や 性 犯	権強女 が調性 が侵す 害る さな され て、 面側 い女 を過 の度 人に	そ の 他	な特 い に問 題が ある と思 わ
全体(N=610)	41.8	34.1	24.6	23.0	20.3	19.2	3.3	12.5	
【性・年齢別】									
男性	29歳以下(n=14)	21.4	35.7	21.4	28.6	14.3	14.3	0.0	14.3
	30歳代(n=19)	21.1	31.6	10.5	15.8	10.5	15.8	0.0	31.6
	40歳代(n=18)	50.0	33.3	11.1	0.0	27.8	22.2	11.1	11.1
	50歳代(n=35)	34.3	45.7	34.3	14.3	20.0	8.6	0.0	22.9
	60歳代(n=77)	49.4	41.6	28.6	26.0	24.7	18.2	3.9	13.0
	70歳以上(n=106)	46.2	22.6	31.1	25.5	23.6	18.9	2.8	12.3
女性	29歳以下(n=22)	45.5	36.4	18.2	4.5	13.6	27.3	0.0	22.7
	30歳代(n=35)	34.3	28.6	14.3	8.6	17.1	31.4	2.9	20.0
	40歳代(n=40)	32.5	50.0	22.5	12.5	22.5	17.5	5.0	10.0
	50歳代(n=59)	37.3	47.5	27.1	22.0	20.3	25.4	6.8	8.5
	60歳代(n=87)	54.0	31.0	31.0	26.4	23.0	23.0	2.3	6.9
	70歳以上(n=87)	35.6	26.4	16.1	34.5	13.8	10.3	3.4	9.2

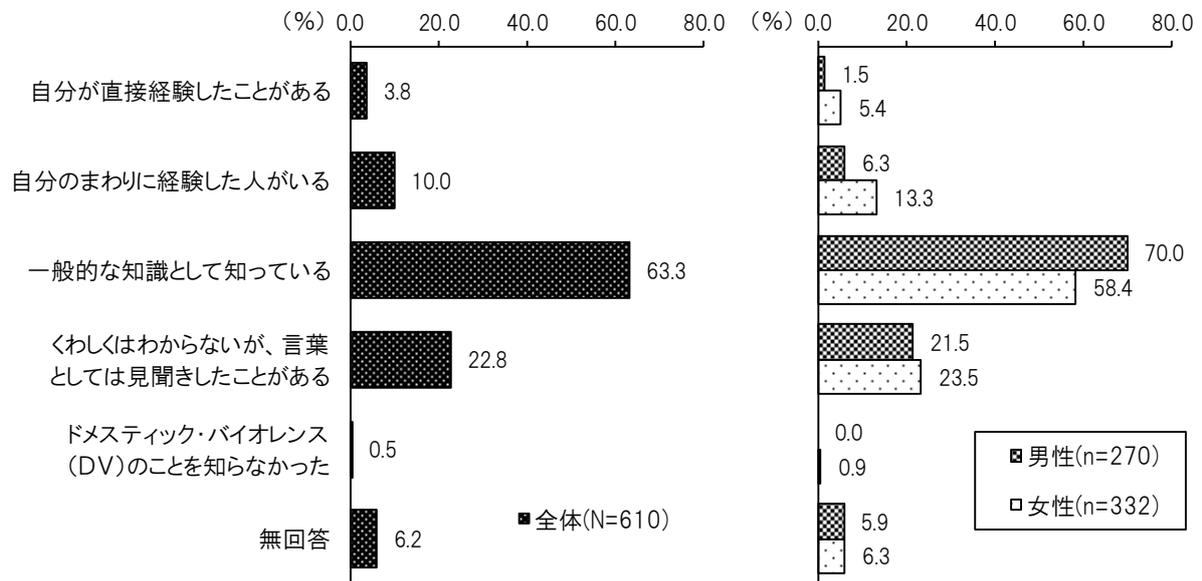
## 2 ドメスティック・バイオレンスの経験について

### (1) DVの経験

問 29. あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者や恋人など親密な関係にあるパートナーからの暴力）について経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。（○印いくつでも）

DVの経験については、「一般的な知識として知っている」が63.3%で最も高く、「自分のまわりに経験した人がある」が10.0%、「自分が直接経験したことがある」が3.8%であった。

性別では、女性の5.4%が「自分が直接経験したことがある」と回答し、13.3%が「自分のまわりに直接経験した人がある」と回答しており、いずれも男性の割合を上回る。



性・年齢別では、女性40歳代で「自分が直接経験したことがある」「自分のまわりに経験した人がある」が他の層に比べて高くなっている。

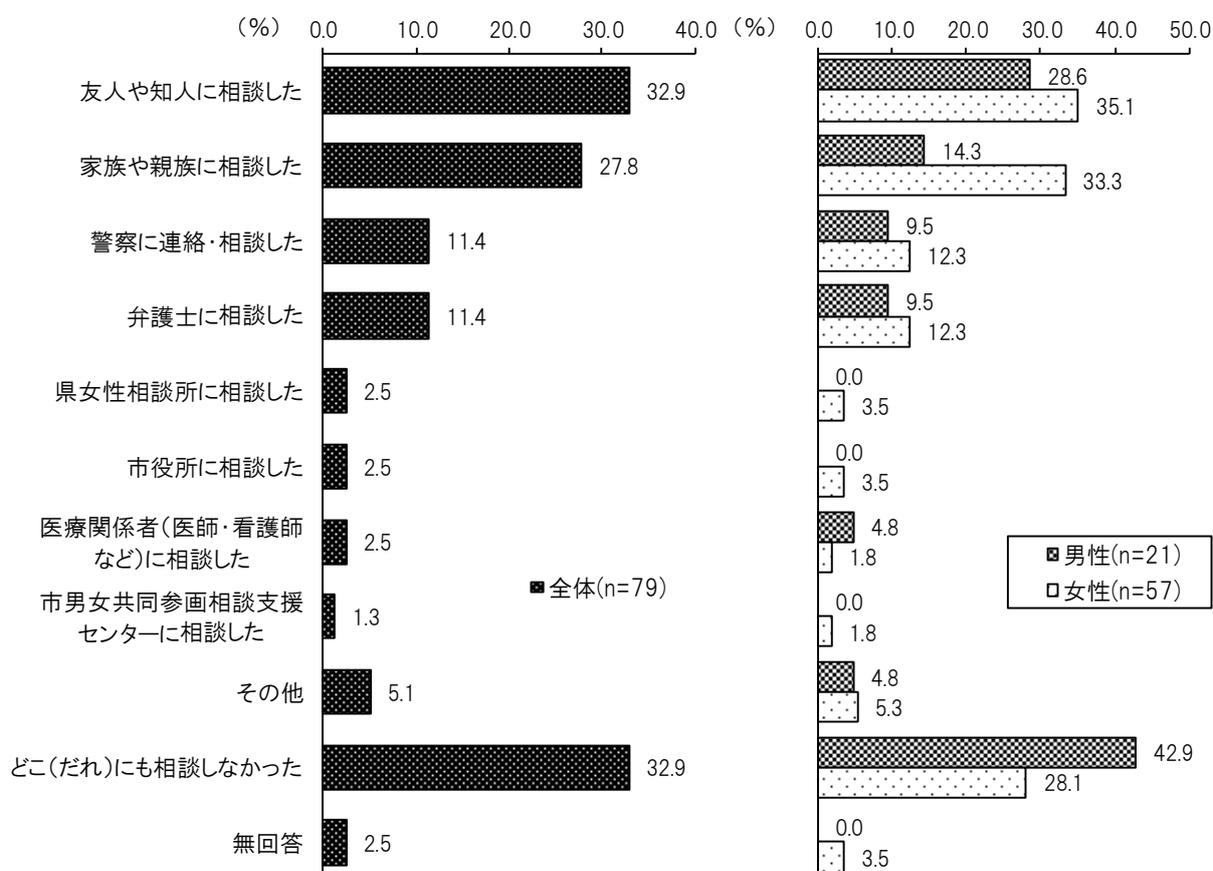
単位(%)		自分が直接経験したことがある	自分のまわりに経験した人がある	一般的な知識として知っている	が、わしくはわからない	オドメステイション(DV)の被害を知らなかった
全体(N=610)		3.8	10.0	63.3	22.8	0.5
【性・年齢別】						
男性	29歳以下(n=14)	0.0	7.1	64.3	28.6	0.0
	30歳代(n=19)	0.0	5.3	73.7	21.1	0.0
	40歳代(n=18)	5.6	16.7	61.1	16.7	0.0
	50歳代(n=35)	5.7	0.0	85.7	8.6	0.0
	60歳代(n=77)	0.0	7.8	85.7	19.5	0.0
	70歳以上(n=106)	0.9	5.7	54.7	27.4	0.0
女性	29歳以下(n=22)	4.5	13.6	63.6	18.2	0.0
	30歳代(n=35)	5.7	14.3	71.4	11.4	2.9
	40歳代(n=40)	10.0	25.0	65.0	5.0	0.0
	50歳代(n=59)	6.8	16.9	76.3	10.2	0.0
	60歳代(n=87)	5.7	12.6	57.5	29.9	0.0
	70歳以上(n=87)	2.3	4.6	36.8	41.4	2.3

## (2) DV経験者の相談状況

問 30. (問 29 で 1 または 2 と回答された方に) あなたは、経験したことや見聞きしたことを、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○印いくつでも)

DV経験者の相談状況については、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が32.9%みられるが、相談先としては「友人や知人に相談した」が32.9%と最も高く、次いで「家族や親族に相談した」(27.8%)の順となっている。

性別では、男性に比べて女性で「友人や知人に相談した」「家族や親族に相談した」が高くなっている。一方、男性の4割以上が「どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答している。

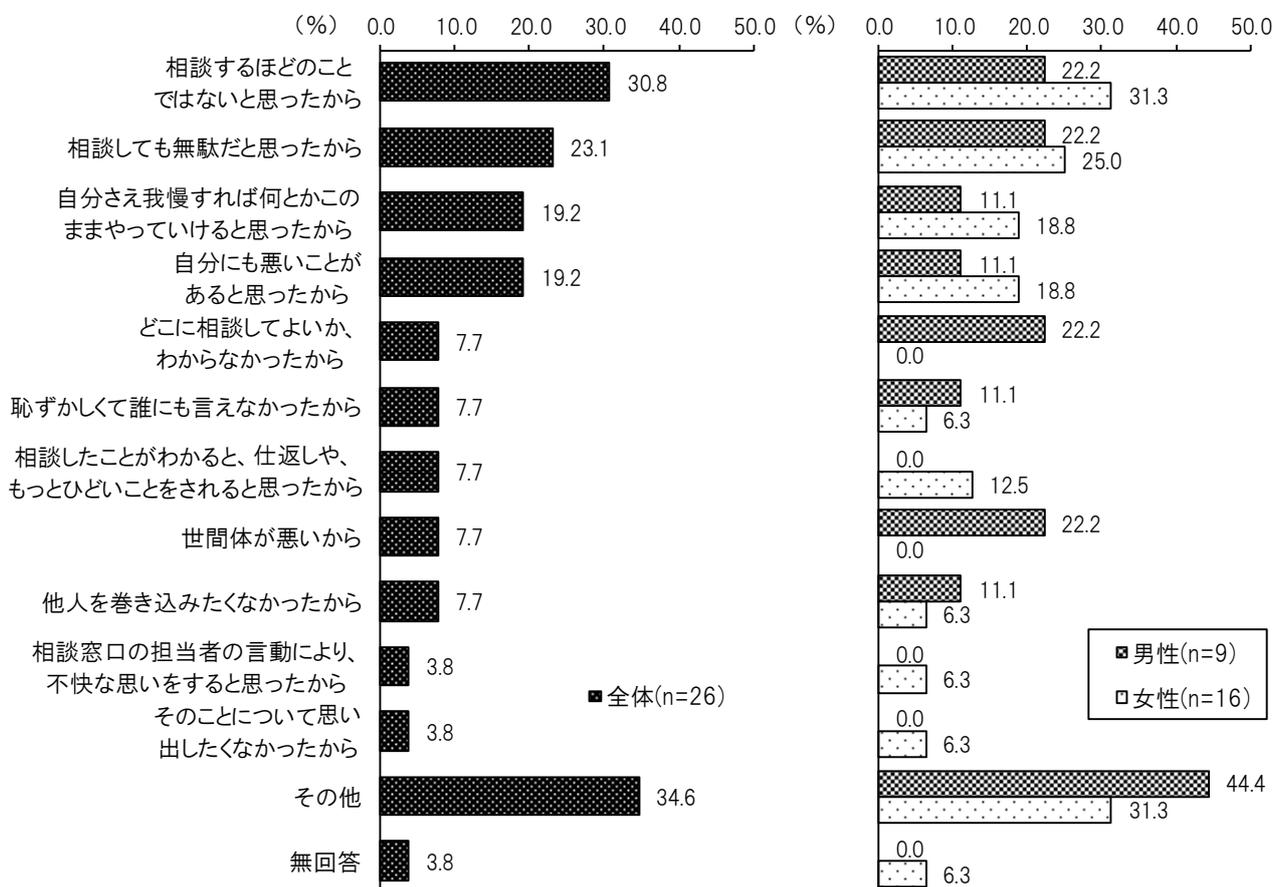


### (3) DVについてどこにも相談しなかった理由

問 31. (問 30 で 10 と回答された方に) あなたが「どこ(だれ)にも相談しなかった」のは、どのような理由からですか。(○印いくつでも)

DV経験者がどこ(だれ)にも相談しなかった理由については、「相談するほどのことではないと思ったから」が30.8%と最も高く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」(23.1%)、「自分さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思ったから」「自分にも悪いことがあると思ったから」(各19.2%)の順となっている。

性別では、男性で「どこに相談してよいか、わからなかったから」「世間体が悪いから」、女性で「相談するほどのことではないと思ったから」「自分さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思ったから」「自分にも悪いことがあると思ったから」「相談したことがわかると、仕返しや、もっとひどいことをされると思ったから」がそれぞれ高い。

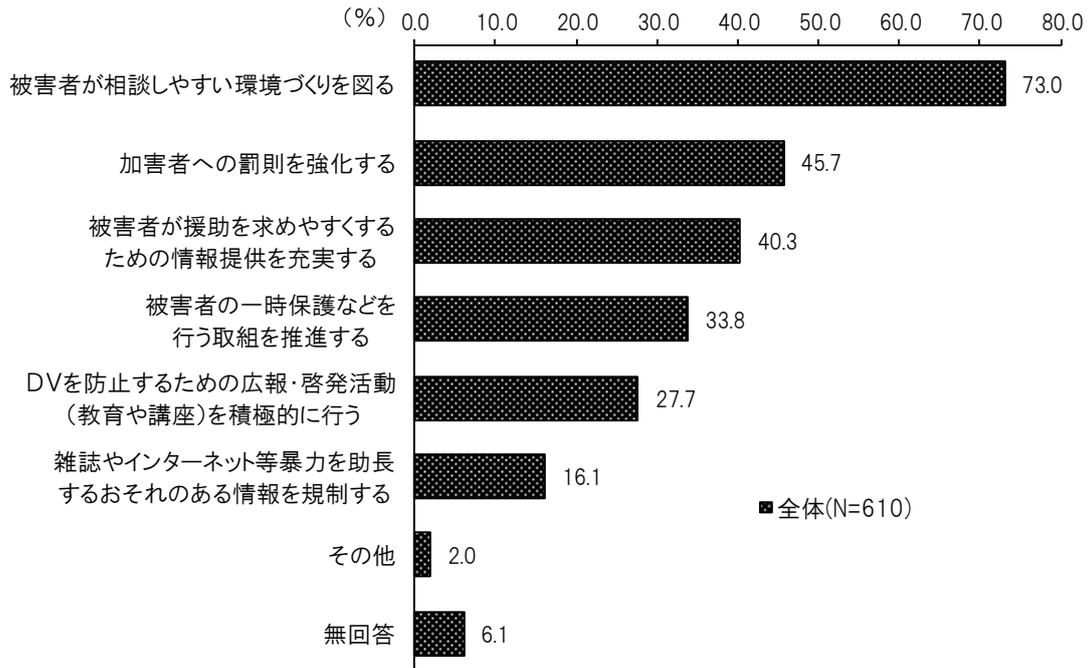


※性別の「男性」は、該当件数(n=)が10未満のため参考値として参照。

### 3 DVを防ぐために必要だと思うこと

問 32. 今後、ドメスティック・バイオレンス（DV）を防ぐためには、どのような取組が必要だと思いますか。（○印3つまで）

DVを防ぐために必要だと思うことについては、「被害者が相談しやすい環境づくりを図る」が73.0%と最も高く、次いで「加害者への罰則を強化する」（45.7%）,「被害者が援助を求めやすくするための情報提供を充実する」（40.3%）の順となっている。



性別では、男性で「加害者への罰則を強化する」、女性で「被害者の一時保護などを行う取組を推進する」がそれぞれ高い。

年齢別では、若い年齢層ほど「被害者が相談しやすい環境づくりを図る」がおおむね高くなる傾向にある。また、40歳代で「被害者が援助を求めやすくするための情報提供を充実する」が他の年齢層に比べて高い。

単位(%)	被害者が相談しやすい環境づくりを図る	加害者への罰則を強化する	被害者が援助を求めやすくするための情報提供を充実する	被害者の一時保護などを行う取組を推進する	D・Vを防止するための啓発活動(座・Vを積極的に啓発する)	暴力や脅迫を規制する	雑誌やインターネットの等	その他
全体(N=610)	73.0	45.7	40.3	33.8	27.7	16.1	2.0	
【性別】								
男性(n=270)	73.0	53.3	38.9	29.6	27.4	14.4	1.5	
女性(n=332)	73.2	40.1	41.3	37.7	28.0	17.5	2.1	
【年齢別】								
29歳以下(n=36)	83.3	50.0	36.1	44.4	25.0	2.8	5.6	
30歳代(n=54)	83.3	44.4	46.3	44.4	14.8	13.0	3.7	
40歳代(n=58)	74.1	55.2	58.6	34.5	19.0	17.2	5.2	
50歳代(n=94)	78.7	47.9	45.7	45.7	24.5	13.8	2.1	
60歳代(n=166)	75.9	53.0	37.3	33.1	34.3	17.5	0.0	
70歳以上(n=193)	62.7	36.3	32.6	23.8	30.1	19.7	1.0	

## 【6】男女共同参画社会への取組について

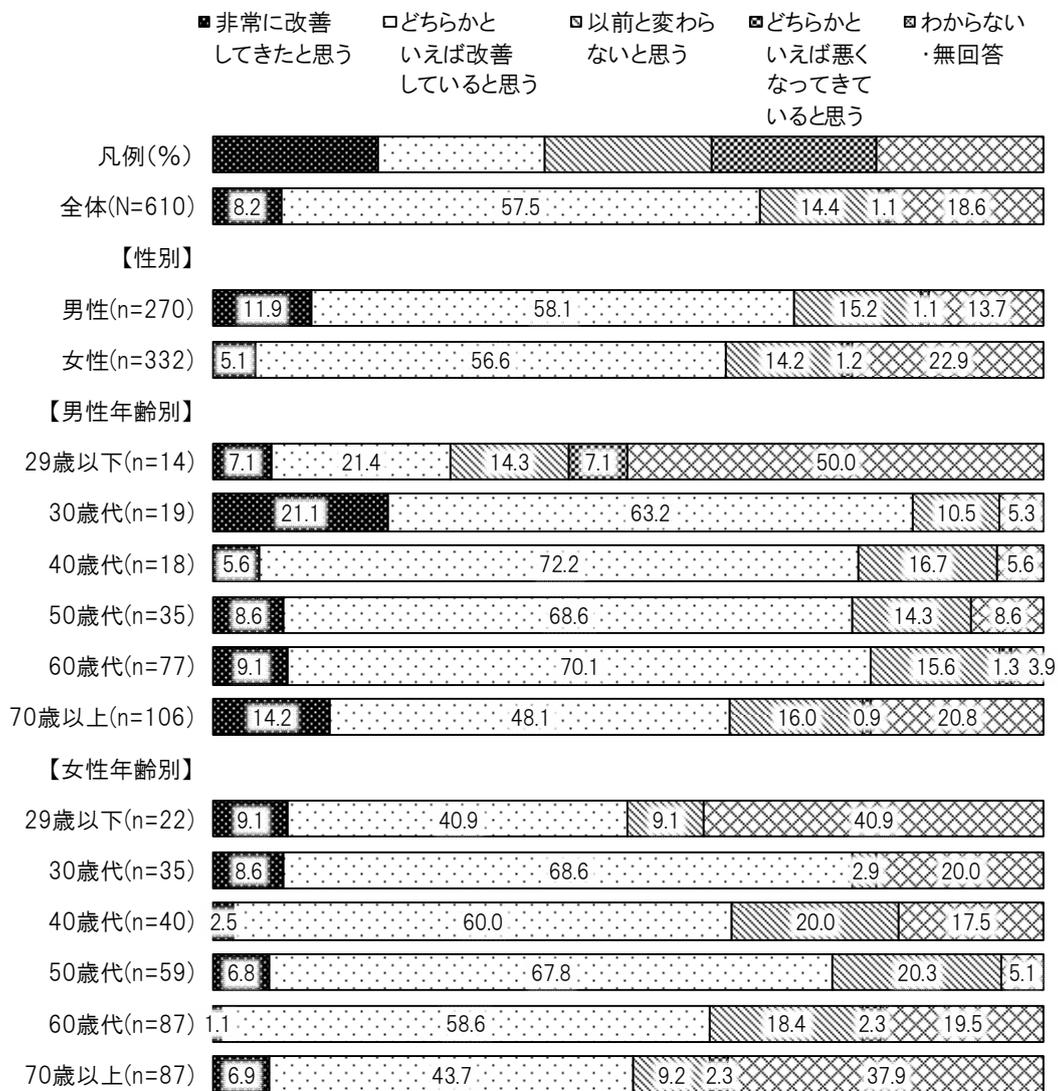
### 1 女性に対する人権意識や地位の改善状況

問 33. 10 年前と比べて、あなたは、女性に対する人権意識や地位は、どの程度改善してきたと思いますか。（○印1つ）

女性に対する人権意識や地位の改善状況については、「非常に改善してきたと思う」が8.2%、「どちらかといえば改善していると思う」が57.5%、合計65.7%が『改善してきた』と回答している。また、14.4%が「以前と変わらないと思う」と回答し、「どちらかといえば悪くなってきていると思う」はほとんどみられない。

性別では、女性に比べて男性で『改善してきた』が高くなっている。

性・年齢別では、男性30歳代で「非常に改善してきたと思う」が他の層に比べて高くなっている。一方で、女性40～50歳代で「以前と変わらないと思う」が高くなっている。



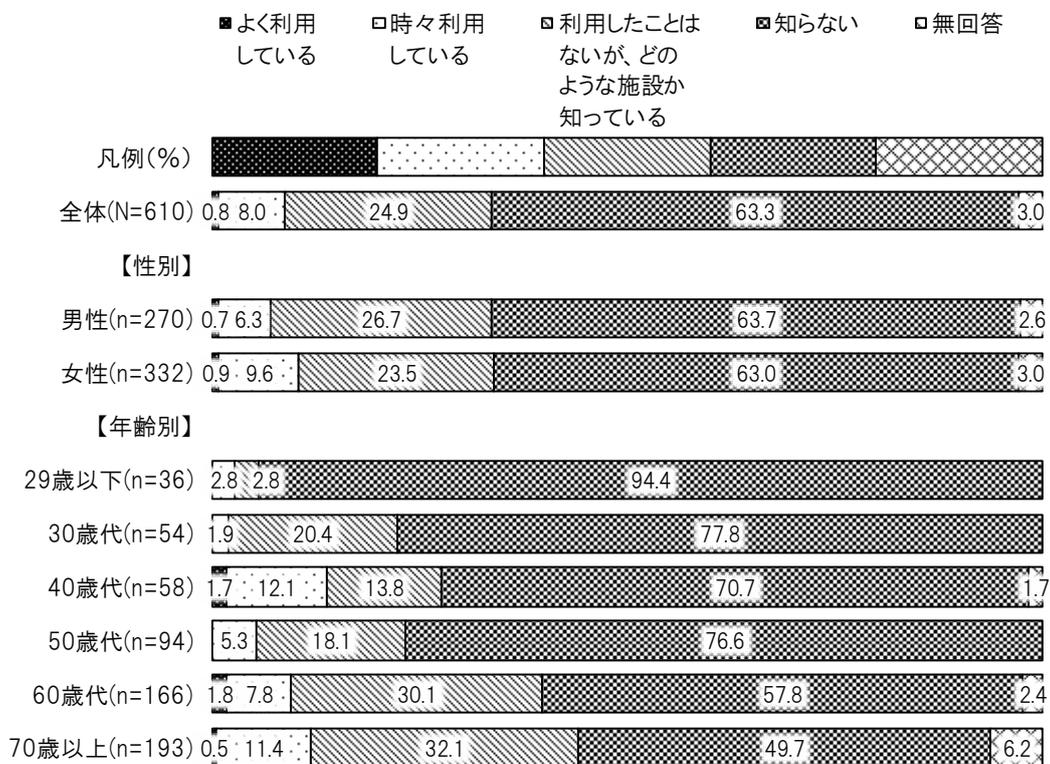
## 2 玉野市男女共同参画推進センターの利用状況

問 34. あなたは、玉野市男女共同参画推進センター（日の出ふれあい会館）を利用したことがありますか。（○印1つ）

玉野市男女共同参画推進センターの利用状況については、6割以上（63.3%）が「知らない」と回答しており、「よく利用している」（0.8%）と「時々利用している」（8.0%）を合計した利用率は8.8%となっている。また、「利用したことはないが、どのような施設か知っている」は24.9%であった。

性別による差は目立たない。

年齢別では、年齢が上がるほど「利用したことはないが、どのような施設か知っている」がおおむね高く、若い年齢層ほど「知らない」がおおむね高くなる傾向にある。



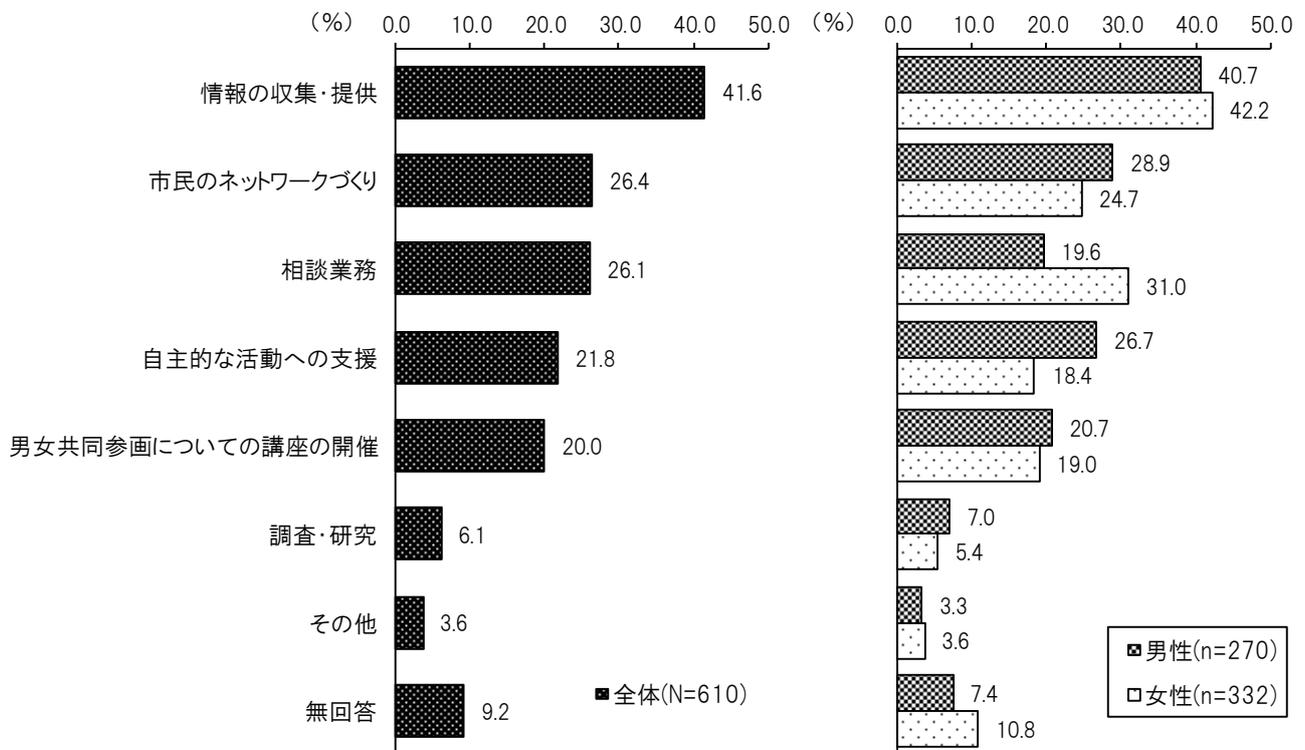
### 3 玉野市男女共同参画推進センターの推進すべき取組

問 35. 玉野市男女共同参画推進センターでは、男女共同参画に関する啓発事業や相談事業などを行っていますが、あなたが特に推進すべきと思う取組は何ですか。  
(○印2つまで)

玉野市男女共同参画推進センターの推進すべき取組については、「情報の収集・提供」が41.6%と最も高く、次いで「市民のネットワークづくり」(26.4%),「相談業務」(26.1%)の順となっている。

性別では、男性で「自主的な活動への支援」、女性で「相談業務」がそれぞれ高い。

年齢別では、若い年齢層ほど「情報の収集・提供」「相談業務」がおおむね高く、年齢が上がるほど「自主的な活動への支援」がおおむね高くなる傾向ある。

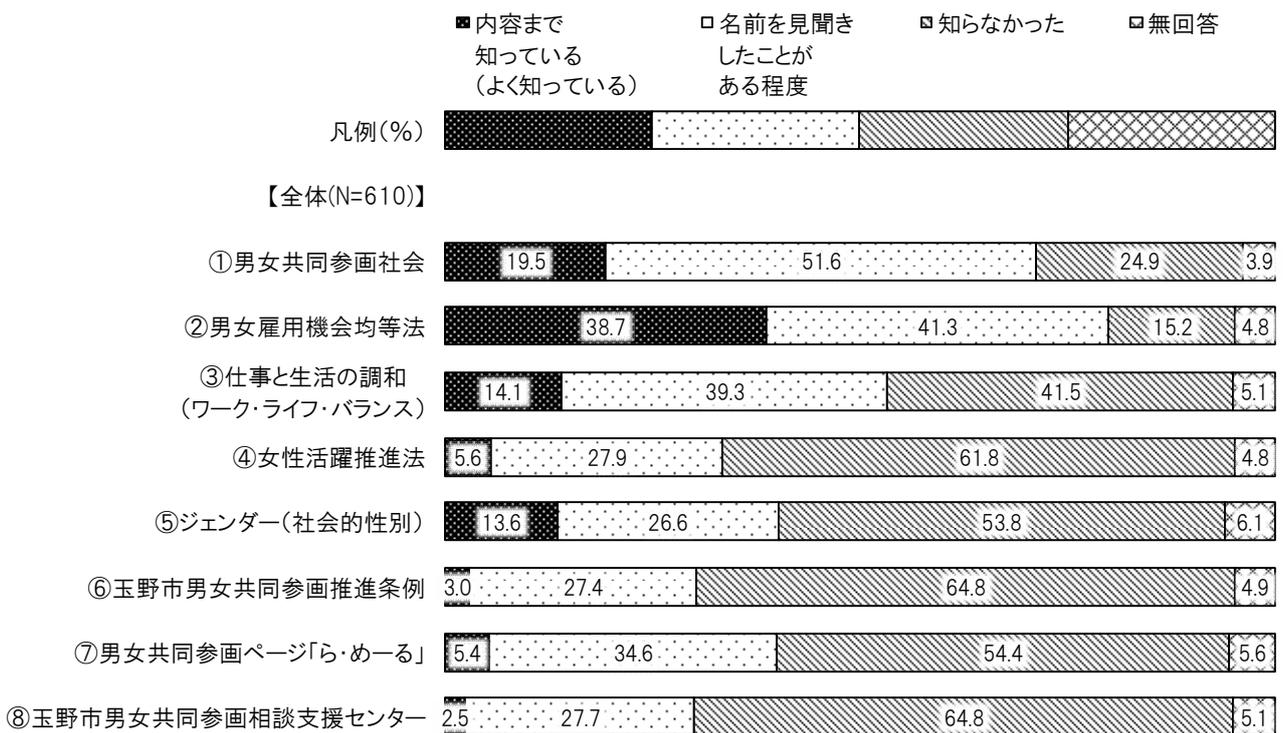


単位(%)	情報の収集・提供	市民のネットワークづくり	相談業務	自主的な活動への支援	男女共同参画の講座開催	調査・研究	その他
全体(N=610)	41.6	26.4	26.1	21.8	20.0	6.1	3.6
【年齢別】							
29歳以下(n=36)	55.6	22.2	44.4	16.7	5.6	13.9	2.8
30歳代(n=54)	53.7	31.5	35.2	13.0	14.8	5.6	5.6
40歳代(n=58)	55.2	36.2	39.7	13.8	17.2	6.9	0.0
50歳代(n=94)	48.9	24.5	33.0	16.0	16.0	7.4	4.3
60歳代(n=166)	39.2	28.3	24.7	24.7	25.9	6.6	3.6
70歳以上(n=193)	30.6	22.8	14.0	28.0	20.2	3.1	3.6

#### 4 男女共同参画に関する用語の認知状況

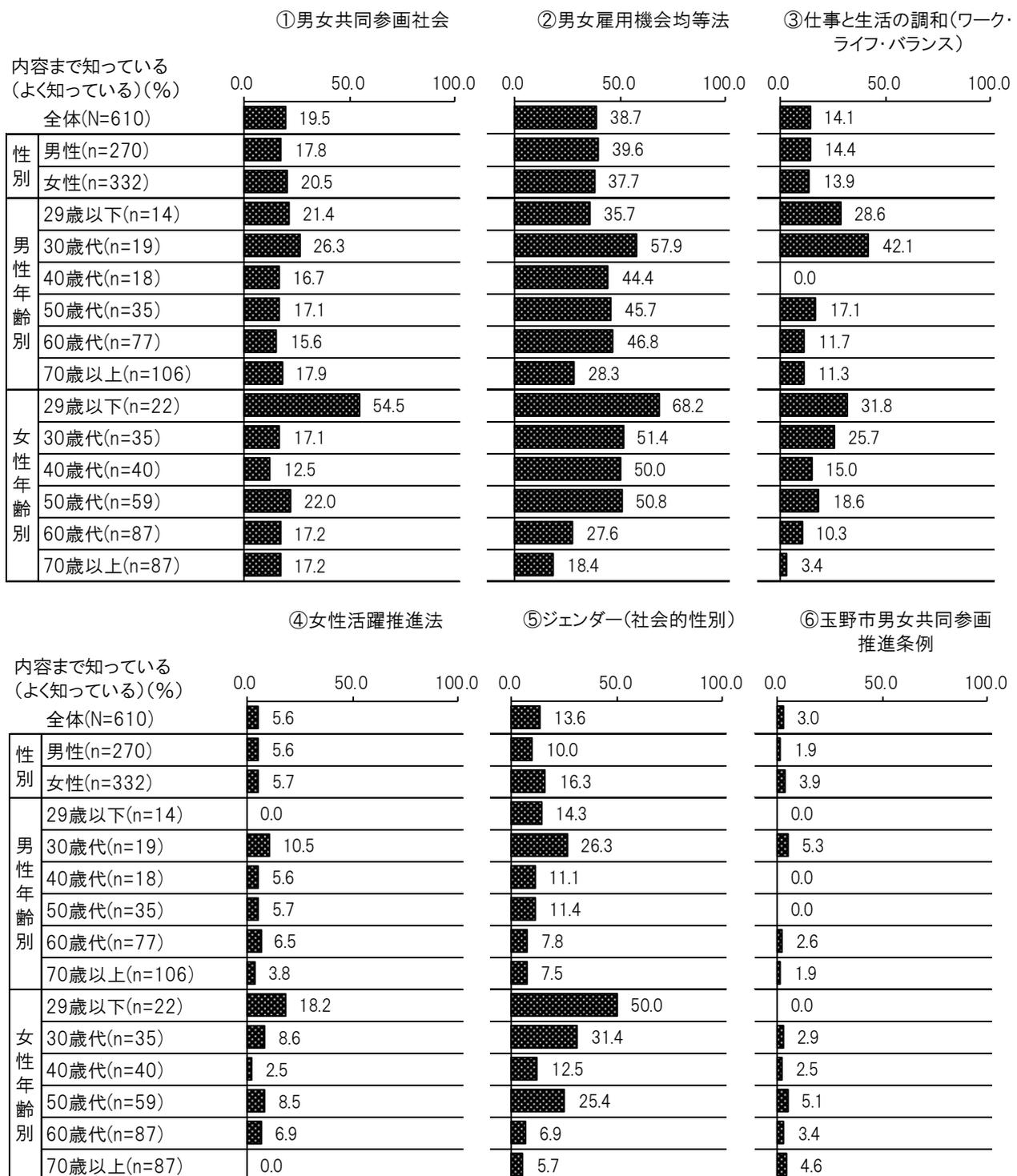
問 36. あなたは、次にあげる用語の意味をご存じでしたか。(○印1つずつ)

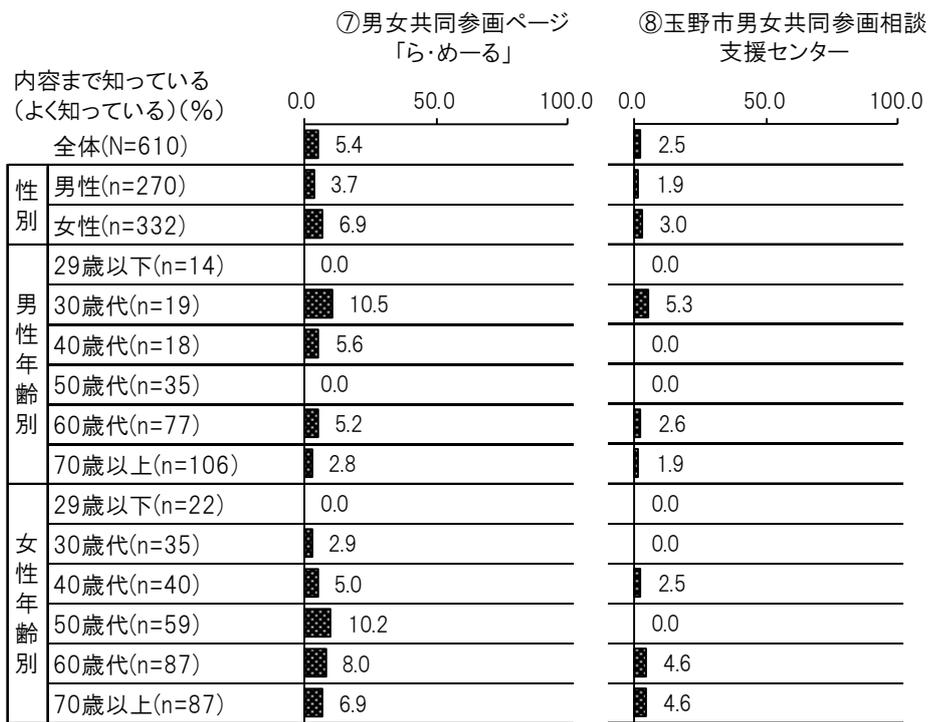
男女共同参画に関する用語の認知状況については、「②男女雇用機会均等法」は約4割(38.7%)が「内容まで知っている(よく知っている)」と回答している。一方で、「④女性活躍推進法」「⑤ジェンダー(社会的性別)」「⑥玉野市男女共同参画推進条例」「⑦男女共同参画ページ『ら・めーる』」「⑧玉野市男女共同参画相談支援センター」は過半数が「知らなかった」としている。



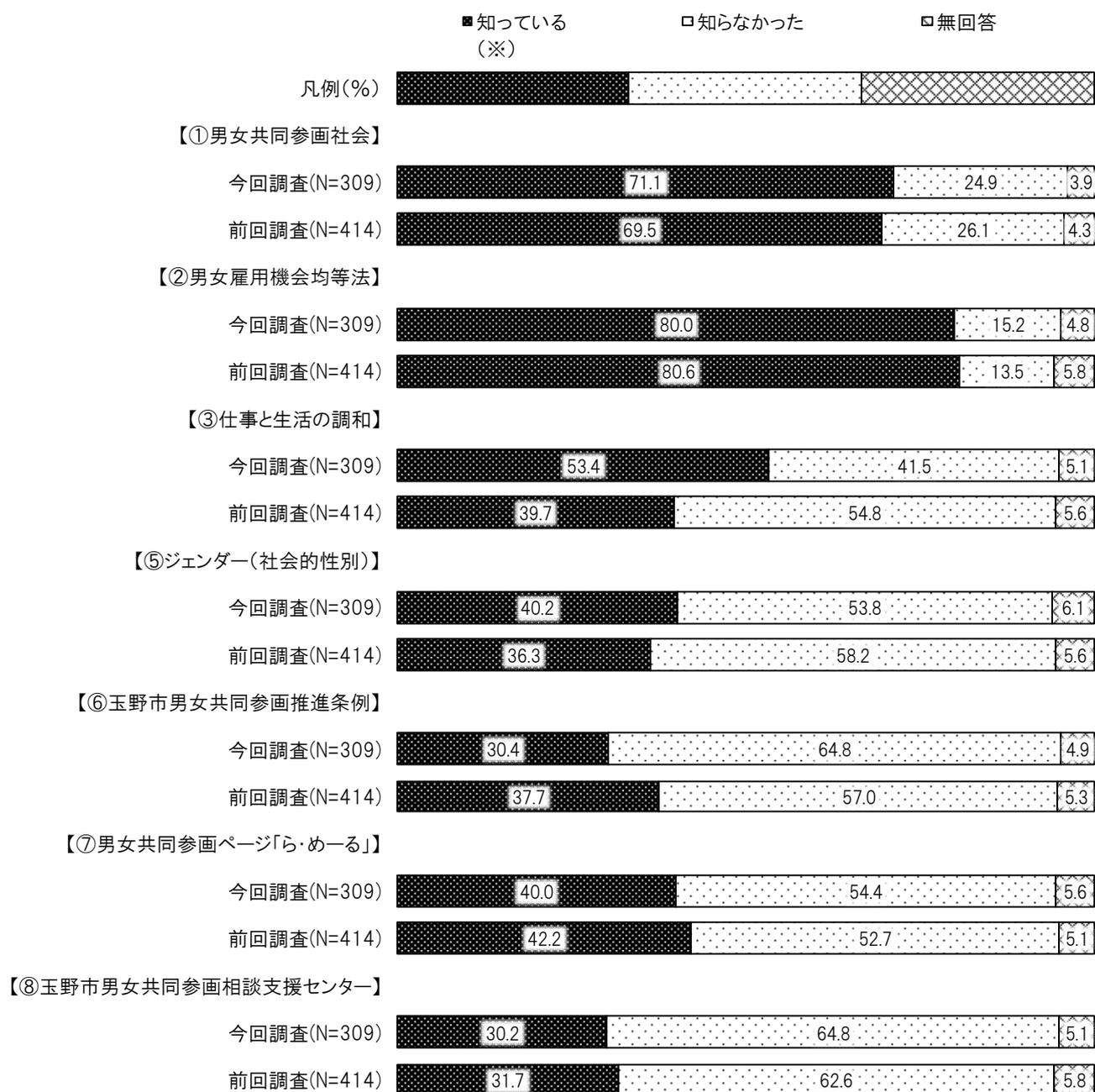
内容認知率（「内容まで知っている（よく知っている）」）を性別で見ると、「⑤ジェンダー（社会的性別）」に関する女性の内容認知率がやや高いものの、その他大きな差は目立たない。

性・年齢別で見ると、「①男女共同参画社会」「⑤ジェンダー（社会的性別）」は、女性29歳以下の内容認知率が他の層に比べて高い。また、「②男女雇用機会均等法」「③仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」は、男性30歳代と女性の若い年齢層ほど内容認知率が高くなっている。



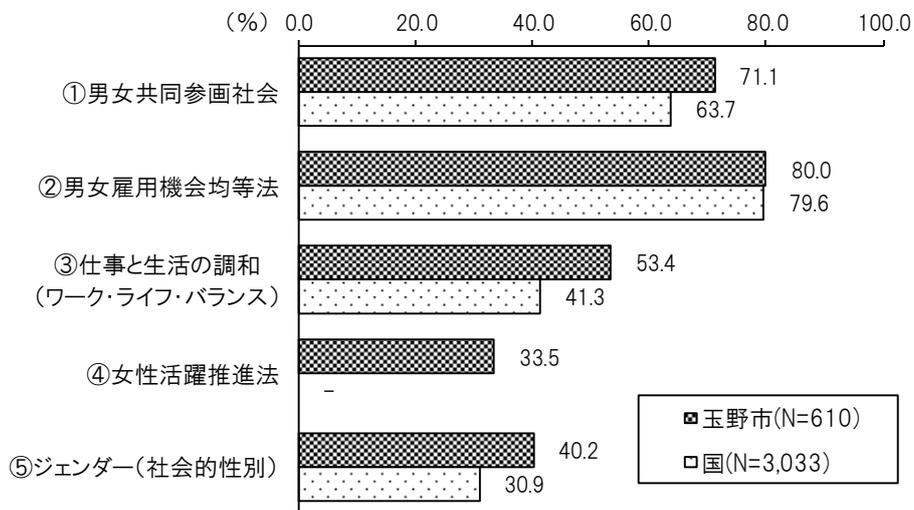


## 参考／前回調査との比較



※今回調査は「内容まで知っている(よく知っている)」「名前を見聞きしたことがある程度」の合計値。  
 前回調査は「よく知っている」「少し知っている」「聞いたことはある」の合計値。

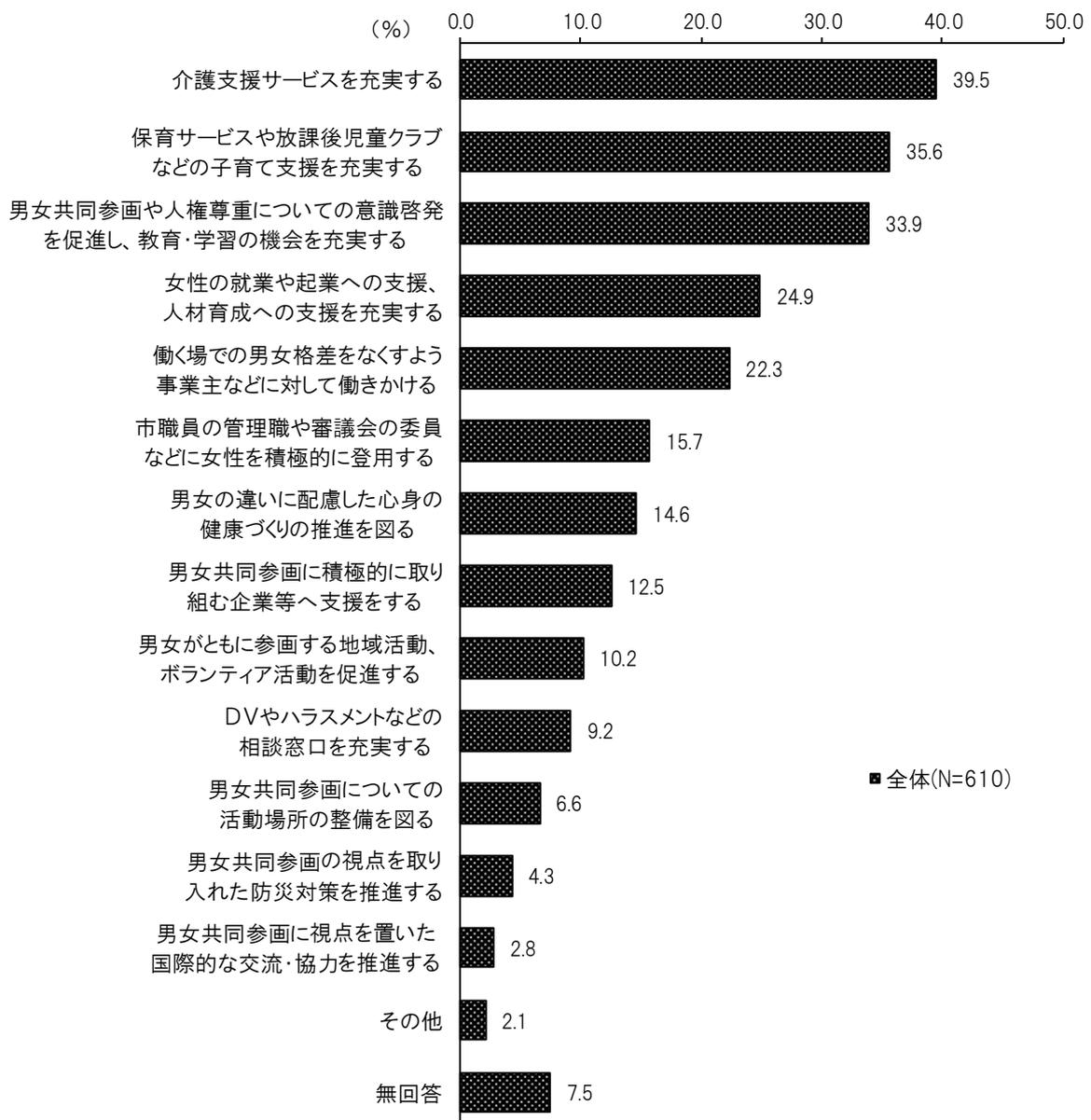
参考／国との比較（認知率）



## 5 男女共同参画の推進に必要だと思う施策

問 37. 男女共同参画を積極的に進めるために、今後、玉野市はどのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。（○印3つまで）

男女共同参画の推進に必要だと思う施策については、「介護支援サービスを充実する」が39.5%と最も高く、次いで「保育サービスや放課後児童クラブなどの子育て支援を充実する」(35.6%)、「男女共同参画や人権尊重についての意識啓発を促進し、教育・学習の機会を充実する」(33.9%)の順となっている。



## IV 自由意見回答結果

問 38. 男女共同参画についての意見・要望などがございましたら、どのようなことでも結構ですので、ご自由にご記入ください。

### 【男性 29 歳以下】

- ・家事については電気製品やコンビニのおかげで以前ほどの大変さがなくなった。専業主婦も辛いとよく聞くが、子どもが小学校に上がる頃には暇な時間も増えるだろうし、さらに夫より優遇しろというのはおかしいと思う。
- ・女性の給料を少し上げた方が良く思う。

### 【女性 29 歳以下】

- ・結局平等と言っても男性だけの職場、女性だけの職場があるのには変わらない。男性だけや女性だけの職場に異性が入ってくると更衣室だのセクハラだの新しい問題が生まれてくる。わざわざ混ぜる必要はないと思う。

### 【男性 30 歳代】

- ・市役所同等の出張所を東部、西部などに設置して情報発信したほうが良いと思う。玉野はとりわけ過疎化している地域に感じるが、宇野地区に一極化しても老人には遠いので情報を収集することが困難ではないか。男女参画できる企画を各地域の出張所で実施することが望ましい。
- ・玉野に住んで間もないが、活性してなく魅力がないので男女参画で岡山市街からでも行きたくなる街づくりを企画してほしい。
- ・アンケートの設問数が多いと思います。もう少しコンパクトにまとめてほしいです。

### 【女性 30 歳代】

- ・仕事については男女で出来る仕事が違うと思うのですが、パワハラ、セクハラについては直せる環境を作ってほしいと思います。DVや子育て支援については、行政の力が必要だと思います。玉野市は家賃が高いと聞いています。市営住宅を改修するなどして若年層でも入居しやすいようにお願いします。
- ・玉野市の現状を把握していないのであまり述べられることは多くないのですが、おそらく市民の男女共同参画に対する認知度が低いと思います。もっとこれに関する情報提供が増えれば良いと思います。また、玉野市は母子家庭や市からの援助を要する家庭が多いと思われ、そういう人々にも効率よく情報が届けばよいと思います。行政に多くの女性が参加し、女性ならではの意見が反映されることは良いと思いますが、過度に女性支援を進める必要もないと思います。男女の違いや役割が考慮され、すべてが男女平等である必要はないと思います。

- ・男性の意識改革（家庭活動への参加）。男性の長時間労働の是正。職場における男性の意識改革（お茶出しや食器洗いはいつも女性。男性社員はやろうともしない）。3歳未満の子どもの育児をしています。子どもが病気になると自分も会社を休むので、有休や看護休暇が足りません。この看護休暇を増やしてください。欠勤扱いが辛いです。
- ・子どもが小さいので、保育サービスや子育て支援の充実をもっとしていただければうれしいです。サービスを充実させることで少子化対策になると思います。先日テレビで、和歌山県北川村の子育て支援サービスが紹介されていました。とても感動しました。玉野市も子どもが喜ぶサービスをお願いします。
- ・先日、「さぬきこどもの国」へ子どもと遊びに行きました。英会話教室に参加したり、科学体験をしたりしました。すべて無料でした。遊具もたくさんあり、子どもがイキイキしていました。玉野市にもこんな施設があれば良いと思いました。是非この施設を参考にしてみてください。
- ・男女平等は限界があるので、男性が得意とすることや女性が得意とすることを進めていくべきだと思う。もっと言えば、その人が得意とすることをすれば良い。今の時代は男女関係なく、一人の人間として考えて行くべきだと思います。
- ・私達の世代でも、まだまだ女性が家事や育児をすることが当たり前の意識が男性側にあるように思います。男性も育児の仕方がわからない状況があるようです。今後は男性も家事や育児に積極的に取り組んでほしいと思います。

### 【男性 40 歳代】

- ・男女差別をなくす法律等の整備が進められているが、個人の価値観が多様化し、現法律や慣習の是正だけでは対応できないケースが増えている。各個人の考え方を尊重することが重要である。
- ・私達 40 代より上の世代で、「女のくせに、女なんだから」などの男女差別的な考え方があるように思います。女性の意見も積極的に取り入れる社会環境を作っていく必要があると思います。

### 【女性 40 歳代】

- ・学校からのお知らせとして、男女共同参画社会のパンフレットを配布する。LGBTについての周知。
- ・男女共同参画については特になし。図書館の移設、駅周辺のオブジェなど市民に意見を聞いてもらえないように思う。急患を受け入れない市民病院はいらない。
- ・パワー・ハラスメントについて、男性も女性とも自分の言動について見直す機会を設けたり、罰則を徹底したりするべきである。一日に短時間から働ける職場があれば、介護や育児をしている女性にとっては生活しやすくなると思う。保育の場を増やすことも大切だが、母親が育児にしっかりと向き合えるような環境づくりも大切だと思う。子どもの犯罪やイジメ等は心の問題が大きいと思う。母親が子どもを育てる時間が減っていることが要因の一つであると思う。

- ・あまり内容がわかっていないため身近ではないですが、これを機に参加してみたいと思います。
  - ・このアンケートで初めて知ったこともあり、男女共同参画について考える機会となりました。性別にこだわらず、一人一人の特性を生かせる社会になれば良いと思いました。
  - ・今後高齢者の介護等、女性の負担が増えることが予想されるので介護サービスを充実させてほしい。
  - ・すでに女性は社会に進出しています。仕方なく働いている人、自ら進んでいろいろな事に挑戦している人など困難をそれぞれ乗り越えています。今はそんなことより、解決できない社会的弱者に重点を置くべきではないでしょうか。
  - ・玉野市は男女共同参画を進めるという問題よりも他にすべきことがたくさんあると思います。どんどん人口が減り活気もなくなり、さびれていくばかりです。紹介状がないと大きな病院に行けないので、しかたなく玉野市の病院に行っています。不安です。また、介護施設もお粗末な所ばかり。父を5か所ほどショートステイで利用しましたが、施設とは名ばかりで入れることを諦めました。玉野市は男女共同参画なんて考えるには早いと思います。こんな小さな市に議員ばかり多くて、何をしているんだか…。市長を含めいつも不思議に思っています。職場でもよく話題になります。若者が住める玉野市にしてください。
  - ・ちょっと話がずれるかもしれませんが、市職員のコンプライアンス意識の充実が望ましいと思います。個人情報を持っているということを忘れないでほしい。パートの職員も是非勉強してほしい。特に学校や幼稚園などで働いている方はよろしくお願いします。
  - ・一人一人の問題なので、なかなか難しい問題です。
  - ・広報やウェブサイト以外に、そういった市の取組みを知らせる手段は現状ありますか？自発的に調べないと認知できないというのは、如何なものかと。
- DV や各種ハラスメントを受ける当事者は、調べるような心の余裕がない場合も多いです。ましてや子育てや介護で行き詰まっている方などは尚更です。
- 日常の買い物などの最中にふと目に入るような場所へ相談窓口などの案内があれば、自分の現状に気付き相談できるケースも増えるのではないのでしょうか。

## 【男性 50 歳代】

- ・今後も問題提起を。
- ・女性が自立できる社会になって、離婚率が増加した（女性一人でも暮らして行ける社会になった）。母子家庭も増加した。少子化傾向などの問題点も浮き彫りになった。昔は、女性が家を守って社会が成立していた。それが望ましいと思う。
- ・男女それぞれの良さを生かした組織活動を通じて理解を深める。例えば、男性のみ、女性のみ、男女混合とそれぞれのプロジェクトチームを作り、仕事の過程と結果を見ればどの組み合わせが良いかがわかる。男女の垣根を取り払うのも共同参画と同意義である。

## 【女性 50 歳代】

- ・アンケート結果を開示してほしい。この結果を受けて市の方針を具体的に示してほしい。
- ・いろいろな職場で働いてきましたが、まだまだ男女の格差があると思います。例えば、男性は 45 歳位まで正社員の職がありますが、女性は 35 歳位までとか、職種によっては、女性は受け入れてもらえない企業もあります。本当の男女平等になるには時間がかかると思います。
- ・男と女では体が違い、生理的にも違います。同じようにできないことも多々あると思います。基本的人権は平等であるべきで、このような意識調査をしなくてもよい社会なれば良いですね。
- ・家族の介護や看護を女性に押し付けるのではなく、食事の支度、家事など男性も協力する社会になってほしい。
- ・子ども世代には、男女共同参画社会になってほしいです。今では夫が家事を手伝っている家庭が多いように思えます。妻も仕事をしなければ生活して行くのに大変な時代になっています。お互いに協力して行くのが当たり前のようになります。職場でもそれを理解してほしいです。
- ・質問の言葉が難しく、内容と結びつかない。子どもでも理解できる言葉にしてほしい。
- ・男女平等は当たり前の話だが、男女の違いがあるのも事実。お互いの相手の立場になって考えられる世の中になってほしい。
- ・母親宛に送られてきましたが、認知症で理解ができないため長女が回答しました。
- ・法的制度も大切だとは思いますが、最もネックになっているのは男性の女性を見下すことだと思います。特に玉野市では見聞きします。職場ではお茶出し、ゴミ捨て、電話対応などすべて女性が担当しています。家庭でも家事を全くしない男性が多いとの話もよく聞きます。夫は PTA を私と交代でしようという気持ちはあるようですが、母親ばかりなので恥ずかしくて行けないと言っています。そのような意識を変える社会にならないと解決しないと思います。
- ・私は 15 年前に玉野市に転居してきました。周りの女性は専業主婦の方が多くて、仕事をするという意識が他の所とは違っていました。子育て世代の女性は育児資金が必要ですが、子育てを終えた方は社会に出る人が少ないと感じました。時間に余裕のある方が、若い世代に手を差し伸べてあげる方法を男女問わず考えたら良いと思います。
- ・我々の時代は育休とかもなく、家族の協力で仕事を辞めることなく頑張ってきました。今の方は育休や支援制度がたくさんあり恵まれていると思います。やる気のある方へ保育施設などの充実を図ってあげれば良いと思いますが、ただ権利だけを主張される方も多く見受けられます。一番必要なことは家族の協力だと思います。

## 【男性 60 歳代】

- ・ PCによるURLが長すぎてアクセスがしにくかった。回収率向上のためにも簡単なURLに設定すべき。
- ・ 一部逆差別（女性優遇）が見受けられる。
- ・ 個性に合った適材適所の人材配置を望みます。
- ・ このアンケートの出所が理解できない。行政自ら率先して、このようなアンケートなく行動すべし。市税の負担に疑問を持つ。
- ・ これからは男と女という差をなくす社会が理想だと思っています。そのためには職場や社会がそれを受け入れやすくすることが大切だと思います。高齢化社会の中で、男女が共に手を取り合って、平等な立場で物事を考え行動して行くことが求められていると思います。
- ・ 自分はあまり男女共同参画を意識していなかった。これからはいろいろな事に目を向けて行きたい。
- ・ 女性が結婚し、子どもができて会社を辞めなくても良いように、十分な育児休業を取れるようにすること。また、辞めても復職できるシステム作りをしてほしい。
- ・ 玉野市内の道路を歩いていると雑草が目につく。清掃したらどうか。
- ・ 玉野市は女性職員を多く採用してください。
- ・ 男女共同参画推進に向け、市全体で取り組んでください。
- ・ 男女共同参画とは有名無実である。自治体として今後、積極的に共同参画事業を推進してもらいたい。
- ・ 中小企業の事業主の理解が必要。

## 【女性 60 歳代】

- ・ 男女共同参画フェアに参加していますが、手作りのものを作ることに多忙で、本当の意味の内容がわからず、少し疑問を感じています。男女共同参画とはこういうものなんだとわかるようなフェアを望みます。・ 男女平等の主張はよく議論されますが、結婚、家族、子育てのための男女の役割を進めて行けば良いと思います。
- ・ 問 12①必要がないは、「子どもがいないから」「世話をしてくれる人がいたから」なのか不明。問 13 は「結婚、妊娠、出産」に当てはまらない場合は答えられない。
- ・ 今の若い夫婦は、家事や育児とも男性もよく手伝っていると思います。ただ、高齢の男性になると、家事は女性がするのが当たり前と思う人が多いように感じます。ただ、テレビなどで男性も家事などをしている人を見ると、夫も手伝ってくれえるようになりました。気長に男女協力し合って生活できる社会を築くことが大事ではないでしょうか。
- ・ 今回のアンケートの参加により、これから意識して行こうと思います。

- ・支援センターがあるのを知らなかった。知っていたら以前の悩みを早く相談して解決できたかも知れない。もっと市民に知ってもらふ必要があると思う。教育の場に、男性は女性を、女性は男性をもっと思いやる姿勢を幼少期から育てて行くべきであろう。支援センターがあるだけでは意味がないと思う。
- ・戦前の男尊女卑は戦後様変わりをしました。しかし、私達はその恩恵に預からぬまま老後を迎えた感があります。娘や孫たちは男女の区別なく協力することが当たり前の暮らしができています。不平不満を持ちながらだと生活はパーフェクトにはなりません。男女ともに程々のところで妥協することで共存共栄ができると思います。
- ・男女共同参画啓発の声は聞こえてくるので、些細なことからも実践して行くことが大切だと思う。具体的にわかるように市民にもっとアピールしてほしい。
- ・男女共同参画社会への働きかけが今後ますます大切なものとなって行くのが現状です。私達一人一人が家庭生活の中でも意識し、自立した生活を送れるように進めて行かなければならないと思っています。
- ・男女共同参画という事業はあまり浸透していないように思います。各方面でPRしてほしいです。
- ・問 13 は、出産経験なしの者にとっては回答をためらった。

### 【男性 70 歳以上】

- ・10～20年前に比べれば、女性の社会進出は著しく、昔の面影はありません。特に50～70代の女性のエネルギーには圧倒されます。
- ・80歳を過ぎた者には、男女共同参画がどういうものかよく分からない。
- ・あまり知らなかったのでこれから勉強したいと思います。
- ・一般的には知識、意識の面では、男女、年齢を問わずあまり高いとは言えないのが現実ではないでしょうか。日常生活を送っていても男女の役割がお互いの間で納得していて、特に取り立てて問いただすような場面がそれほど多くないように思います。要は、お互いに信頼し、長所・短所を補う間柄を築けて行けるかどうかということに尽きると思います。
- ・現在働いているか、定年退職後かで回答が難しい。
- ・市役所自体が男女共同参画について積極的に推進することが大切だと思う。
- ・女性から見る男性への抵抗感、男性から見る女性への抵抗感は必ずあるはずで、これらを払拭することが肝要かと考えます。
- ・ずっと言われ続けていることですが、何も変わらない気がしています。一人一人の意識改革が必要だと思います。男女のそれぞれの良さに注目すべきです。そしてその良さを利用すべきだと思います。

- ・男女共同参画社会は国全体で実現しなければならない。しかし、実現されていないのが現実である。これが将来への希望不足になり、少子化となっている。玉野市として積極的にPRし啓発活動をしてほしい。
- ・男女共同参画に関し、行政が旗振り役を果たそうとしてもうまく行かないと思う。男性側の意識を変えることが肝心だと思う。そのための啓発活動を行政が地道に取り組む必要があるだろう。一方、待機児童の解消、介護従事者の離職防止策をお願いしたい。男女平等の意識が社会全体に定着しないと共同参画も、DV対策も実のあるものにはならないと思う。そのためには学校教育の在り方が問われるであろう。
- ・男性ができること、女性ができることをすれば良い。
- ・問37の13番（男女の違いに配慮した心身の健康づくりの推進を図る）を大切に思う。
- ・両親共に介護が必要となり、娘が仕事を辞めて面倒を見ています。両親に経済力がないと施設というわけにも行かず、老後は本当に大変です。
- ・私の住んでいる地域はとても住みやすい所です。地区の人も良い方達ばかりです。

### 【女性 70 歳以上】

- ・以前、DVについての講演会に参加しました。内容を聞いてびっくりしました。もっと多くの人に知ってもらい、私達年配者も気を配り、相談にのれるようにしたいと思います。
- ・今は少々意識をしますが、年齢的に男女共同参画をあまり考えていませんでした。これからはいろいろと働きかけを致します。
- ・現在は何事にも女性に甘くなっている。これ以上強くならなくても良い気がする。男らしさ、女らしさが必要では・・・。
- ・相談、援助が身近にできる、地域の細やかな付き合いがあると良い。
- ・男女がすべて平等である前に、男は男らしく、女は女らしくは超大切。男女平等はすべてにおいて大切ですが、女性は家事・育児に専念できるように男性の賃金を上げてほしいと思う。
- ・共稼ぎは経済的には豊かになりますが、結婚、出産を控えるので少子化社会になってきています。子どもが一人だと甘えが優先される傾向にあります。従って幼少期や小学校教育をしっかりする必要があると思います。
- ・孫たちの生活を見ていると女性の大変さが見えて、将来のことが心配になる。育児をしながらの仕事の大変さを男性にもわかってほしい。
- ・私の若い頃に比べると、最近では男女平等意識が育っているようですが、それでもまだまだ男性優位は変わらないように思います。
- ・私は高齢で、質問の意味がよくわかりませんでした。
- ・私は昭和6年生まれです。少し見当違いのことを書いているかもわかりませんが、私の母は今で言う認知症になり、仕事を辞めて最後まで看病しました。主人は仕事一筋でした。男女共同参画という言葉はいつ始まったのか知りませんが、母を送った後また働きましたが、男女共同参画という言葉は聞きませんでした。大企業に勤めなかったからでしょうか。

## 【性別・年齢不明】

- ・まずは人口流出を止めないと男女共同参画することもままならないと考えています。
- ・私の住んでいる地域では、女性の目立つ発言や行動は嫌がられています。特に男性は、男女平等という意識はあっても実行動では許容できないようです。
- ・孫娘の生活の現状と比較すると、昔に比べて随分変化していると思います。
- ・私も公務員でした。何となく管理職になる人は育児休業や介護休業が取りにくく、行政職にも女性はなりにくい雰囲気があります。よほどのスーパーマンでなければ仕事と子育ての両立は難しい。やみくもに女性の管理職を置いても男女共同参画を進めたとは言えない。スーパーマンを置くのではなく、一般企業でも男女格差のない賃金体系，昇進を推進してほしい。具体的にはDV，セクハラ，パワハラがいけないことだという倫理観の啓発活動。家庭での家事分担，性別や職業に関係なく人と人との協力を進めていくこと。

# 玉野市 男女共同参画に関する意識調査

### ～ご協力のお願い～

玉野市では、男女が固定的な役割分担意識や慣習にとらわれることなく、それぞれが個性と能力を発揮し、いきいきと暮らすことのできる社会をつくることを目指した「第3次たまの男女共同参画プラン」に基づいて、様々な施策を推進しているところです。このたび、計画期間の満了にともない、新しい計画の策定に取り組んでいます。

このアンケートは、市民の皆様の男女共同参画に関する意識やご意見等をおうかがいし、今後の計画づくりのための、基礎的な資料とさせていただくことを目的として実施するものです。

調査の実施にあたっては、18歳以上の市民の方から無作為に抽出した1,500の方に、アンケート調査を実施することとなりました。

このアンケートは無記名であり個人が特定されることはありません。また、回答は統計的に処理し、本調査の目的以外に使用することはありません。

ご多忙のところ、誠に恐縮ではございますが、調査の目的、趣旨をご理解いただきましてご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成28年(2016年)8月

玉野市長 黒田 晋

### ご記入にあたってのお願い

1. 回答は、封筒のあて名のご本人がお答えください。
2. 黒の鉛筆又はボールペンでご記入ください。
3. 回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。回答数は、各設問文に(○印1つ)(○印いくつでも)などと指定してありますので、それにしたがってご回答ください。
4. (○印3つまで)などと回答数を指定してある場合は、あなたの気持ちに最も近いものから順に選んでください。(○印いくつでも)の場合は、あてはまるものを全てお答えください。
5. 設問によっては、該当する番号に○印をつけた方だけに答えていただく設問がありますので、その説明に従いご記入ください。
6. ご不明な点、調査に関するお問い合わせなどは、下記までお願いいたします。

### 調査のお問い合わせ先

玉野市 総務部総務課 人権・男女共同参画係  
706-8510 岡山県玉野市宇野 1-27-1(電話:0863-32-5516)

記入していただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて(切手を貼らずに) **9月15日(木)**までに投函してください。

# 1 あなたご自身のことについておたずねします

## 問1. あなた（宛名のご本人）の性別をお答えください。（〇印1つ）

1. 男性                      2. 女性

## 問2. あなたの年齢をお答えください。（〇印1つ）

1. 18～29歳              3. 40～49歳              5. 60～69歳  
2. 30～39歳              4. 50～59歳              6. 70歳以上

## 問3. あなたの職業をお答えください。（〇印1つ）

1. 農林水産業の自営業主                      7. 公務員・団体職員  
2. 農林水産業の家族従事者                      8. パート・アルバイト・派遣など  
3. 商工・サービス業の自営業主                      9. 家事専業  
4. 商工・サービス業の家族従事者                      10. 学生  
5. 自由業（医師・税理士・芸術家など）                      11. 無職  
6. 会社員                      12. その他（                      ）

## 問4. 同居家族の構成についてお答えください。（〇印1つ）

1. ひとり暮らし（単身世帯）  
2. 夫婦二人暮らし  
3. 親と子（二世帯同居）  
4. 親と子と孫など（三世帯以上同居）  
5. その他（                      ）

## 問5. あなたが現在一緒に住んでいるご家族の中に、次のような方（あなた自身も含みます）はいいますか。（〇印いくつでも）

1. 未就学の子ども                      5. 65歳以上の方  
2. 小学生の子ども                      6. 介護を必要とする方  
3. 中学生の子ども                      7. 障害のある方  
4. 高校生以上の子ども                      8. いずれもない

## 問6. あなたは結婚していますか（事実婚を含む）。（〇印1つ）

1. 未婚 ----->  問8へお進みください  
2. 既婚 ----->  問7へお進みください  
3. 離別・死別 ---->  問8へお進みください

問7. (問6で2と回答した方に) 共働きの状況についてお答えください。(O印1つ)

1. 共働きである
2. 共働きではない

## 2 男女平等意識についておたずねします

問8. あなたは、今の玉野市の現状をみて、次にあげる各分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。①から⑧のそれぞれについてお答えください。(O印1つずつ)

	男性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば男性 の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性 の方が優遇されている	女性の方が 非常に優遇されている	わからない
①家庭生活では	1	2	3	4	5	6
②職場では	1	2	3	4	5	6
③学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
④議会や政治の場では	1	2	3	4	5	6
⑤法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
⑥社会通念やしきたり・慣習では	1	2	3	4	5	6
⑦地域活動の中では	1	2	3	4	5	6
⑧社会全体としては	1	2	3	4	5	6





問 15. 職場での男女の扱いについては、平等になっていると思いますか。①～⑦のそれぞれについてお答えください。（○印1つずつ）

	優遇されている 男性のほうが どちらかといえば	ほぼ平等に なっている	優遇されている 女性のほうが どちらかといえば	わからない
①募集・採用	1	2	3	4
②賃金・昇給	1	2	3	4
③昇進や昇格	1	2	3	4
④仕事の内容	1	2	3	4
⑤能力評価・査定	1	2	3	4
⑥教育訓練や研修	1	2	3	4
⑦有給休暇の取得	1	2	3	4

問 16. 日常生活における、「仕事や家事」「家庭生活（プライベートな時間／趣味や学習・地域活動・付き合いなど）」のバランスについて、①あなたの希望する（理想とする）優先度と②実際の（現実の）優先度をお答えください。（○印1つずつ）

①あなたの希望する（理想とする）優先度 （○印1つ）	1. 仕事や家事を優先したい 2. 家庭生活やプライベートな時間を優先したい 3. 仕事と家庭生活やプライベートな時間を両立したい
②実際の（現実の）優先度 （○印1つ）	1. 仕事や家事を優先している 2. 家庭生活やプライベートな時間を優先している 3. 仕事と家庭生活やプライベートな時間を両立している



## 4

## 家庭生活と男女の役割についておたずねします

問 21. あなたは、結婚と家庭に関する次のような考えについて、どのように思いますか。①から⑤のそれぞれについてお答えください。(〇印1つずつ)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである (「男は仕事、女は家庭」という考え方)	1	2	3	4	5
③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5
④結婚しない人や晩婚化が進んでいるのは、女性の家事や育児の負担感が大きいためである	1	2	3	4	5
⑤男性は、もっと家事や育児、介護などの家庭生活に参画するべきである	1	2	3	4	5

問 22. あなたは、子どもの育て方について、どのように考えますか。(〇印いくつでも)

1. 男女の役割を固定せず、しつけや教育は区別しないで育てる
2. 男女ともに、身の回りの家事ができるように育てる
3. 男女ともに、社会人として自立できるように育てる
4. 男女ともに、性に関する正しい知識と理解を身につけさせる
5. 男は外で働き、女は家庭を守るように育てる
6. 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる
7. 子どもの個性に応じて育てる
8. その他 ( )

問 23. あなたは、次にあげるような家庭内の仕事を、主に誰が分担するのが理想だと思いますか。①から⑥のそれぞれについてお答えください。※結婚されていない方も、結婚して子どもがいると仮定してお答えください。(○印1つずつ)

理 想	主に夫	主に妻	夫婦が協力して	家族が協力して	主に子ども	の 人 その他
①掃除・洗濯	1	2	3	4	5	6
②食事のしたく	1	2	3	4	5	6
③食事の後かたづけ・食器洗い	1	2	3	4	5	6
④日常の家計の管理	1	2	3	4	5	6
⑤子育て(育児・しつけ)	1	2	3	4	5	6
⑥家族の介護や看護	1	2	3	4	5	6

問 24. それでは、あなたの家庭では、次にあげるような家庭内の仕事を、実際に誰が分担していますか。(○印1つずつ)

現 実	主に夫	主に妻	夫婦が協力して	家族が協力して	主に子ども	の 人 その他
①掃除・洗濯	1	2	3	4	5	6
②食事のしたく	1	2	3	4	5	6
③食事の後かたづけ・食器洗い	1	2	3	4	5	6
④日常の家計の管理	1	2	3	4	5	6
⑤子育て(育児・しつけ)	1	2	3	4	5	6
⑥家族の介護や看護	1	2	3	4	5	6

## 5

## 地域活動への参加などについておたずねします

問 25. あなたは、現在次のような地域活動に参加していますか。(○印いくつでも)

1. 自治会、婦人会、老人会、PTA、子ども会などの活動
2. 趣味や教養、スポーツ、レクリエーションに関する活動
3. リサイクル、環境保護、まちづくりなどの活動
4. 福祉・ボランティア・NPOなどの活動
5. 防災・防犯などの地域活動
6. 職業技術や資格の取得に関する活動
7. ホームステイ受け入れや海外ボランティアなど国際交流活動
8. 行政の各種委員会や審議会の委員などの公的活動
9. その他 ( )
10. 特に参加していない

問 26. あなたの住んでいる地域での行事や会議など、様々な地域活動において、次のような男女間の格差がありますか。(○印いくつでも)

1. 女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い
2. 女性が意見を言いにくい、意見を取り上げてもらいにくい
3. 役員選挙に女性が出にくい、また選ばれにくい
4. 女性が参加できないものがあるなど、男性と差がある
5. 地域の活動に女性が少ないため歓迎される
6. 地域の活動には女性の方が積極的で活発である
7. その他 ( )
8. わからない
9. 特に男女格差はない

問 27. あなたの住んでいる地域での様々な活動において、男女共同参画を積極的に進めるためには、どのようなことが必要だと思えますか。(○印3つまで)

1. 地域の社会通念や慣習を見直すための啓発活動を充実すること
2. 地域活動のリーダーに女性を積極的に登用すること
3. 女性のリーダーを養成するための講習会などを開催すること
4. 様々な立場の人達が参加しやすいよう活動の時間帯を工夫すること
5. 地域活動やボランティア活動についての情報提供を充実すること
6. 男性も女性も積極的に地域活動に参加すること
7. 家族の理解と協力を得ること
8. その他 ( )
9. わからない



**問 31. (問 30 で 10 と回答された方に) あなたが「どこ(だれ)にも相談しなかった」のは、どのような理由からですか。(○印いくつでも)**

1. どこに相談してよいか、わからなかったから
2. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
3. 相談しても無駄だと思ったから
4. 相談したことがわかると、仕返しや、もっとひどいことをされると思ったから
5. 相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをすと思ったから
6. 自分さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思ったから
7. 世間体が悪いから
8. 他人を巻き込みたくなかったから
9. そのことについて思い出したくなかったから
10. 自分にも悪いことがあると思ったから
11. 相談するほどのことではないと思ったから
12. その他( )

**問 32. 今後、ドメスティック・バイオレンス(DV)を防ぐためには、どのような取組が必要だと思いますか。(○印3つまで)**

1. DVを防止するための広報・啓発活動(教育や講座)を積極的に行う
2. 被害者が相談しやすい環境づくりを図る
3. 被害者が援助を求めやすくするための情報提供を充実する
4. 被害者の一時保護などを行う取組を推進する
5. 加害者への罰則を強化する
6. 雑誌やインターネット等暴力を助長するおそれのある情報を規制する
7. その他( )



問 36. あなたは、次にあげる用語の意味をご存じでしたか。(〇印1つつ)

	内容まで知っている (よく知っている)	名前を見聞きしたことがある程度	知らなかった
<b>①男女共同参画社会</b> →男女が固定的な役割分担意識や慣習にとらわれることなく、それぞれが個性と能力を発揮し、いきいきと暮らすことのできる社会	1	2	3
<b>②男女雇用機会均等法</b> →募集・採用、配置・昇進について、女性に対し男性と均等な機会を与えること。また、定年、退職、解雇などに差別的な取り扱いを禁止している法律。	1	2	3
<b>③仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)</b> →一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たしながら家庭や地域活動などにおいても、多様な生き方・暮らし方が選択できること。	1	2	3
<b>④女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)</b> →女性が、職業生活において、その希望に応じて十分に能力を発揮し、活躍できる環境を整備するための法律。これにより、平成28年4月1日から、労働者301人以上の企業は、女性の活躍推進に向けた行動計画の策定などが新たに義務づけられた。	1	2	3
<b>⑤ジェンダー(社会的性別)</b> →社会的、文化的につくられた「男らしさ」「女らしさ」など、画一的で多数派の性差意識	1	2	3
<b>⑥玉野市男女共同参画推進条例</b> →本市において、男女共同参画を円滑に推進するために、平成14年3月に制定した条例	1	2	3
<b>⑦男女共同参画ページ「ら・めーる」</b> →公募により決定した、本市の男女共同参画ページの愛称。市民編集委員が作成し、年2回「広報たまの」に掲載	1	2	3
<b>⑧玉野市男女共同参画相談支援センター</b> →日常生活の中で抱えているDV、セクハラなど男女の人権に関わる様々な悩み等に対して相談に応じ、相談者自らが問題解決できるようサポートするための相談窓口	1	2	3

